

GA-Z170X-SOC Force

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-Z17XSOF-1001R



製品の詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



地球温暖化の影響を軽減するために、本製品の梱包材料はリサイクルおよび再使用可能です。GIGABYTEは、環境を保護するためにお客様と協力いたします。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declare that the product

Product Type: **Motherboard**

Product Name: **GA-Z170X-SOC Force**

conforms with the essential requirements of the following directives:

- 2004/108/EC EMC Directive:**
 - Conduction & Radiated Emissions: EN 55022:2010
 - Immunity: EN 55024:2010
 - Power-line harmonics: EN 61000-3-2:2006+A2:2009
 - Power-line flicker: EN 61000-3-3:2008

- 2006/95/EC LVD Directive**
 - Safety: EN60950-1:2006+A12:2011

- 2011/65/EU RoHS Directive**
 - Restriction of use of certain substances in electronic equipment: This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.

CE marking



Signature: Timmy Huang

(Name) Date: Sept. 18, 2015 Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-Z170X-SOC Force

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Sept. 18, 2015

著作権

© 2015 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 著作権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。

本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。

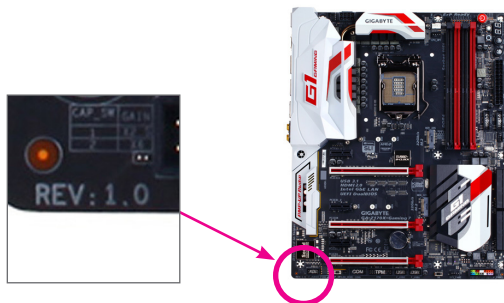
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

例：



目次

ボックスの内容.....	6
GA-Z170X-SOC Force マザーボードのレイアウト.....	7
第 1 章 ハードウェアの取り付け.....	9
1-1 取り付け手順.....	9
1-2 製品の仕様.....	10
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け.....	14
1-3-1 CPU を取り付ける.....	14
1-3-2 CPU クーラーを取り付ける.....	16
1-4 メモリの取り付け.....	17
1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定.....	17
1-4-2 メモリの取り付け.....	18
1-5 拡張カードを取り付ける.....	19
1-6 AMD CrossFire™/NVIDIA® SLI™構成のセットアップ.....	20
1-7 背面パネルのコネクター.....	22
1-8 オンボードボタン、スイッチ、およびLED.....	24
1-9 内部コネクター.....	27
第 2 章 BIOS セットアップ.....	41
2-1 起動画面.....	42
2-2 メインメニュー.....	43
2-3 M.I.T.....	45
2-4 System Information (システムの情報).....	58
2-5 BIOS Features (BIOS の機能).....	59
2-6 Peripherals (周辺機器).....	62
2-7 Chipset (チップセット).....	65
2-8 Power Management (電力管理).....	66
2-9 Save & Exit (保存して終了).....	68
第 3 章 RAID セットを設定する.....	69
3-1 SATA コントローラーを構成する.....	69
3-2 SATA RAID/AHCI ドライバーとオペレーティングシステムの インストール.....	81

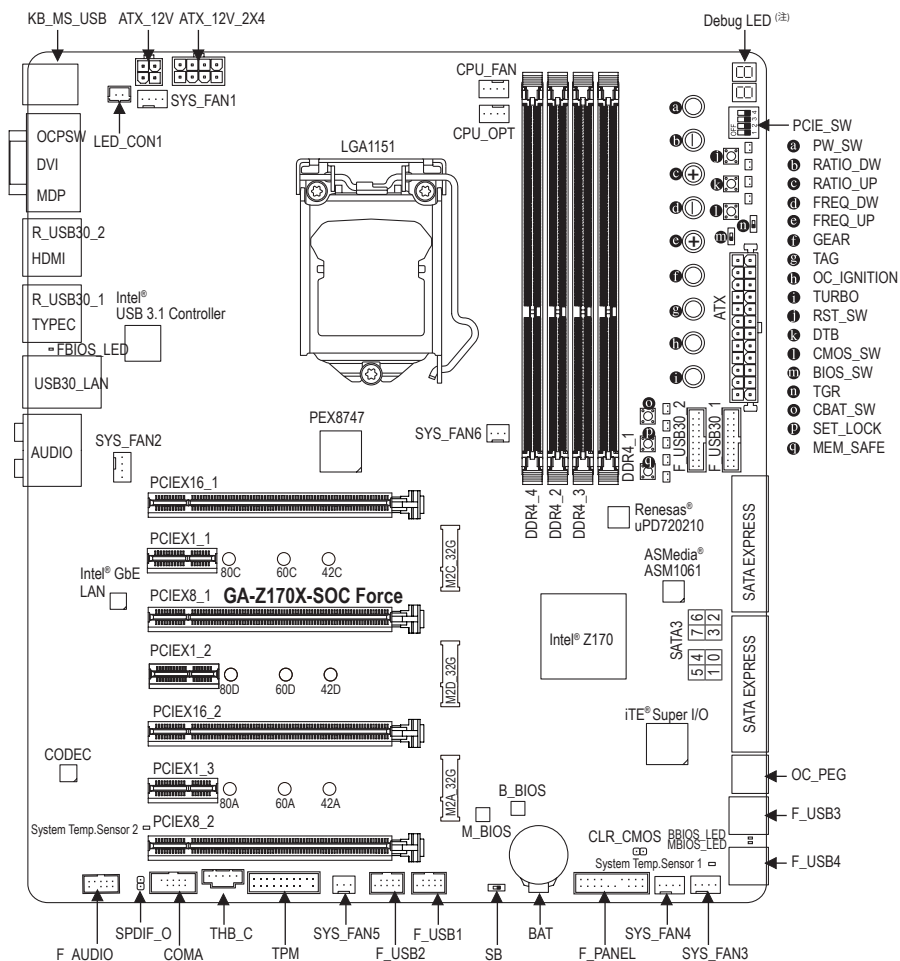
第 4 章	ドライバのインストール.....	85
4-1	Drivers & Software (ドライバとソフトウェア).....	85
4-2	Application Software (アプリケーションソフトウェア).....	86
4-3	Information (情報).....	86
第 5 章	独自機能.....	87
5-1	BIOS 更新ユーティリティ.....	87
5-1-1	Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する.....	87
5-1-2	@BIOS ユーティリティで BIOS を更新する.....	90
5-1-3	Q-Flash Plus を使用する.....	91
5-1-4	GIGABYTE HW OCを使用する.....	92
5-2	APP Center.....	93
5-2-1	EasyTune.....	94
5-2-2	System Information Viewer.....	95
5-2-3	Fast Boot.....	96
5-2-4	Smart TimeLock.....	97
5-2-5	USB Blocker.....	98
5-2-6	Smart Keyboard.....	99
5-2-7	Smart Backup.....	100
5-2-8	Ambient LED.....	102
5-2-9	3D OSD.....	103
5-2-10	Cloud Station.....	104
5-2-11	AutoGreen.....	109
5-2-12	Easy RAID.....	110
5-3	Smart Switch.....	113
第 6 章	付録.....	115
6-1	オーディオ入力および出力を設定.....	115
6-1-1	2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオを設定する.....	115
6-1-2	S/PDIF アウトを構成する.....	117
6-1-3	マイク録音を構成する.....	118
6-1-4	Sound Recorder を使用する.....	120
6-2	トラブルシューティング.....	121
6-2-1	良くある質問.....	121
6-2-2	トラブルシューティング手順.....	122
6-3	LED コードのデバッグ.....	124
	規制声明.....	128
	連絡先.....	131

ボックスの内容

- ☑ GA-Z170X-SOC Force マザーボード
- ☑ マザーボードドライバディスク
- ☑ ユーザーズマニュアル
- ☑ クイックインストールガイド
- ☑ SATAケーブル (x4)
- ☑ I/O シールド
- ☑ 2-way SLIブリッジコネクタ (x1)
- ☑ 3-way SLIブリッジコネクタ (x1)
- ☑ 4-way SLIブリッジコネクタ (x1)
- ☑ 2-way CrossFireブリッジコネクタ (x1)
- ☑ 電圧測定ケーブル (x8)
- ☑ OCブレード x1
- ☑ G コネクタ (x1)
- ☑ 背面 I/O ダストカバー (x1 パック)

上記、ボックスの内容は参照用となります。実際の内容物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

GA-Z170X-SOC Force マザーボードのレイアウト



(注) デバッグコード情報については、第6章を参照してください。









第1章 ハードウェアの取り付け




1-1 取り付け手順







マザーボードには、静電気放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。





- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付けの前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電気放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置か、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを接続するまたは抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温または湿った環境に設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- アダプタ、延長電源ケーブルまたはテーブルタップを使用する場合は、その取り付けおよびまたは接地手順を必ずお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

	CPU	<ul style="list-style-type: none"> ◆ LGA1151 Intel® Core™ i7 プロセッサ/Intel® Core™ i5 プロセッサ/Intel® Core™ i3 プロセッサ/Intel® Pentium® プロセッサ/Intel® Celeron® プロセッサのサポート (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。) ◆ L3 キャッシュは CPUにより異なります
	チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Intel® Z170 Express チップセット
	メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最大 64 GB のシステムメモリをサポートする DDR4 DIMM ソケット (x4) <ul style="list-style-type: none"> * Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限のため、4 GB以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けた物理メモリのサイズより小さくなります。 ◆ デュアルチャンネルメモリ対応 ◆ DDR4 2133 MHz メモリモジュールのサポート ◆ ECC UDIMM 1Rx8/2Rx8 メモリモジュールのサポート (非ECCモードで動作) ◆ 非ECC UDIMM 1Rx8/2Rx8/1Rx16 メモリモジュールのサポート ◆ XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTE の Web サイトを参照ください。)
	オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 統合グラフィックスプロセッサ-Intel®HDグラフィックスのサポート： <ul style="list-style-type: none"> - DVI-Dポート(x1)、1920x1200@60 Hzの最大解像度をサポートします <ul style="list-style-type: none"> * DVI-Dポートは、変換アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。 - Mini-DisplayPort (x1)、4096x2304@60 Hzの最大解像度をサポートします <ul style="list-style-type: none"> * DisplayPortバージョン1.2をサポート。 - HDMIポート(x1)、4096x2160@24 Hzの最大解像度をサポートします <ul style="list-style-type: none"> * HDMIバージョン1.4をサポート。 ◆ 最大3画面の同時表示をサポート ◆ 最大512 MBまでのメモリをシェア可能
	オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Realtek® ALC1150 コーデック ◆ ハイディフィニションオーディオ ◆ 2/4/5.1/7.1 チャンネル ◆ S/PDIF アウトのサポート
	LAN	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Intel® GbE LAN チップ (10/100/1000 Mbit)
	拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PCI Express x16 スロット (x2)、x16 で動作 (PCIEX16_1、PCIEX16_2) <ul style="list-style-type: none"> * 最適なパフォーマンスを出すために、PCI Expressグラフィックスカードを1つしか取り付けけない場合、PCIEX16_1スロットに必ず取り付けてください。PCI Expressグラフィックスカードを2つ取り付ける場合、PCIEX16_1とPCIEX16_2スロットに取り付けることをお勧めします。 ◆ PCI Express x16 スロット (x2)、x8 で動作 (PCIEX8_1、PCIEX8_2) <ul style="list-style-type: none"> * PCIEX8_1スロットはPCIEX16_1スロットと帯域幅を共有し、PCIEX8_2スロットはPCIEX16_2スロットと帯域幅を共有します。PCIEX8_1またはPCIEX8_2が設定されている場合、PCIEX16_1またはPCIEX16_2スロットは最大x8モードで動作します。 ◆ PCI Express x1 スロット (x3) (すべてのPCI Express スロットはPCI Express 3.0規格に準拠しています。)
	マルチグラフィックステクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 4-way/3-way/2-way AMD CrossFire™/NVIDIA® SLI™ テクノロジーのサポート

	ストレージ インター フェイス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - M.2ソケット3 コネクタ (x3) - SATA Express コネクタ (x3) - SATA 6Gb/s コネクタ (x6) (SATA3 0-5) - RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 のサポート * M.2、SATA Express、および SATA コネクタでサポートされる構成については、「1-9 内部コネクタ」を参照してください。 ◆ ASMedia® ASM1061チップ： <ul style="list-style-type: none"> - SATA 6Gb/s コネクタ(x2) (SATA3 6-7)、AHCI モードのみをサポートします
	USB	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット+Intel® USB 3.1 コントローラ： <ul style="list-style-type: none"> - 背面パネル上の USB 3.1 に対応する USB Type-C™ポート (x1) - 背面パネルに1つの USB 3.1 ポート ◆ チップセット： <ul style="list-style-type: none"> - 背面パネルに5つの USB 3.0/2.0 ポート - USB 2.0/1.1ポート (x8) (オンボード2ポート、背面パネルに2ポート、内部USBヘッダを通して4ポートが使用可能) ◆ チップセット+Renesas® USB 3.0 ハブ： <ul style="list-style-type: none"> - USB 3.0/2.0ポート (x4) (内部USBヘッダ経由で使用可能)
	内部コネ クター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ OC PEG電源コネクタ (x1) ◆ SATA Express コネクタ (x3) ◆ SATA 6Gb/s コネクタ (x8) ◆ M.2 ソケット3 コネクタ (x3) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ 水冷ファンヘッダ (CPU_OPT) (x1) ◆ システムファンヘッダ (x6) ◆ I/O シールドのオーディオ LED 電源コネクタ (x1) ◆ Thunderbolt™ アドインカードコネクタ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ヘッダ (x2) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ USB 2.0/1.1ポート (x2) ◆ トラステッドプラットフォームモジュール(TPM)ヘッダ (x1) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ CMOSクリアジャンパ (x1) ◆ 電源ボタン (x1) ◆ リセットボタン (x1) ◆ クリアCMOSボタン (x1) ◆ ギアボタン x1 ◆ OCタグボタン x1 ◆ OCトリガースイッチ x1

 内部コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> ◆ CPU BCLKダウンボタン (x1) ◆ CPU BCLKアップボタン (x1) ◆ CPU倍率ダウンボタン (x1) ◆ CPU倍率アップボタン (x1) ◆ 設定ロックボタン x1 ◆ BIOSダイレクトボタン x1 ◆ メモリセーフボタン (x1) ◆ OC PCIeスイッチ x1 ◆ OCイグニッションボタン x1 ◆ バッテリークリアボタン x1 ◆ DualBIOS スイッチ (x1) ◆ BIOS スイッチ (x1) ◆ オンボード電圧測定モジュール x1
 背面パネルのコンネクター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x2) ◆ PS/2 キーボード / マウスポート (x1) ◆ DVI-D ポート (x1) ◆ OCPSW ボタン (x1) ◆ Mini-DisplayPort (x1) ◆ HDMI ポート (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ポート (x5) ◆ USB 3.1 に対応する USB Type-C™ ポート (x1) ◆ USB 3.1 ポート (x1) ◆ RJ-45 ポート (x1) ◆ 光学 S/PDIF アウトコンネクター (x1) ◆ オーディオジャック (x5) (センター / サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、ラインイン、ラインアウト、マイクイン)
 I/O コントローラー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE I/O コントローラーチップ
 ハードウェアモニター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム/チップセット温度検出 ◆ CPU/CPU OPT/システムファン速度検出 ◆ CPU/システム/チップセット過熱警告 ◆ CPU/CPU OPT/システムファンの異常警告 ◆ CPU/CPU OPT/システムファン速度制御 <ul style="list-style-type: none"> * ファン速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。
 BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 128 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ Q-Flash Plus のサポート <ul style="list-style-type: none"> * USBフラッシュドライブは、USB 2.0対応のフラッシュドライブでなければなりません。 ◆ PnP 1.0a、DMI 2.7、WfM 2.0、SM BIOS 2.7、ACPI 5.0
 独自機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ APP Center のサポート <ul style="list-style-type: none"> * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。

	独自機能	<ul style="list-style-type: none"> - 3D OSD - @BIOS - Ambient LED - AutoGreen - Cloud Station - EasyTune - Easy RAID - Fast Boot - Smart TimeLock - Smart Keyboard - Smart Backup - System Information Viewer - USB Blocker ◆ Q-Flash のサポート ◆ Smart Switch のサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ GIGABYTE HW OC のサポート <ul style="list-style-type: none"> * スマートフォン/タブレットにGoogle PlayおよびApp Storeからアプリをダウンロードしてください。
	バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton® インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Smart Response Technology ◆ cFosSpeed
	オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 10/8.1 64-bit のサポート ◆ Windows 7 64-bit/32-bit のサポート <ul style="list-style-type: none"> * Windows 7をインストールする場合、GIGABYTEのWebサイトから「Windows USB Installation Tool」をダウンロードしてインストールしてください。
	フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ E-ATX フォームファクタ、30.5cm x 26.4cm

* GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。



CPU、メモリモジュール、SSD、および M.2 デバイスのサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



アプリの最新バージョンをダウンロードするには、GIGABYTE の Web サイトのサポートユーティリティリストページにアクセスしてください。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

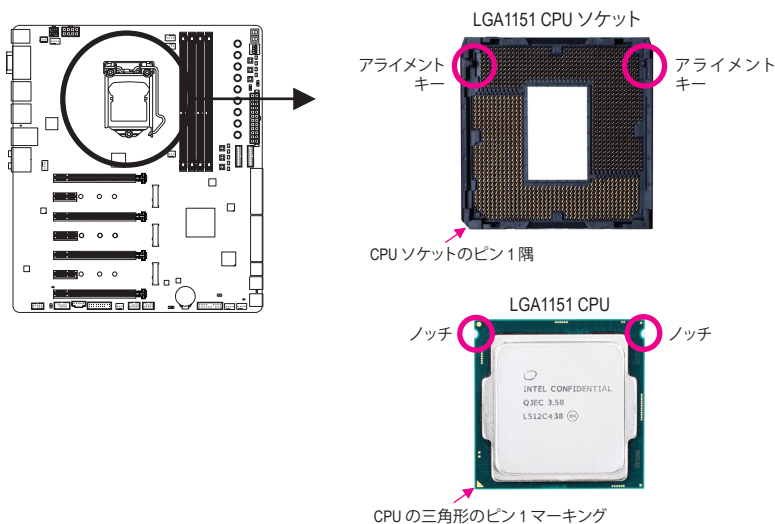


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。
(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します。)
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1 CPU を取り付ける

A. マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。

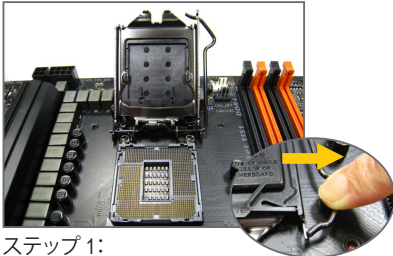


ハードウェア取り付けに関する詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。

B. 以下のステップに従って、CPU をマザーボード の CPU ソケットに正しく取り付けてください。



- CPU を取り付けの前に、CPU の損傷を防ぐためにコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- ソケットピンを保護するために、CPUがCPUソケットに挿入されている場合を除き保護プラスチックカバーを取り外さないでください。



ステップ 1:
CPU ソケットレバーハンドルをそっと押しなが
ら、指でソケットから外します。CPU ソ
ケットレバーを完全に持ち上げると、金
属製ロードプレートも持ち上がります。



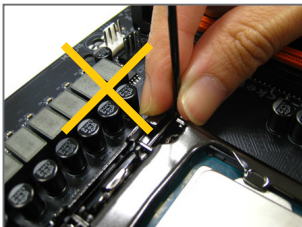
ステップ 2:
CPU を親指と人差し指で抑えます。CPU ピ
ン1のマーキング(三角形)をCPUソケッ
トのピン1隅に合わせ(または、CPUノッチを
ソケットアライメントキーに合わせ)、CPU
を所定の位置にそっと差し込みます。



ステップ 3:
CPUが適切に挿入されたら、ロードプレ
ートを慎重に戻します。ロードプレート
を交換しているとき、ロードプレートのフ
ロントエンドが肩付きねじの下にあるこ
とを確認します。続いてCPUのソケット
レバーを押します。レバーをかみ合
わせている間に、保護プラスチックカ
バーがロードプレートから外れます。
カバーを適切に保管し、CPUが取り付
けられていないときは常にCPUに元通
りに付けてください。



ステップ 4:
最後に、保持タブの下でレバーを固定し
CPUの取り付けを完了します。



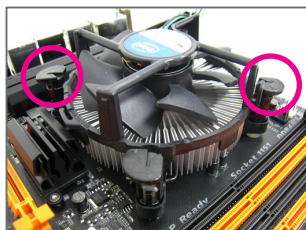
注:
レバーの根元部分ではなく、ハンドルでCPUソ
ケットレバーを支えます。

1-3-2 CPUクーラーを取り付ける

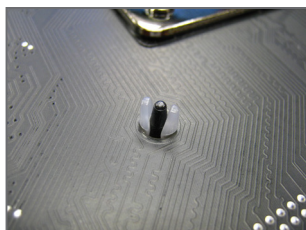
以下のステップを参照して、マザーボードにCPUクーラーを正しく取り付けます。(実際の取り付けプロセスは、使用するCPUクーラーによって異なることがあります。CPUクーラーについては、ユーザーズマニュアルを参照してください。)



ステップ 1:
取り付けた CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。



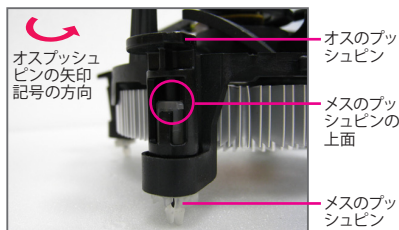
ステップ 3:
クーラーを CPU の上に配置し、マザーボードのピン穴を通して4つのプッシュピンを挿入します。プッシュピンを、対角方向に押し下げてください。




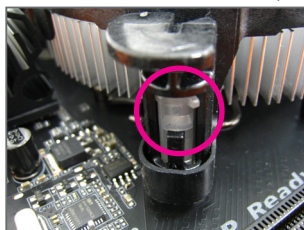
ステップ 5:
取り付け後、マザーボードの背面をチェックします。プッシュピンを上図のように差し込むと、取り付けは完了です。



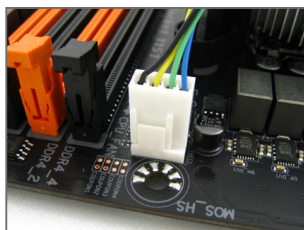
- CPUクーラーとCPUの間の熱伝導グリス(テープ)はCPUにしっかり接着されているため、CPUクーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPUクーラーを不適切に取り外すと、CPUが損傷する恐れがあります。
- このマザーボードには、G1/4サイズの水冷管用継手(バーブ)が接続できます。本製品はバーブは同梱されていない為、任意サイズのもの別途必要です。



ステップ 2:
クーラーを取り付ける前に、オスプッシュピンの矢印記号  の方向に注意してください。(矢印の方向に沿ってプッシュピンを回すとクーラーが取り外され、逆の方向に回すと取り付けられます。)



ステップ 4:
それぞれのプッシュピンを押し下げると、「クリック音」が聞こえます。オスとメスのプッシュピンがしっかり結合していることを確認してください。(クーラーを取り付ける方法については、CPUクーラーの取り付けマニュアルを参照してください。)



ステップ 6:
最後に、CPUクーラーの電源コネクタをマザーボードのCPUファンヘッダ(CPU_FAN)に取り付けてください。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

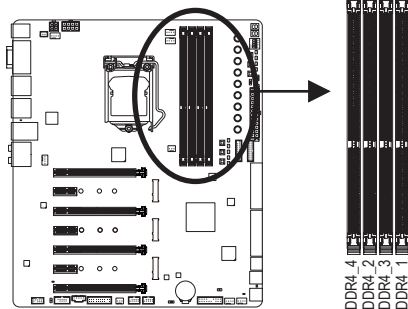
- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには 4つのメモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOS はメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を 2 倍に拡げます。

4つのメモリソケットが 2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように 2つのメモリソケットがあります：

- ▶チャンネル A: DDR4_2, DDR4_4
- ▶チャンネル B: DDR4_1, DDR4_3



▶デュアルチャンネルメモリ構成表


	DDR4_4	DDR4_2	DDR4_3	DDR4_1
2つのモジュール	--	DS/SS	--	DS/SS
	DS/SS	--	DS/SS	--
4つのモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

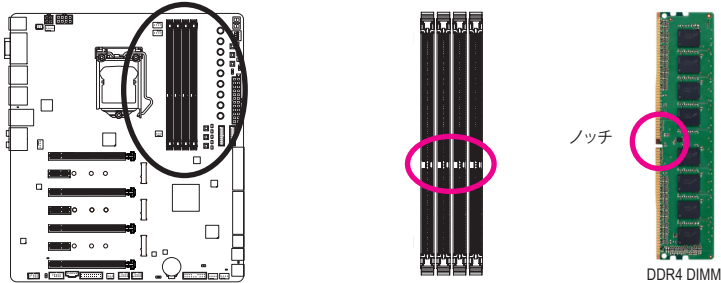
(SS=片面、DS=両面、「--」=メモリなし)

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

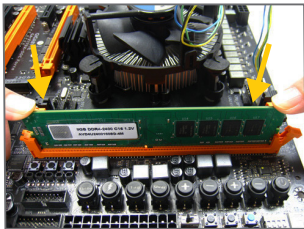
- メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2または4枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にした場合、最適なパフォーマンスを発揮するためには同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用し、同じ色のソケットに取り付けるようにお勧めします。

1-4-2 メモリの取り付け

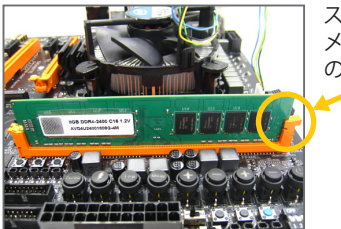
 メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。DDR4 と DDR3 DIMM は、相互に、また、DDR2 DIMM と互換性がありません。このマザーボードにDDR4 DIMM を取り付けていることを確認してください。



DDR4 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリスロットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



ステップ 1:
メモリモジュールの方向に注意します。メモリスロットの両端の保持クリップを広げます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリスロットに垂直に差し込みます。



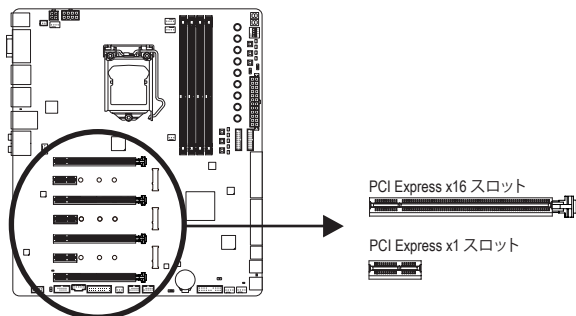
ステップ 2:
メモリモジュールがしっかり差し込まれると、ソケットの右端のクリップがカチッと音を立てて所定の位置に収まります。

1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



以下のステップに従って、拡張カードを拡張スロットに正しく取り付けてください。

1. カードをサポートする拡張スロットを探します。PCケース背面パネルから、金属製スロットカバーを取り外します。
2. カードをスロットに合わせ、スロットに完全にはまりこむまでカードを押し下げます。
3. カードの金属接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
4. カードの金属ブラケットをねじでPCケース背面パネルに固定します。
5. 拡張カードをすべて取り付けたら、PCケースカバーを元に戻します。
6. コンピュータの電源をオンにします。必要に応じて、BIOSセットアップに移動し拡張カードに必要なBIOS変更を行います。
7. 拡張カードに付属するドライバをオペレーティングシステムにインストールします。

例：PCI Expressグラフィックスカードの取り付けと取り外し：



- グラフィックスカードを取り付ける：
カードの上端がPCI Expressスロットに完全に挿入されるまで、そっと押し下げます。カードがスロットにしっかり装着され、ロックされていることを確認します。



- カードを取り外す：
スロットのレバーをそっと押し返し、カードをスロットからまっすぐ上に持ち上げます。

1-6 AMD CrossFire™/NVIDIA® SLI™構成のセットアップ

A. システム要件

- Windows 10/8.1/7 オペレーティングシステム
- CrossFire/SLI対応のマザーボード (PCI Express x16スロットを2つ適合するドライバが必要)
- 同じブランドのCrossFire/SLI対応グラフィックスカードおよびチップと正しいドライバ
(3-way/4-way CrossFireテクノロジーをサポートする現在のGPUには、ATI Radeon™ HD 3800、HD 4800、HD 5800シリーズ、およびAMD Radeon™ HD 6800、HD 6900、HD 7800、とHD 7900シリーズがあります。3-way/4-way SLI™技術をサポートする現在のGPUには、NVIDIA® 8800 GTX、8800 Ultra、9800 GTX、GTX 260、GTX 280、GTX 470、GTX 480、GTX 570、GTX 580、GTX 590、およびGTX 600シリーズなどがあります。最新の GPU のサポートす情報については、AMD/NVIDIA® のウェブサイト参照してください。)
- CrossFire^(注1)/SLIブリッジコネクター
- 十分な電力のある電源装置を推奨します (電源要件については、グラフィックスカードのマニュアルを参照してください)^(注2)

B. グラフィックスカードを接続する

ステップ 1:

「1-5 拡張カードを取り付ける」のステップに従って、PCI Express x16スロットにのCrossFire/SLIグラフィックスカードを取り付けます。(2-way構成をセットアップするには、PCIEX16_1とPCIEX16_2スロットにグラフィックスカードを取り付けることをお勧めします。(3-way構成をセットアップするには、PCIEX16_1、PCIEX8_1とPCIEX16_2スロットにグラフィックスカードを取り付けることをお勧めします。)

ステップ 2:

カードの上部にあるCrossFire/SLI金縁コネクターにCrossFire^(注1)/SLIブリッジコネクターを挿入します。

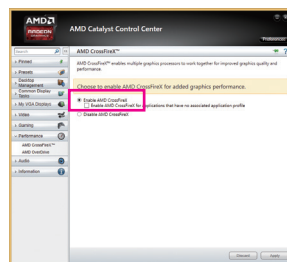
ステップ 3:

ディスプレイカードを PCIEX16_1 スロットに差し込みます。

C. グラフィックスカードドライバを構成する

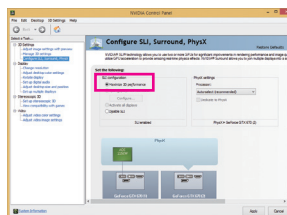
C-1. CrossFire 機能を有効にする

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、AMD Catalyst Control Centerに移動します。PerformanceAMD CrossFireX™ を閲覧し、Enable AMD CrossFireX を有効にするチェックボックスが選択されていることを確認します。お使いのシステムに2枚以上のCrossFireカードをお持ちである場合、使用したいGPUの組み合わせを選択し、そしてApplyを実行してください。(使用可能な組み合わせのオプションは、取り付けられたグラフィックスカードの数によって異なります。)



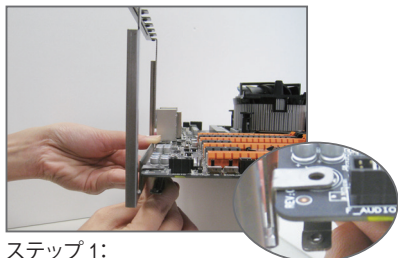
C-2. SLI機能を有効にする

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、NVIDIA Control Panel/パネルに移動します。Configure SLI, Surround, PhysX の設定画面を閲覧し、Maximize 3D performanceが有効になっていることを確認してください。

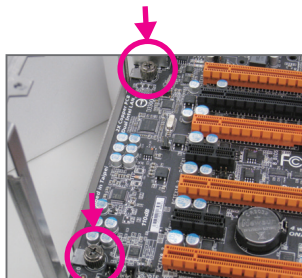


D. OCブレースのインストール (注3)

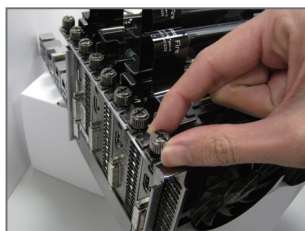
OCブレースにより、オーバークロッカーとパワーユーザーは、PCIeスロット損傷のリスクなく、またはPCIeスロットとの接触不良により、ビデオカードがOSで誤認識され表示されないということがないよう、テストベッドに最大4個のグラフィックカードを安全に取り付けられるようになります。次の取り付けの指示に従ってください。



ステップ 1:
示すとおり、OCブレースのねじ穴と背面プレートをマザーボードのPCIeスロット付近のねじ穴と揃えます。



ステップ 2:
付属の 2 個の蝶ネジを締めます (背面パネルのオーディオコネクタに近い穴を先にします)。



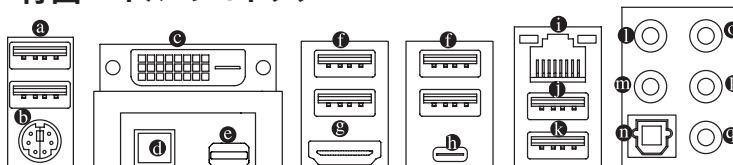
ステップ 3:
グラフィックカードを取り付けたら、付属の蝶ネジを用いてグラフィックカードの金属製ブラケットをOCブレースに固定します。

- (注 1) ブリッジコネクタはグラフィックスカードによって必要としない場合があります。
- (注 2) 2つ以上のグラフィックカードが取り付けられている場合、電源からの電源ケーブルを OC_PEGコネクタに接続してシステムの安定性を確保するようお勧めします。
- (注 3) お受け取りになるコンポーネントは、図の製品と外観が異なっていることがあります。



CrossFire/SLIテクノロジーを有効にするための手順とドライバ画面は、グラフィックスカードによりわずかに異なります。CrossFire/SLI を有効にする方法について、詳細はグラフィックスカードに付属のマニュアルを参照してください。

1-7 背面パネルのコネクター



a USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。このポートを USB デバイス用に使用します。

b PS/2キーボード/マウスポート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードを接続します。

c DVI-D ポート (注)

DVI-DポートはDVI-D仕様に準拠しており、1920x1200@60 Hzの最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。)DVI-D接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

d OCPSWボタン

このボタンは、オーバークロック状態をスマートフォン/タブレットデバイスを使用してコンピュータを監視することができます。この機能の使用方法については、第5章「GIGA-BYTE HW OCを使用する」を参照ください。

e Mini-DisplayPort

DisplayPortは、双方向音声送信をサポートする高品質デジタル画像処理とオーディオを提供します。DisplayPortは、DPCPとHDCPの両方のコンテンツ保護メカニズムをサポートできます。このポートを使用して、Mini-DisplayPortをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は4096x2304@60 Hzですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。

f USB 3.0/2.0 ポート

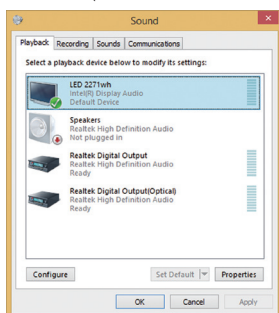
USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

g HDMI ポート

HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーTrue HDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192 KHz/24ビットの8チャンネルLPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160@24 Hzですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



- トリプルディスプレイ構成を設定する場合、予めオペレーティングシステムにマザーボードのドライバをインストールする必要があります。
- HDMI/Mini-DisplayPort機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMI/DisplayPortに設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。)



Windows 8.1で、Apps>コントロールパネル>ハードウェアおよびサウンド>サウンド>再生を選択し、Intel(R) Display Audioをデフォルト再生デバイスに設定します。

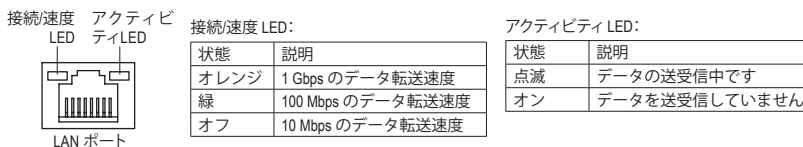
(注) DVI-D ポートは、変換アダプタによる D-Sub 接続をサポートしていません。

④ USB Type-C™ ポート

リバーシブル USB ポートは USB 3.1 仕様をサポートし、USB 3.0/2.0 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

⑤ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。



⑥ USB 3.0/2.0 ポート (白)

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。Q-Flash Plus を使用する前に、このポートに USB フラッシュドライブ^(注)を挿入してください。

⑦ USB 3.1 ポート

USB 3.1 ポートは USB 3.1 仕様をサポートし、USB 3.0/2.0/1.1 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

⑧ センター/サブウーファースピーカーアウト (オレンジ)

このオーディオジャックを使って、5.1/7.1チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

⑨ リアスピーカーアウト (黒)

このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でリアスピーカーを接続するために使用することができます。

⑩ 光学 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクタが装備されていることを確認してください。

⑪ ラインイン (青)

ラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑫ ラインアウト (緑)

ラインアウトジャックです。この音声出力ジャックは、音声増幅機能をサポートしています。より良い音質をご使用いただく場合、このジャックにヘッドフォン/スピーカーに接続することを推奨します。(実際の効果は、使用されているデバイスによって異なる場合があります)。ヘッドフォンまたは2チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑬ マイクイン (ピンク)

マイクインジャックです。



サウンドサドル側面スピーカーを接続する場合は、オーディオ・ドライバーの設定より「ライン入力」または「マイク入力」ジャックを転用する必要があります。第6章「2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオの設定」の、2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオ設定の設定に関する指示を参照してください。



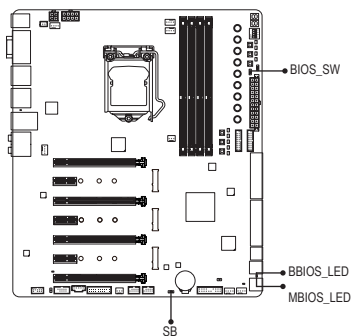
- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

(注) USBフラッシュドライブは、USB 2.0対応フラッシュドライブでなければなりません。

1-8 オンボードボタン、スイッチ、およびLED

BIOSスイッチとBIOS LEDインジケータ

BIOSスイッチ(BIOS_SW)により、異なるBIOSを容易に選択して起動させ、オーバークロックを行い、オーバークロックの間BIOS障害を低減することができます。DualBIOSスイッチ(SB)により、デュアルBIOS機能を有効または無効にできます。LEDインジケータ (M BIOS_LED/ B BIOS_LED)は、アクティブなBIOSを示します。



BIOS スイッチ (BIOS_SW):



1:メインBIOS (メインBIOSから起動)



2:バックアップBIOS (バックアップBIOSから起動)

DualBIOS スイッチ (SB):



1: Dual BIOS



2: Single BIOS

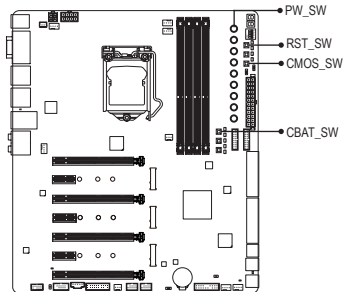
BIOS LEDインジケータ:

M BIOS_LED (メインBIOSがアクティブです)

B BIOS_LED (バックアップBIOSがアクティブです)

クイックボタン

マザーボードには電源、リセット、クリアCMOS、およびバッテリークリアという4つのクイックボタンがあります。電源ボタンとリセットボタンでは、ハードウェアコンポーネントを変更したりハードウェアテストを実行するとき、ケースを開いた環境下でコンピュータのオン/オフまたはリセットを素早く行うことができます。このボタンを使用すると、BIOS 設定をクリアし、必要に応じて CMOS 値を出荷時既定値にリセットできます。バッテリークリアボタンには、マザーボードからバッテリーを取り外すのと同じ機能があります。



PW_SW: 電源ボタン

RST_SW: リセットボタン

CMOS_SW: クリアCMOSボタン

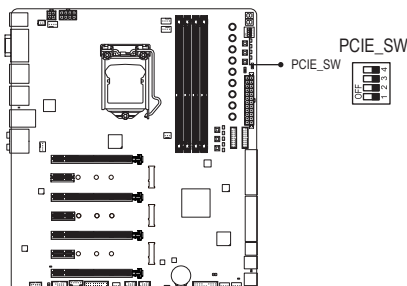
CBAT_SW: バッテリークリアボタン



- クリアCMOSを使用する前に、必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- バッテリークリアボタンを用いる前に必ず電源をオフにしてください。このボタンを押したら、必ず5分待ってからコンピュータの電源をオンにしてください。
- システムの電源がオンのときはCMOS クリアボタンまたはバッテリークリアボタンを使用しないでください。システムがシャットダウンしてデータが失われたり、損傷が起こる恐れがあります。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第2章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

OC PCIeスイッチ (PCI_E_SW)

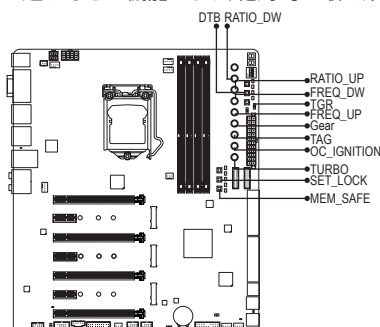
このスイッチにより、物理的に取り外すことなく特定のPCI Expressスロットを手動でオフにできます (PCI Express x1スロットを除きます)。



スロット	DIP設定			
	DIP 1	DIP 2	DIP 3	DIP 4
PCIEX16_1の無効化	OFF	ON	ON	ON
PCIEX8_1の無効化	ON	OFF	ON	ON
PCIEX16_2の無効化	ON	ON	OFF	ON
PCIEX8_2の無効化	ON	ON	ON	OFF

OCボタン

GIGABYTE独自のOCボタンは、パワーユーザーとオーバークロッカーがハードウェアから最高性能を得られるだけでなく、リアルタイムCPUオーバークロック、プロセッサとメモリに最適なオーバークロック構成の自動読み込み、およびユーザーがカスタマイズした設定の読み込みなどの機能により、絶対的に最も楽しいOC体験も得られます。



CPU倍率ダウンボタン (RATIO_DW):

CPU使用率を低くします。

CPU倍率アップボタン (RATIO_UP):

CPU使用率を高くします。

CPU BCLKダウンボタン (FREQ_DW):

CPUのベースクロックを低くします。

CPU BCLKアップボタン (FREQ_UP):

CPUのベースクロックを高くします。

ギアボタン (GEAR):

0.1 MHzまたは1 MHz単位でBCLKステッピングを変更します。

OCタグボタン (TAG):

このボタンにより、CMOS をクリア後にカスタム設定を適用できるようにカスタマイズ設定を読み込みます (BIOS 設定で作成される Save to Tag プロファイルを使用)。

OCイグニッションボタン (OC_IGNITION):

OCイグニッション機能は、システムのシャットダウン中にマザーボードおよび接続されたコンポーネントの電力を維持します。このボタンを押したら、必ず電源ボタンを押して有効にしてください。この機能が有効になっている場合、システムはS3モードに入ることができませんのでご注意ください。

OCターボボタン:(TURBO)

このボタンを押すと、お使いのプロセッサとメモリにGIGABYTEの最適なオーバークロック構成を読み込みます。

BIOSダイレクトボタン (DTB):

このボタンにより、ユーザーはシステム再起動前にいつでもより直接BIOSに入りやすくなります。(POST処理中にこのボタンを押すと、即時にBIOS設定に入ることができます。POST 処理後にこのボタンを押すと、次回起動時に直接 BIOS 設定に入ります。)

メモリセーフボタン (MEM_SAFE):


メモリセーフボタンを押すとフェールセーフモードに入ります。ここでは、システムはDDR3のDIMM速度またはCASレイテンシの設定内容に関わらず、セーフメモリ構成で起動します。動作チェック後にシステムは再起動します。注:メモリセーフに入ると、システムメモリ性能に影響を与えることがあります。)

設定ロックボタン (SET_LOCK):

GIGABYTEの設定ロックボタンにより、システムはCMOSをクリアした後も、自動的に直前に成功した設定を記憶します。ワンタッチで、設定ロックボタンは以前の良好な設定に素早く戻します。BIOSを完璧に変えるオーバークロッカーには非常に役立つツールです。

OCTリガースイッチ (TGR):

このスイッチにより、オーバークロッカーはすぐに低周波数と超高周波数間をジャンプできるようになります。システム起動およびOSの最適化中に低周波数のままにした後、オーバークロッカーはトリガースイッチを入れて即時に対象周波数に当て、スコア送信を保存し、スクリーンショットを取り込み、レコードタンブルを見ることができます。

 1: BIOS設定または他のオーバークロッキングアプリケーションで設定した対象周波数

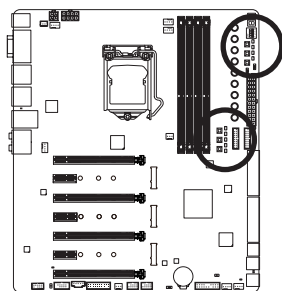
 2: 安全な周波数 (最低CPU率はCPUによって異なります)







オーバークロック ボタンを使用する前に、BIOS設定を工場出荷時設定に戻すため、必ずBIOSセットアップの最適化された初期設定を読み込んでください。






オンボード電圧測定モジュール

以下のマザーボードの電圧を測定するためにマルチメータを使用します。コンポーネントの電圧を測定するには、次の2つの方法のいずれかを用います。

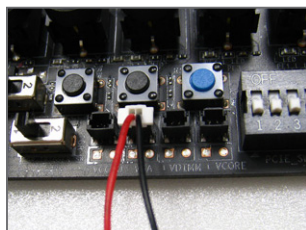


Pin 1  VCORE
Pin 1  VDIMM
Pin 1  VSA
Pin 1  VCCIO

ピン番号	定義
1	電源
2	GND

Pin 1  DDRVTT
Pin 1  VCCPLL
Pin 1  VAXG
Pin 1  PCHIO
Pin 1  VPP_25V

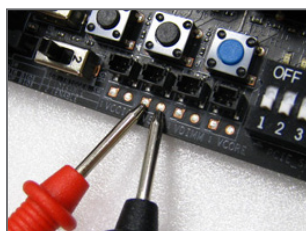
方法I (付属の電圧測定ケーブルの使用):



ステップ:

図のように、付属の測定ケーブルを電圧測定ヘッダーとお使いのマルチメーターに接続します。赤い線がプラスでピン1 (電源) に接続する必要がありますのでご注意ください。

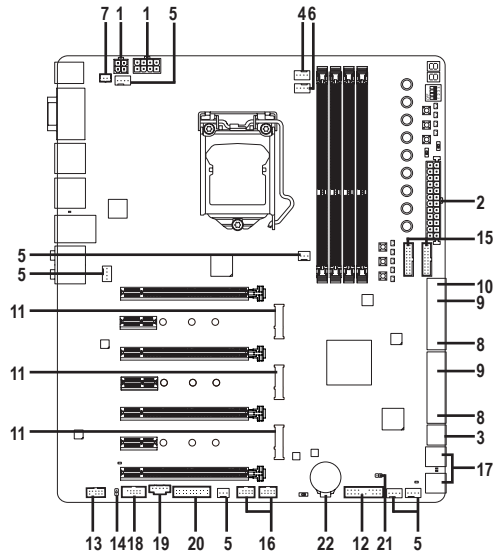
方法II (直接マルチメーターに接続する):



ステップ:

マルチメーターの赤いリード線を、電圧測定ポイントのピン(電源)に、黒いリード線をピン2(アース)に接続します。

1-9 内部コネクタ



1) ATX_12V_2X4/ATX_12V	12) F_PANEL
2) ATX	13) F_AUDIO
3) OC_PEG	14) SPDIF_O
4) CPU_FAN	15) F_USB30_1/F_USB30_2
5) SYS_FAN1/2/3/4/5/6	16) F_USB1/F_USB2
6) CPU_OPT	17) F_USB3/F_USB4
7) LED_CON1	18) COMA
8) SATA EXPRESS	19) THB_C
9) SATA3 0/1/2/3/4/5	20) TPM
10) SATA3 6/7	21) CLR_CMOS
11) M2C_32G/M2D_32G/M2A_32G	22) BAT




外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

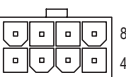
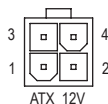
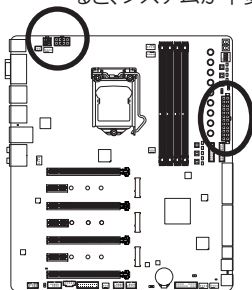
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX_12V_2X4/ATX (2x2、2x4 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。

12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



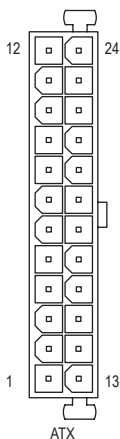
ATX_12V_2X4

ATX_12V:

ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

ATX_12V_2X4:

ピン番号	定義
1	GND (2x4ピン12Vのみ)
2	GND (2x4ピン12Vのみ)
3	GND
4	GND
5	+12V (2x4ピン12Vのみ)
6	+12V (2x4ピン12Vのみ)
7	+12V
8	+12V

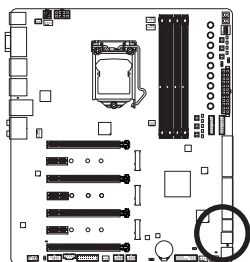


ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3) OC_PEG (PCIe電源コネクタ)

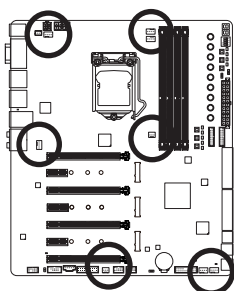
電源コネクタは、オンボードPCI Express x16スロットに補助電源を提供します。2つ以上のグラフィックカードが取り付けられている場合、電源からこのコネクタに2x3電源ケーブルを接続してシステムの安定性を確保するようお勧めします。



ピン番号	定義
1	+12V
2	+12V
3	+12V
4	GND
5	GND
6	GND

4/5) CPU_FAN/SYS_FAN1/2/3/4/5/6 (ファンヘッダ)

マザーボードには4ピンCPUファンヘッダ(CPU_FAN)、4つの4ピン (SYS_FAN1/SYS_FAN2/SYS_FAN3/SYS_FAN4) および2つの3ピン (SYS_FAN5/SYS_FAN6) システムファンヘッダが搭載されています。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN



SYS_FAN2



SYS_FAN1/3/4



SYS_FAN5/SYS_FAN6

CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN1/2/3/4:

ピン番号	定義
1	GND
2	速度制御
3	検知
4	VCC

SYS_FAN5/6:

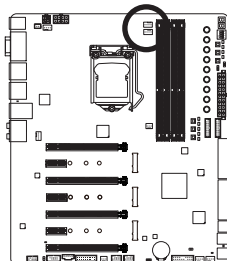
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	NC



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

6) CPU_OPT (水冷式 CPU ファンヘッド)

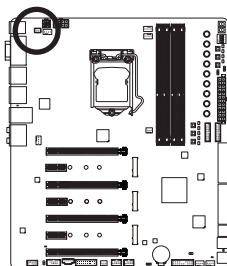
ファンヘッドは 4 ピンで、簡単に接続できるように設計されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。



ピン番号	定義
1	GND
2	速度制御
3	検知
4	VCC

7) LED_CON1 (I/O シールドのオーディオ LED 電源コネクタ)

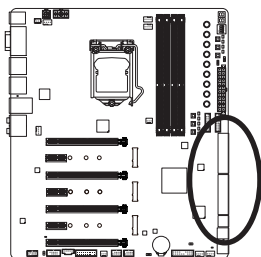
電源コネクタは、マザーボードの背面パネル上の I/O シールドの LED に電源を供給します。



ピン番号	定義
1	+5V
2	LED Control

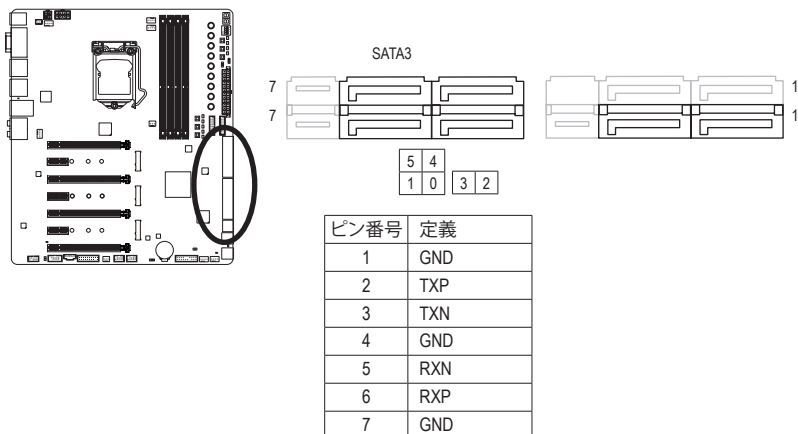
8) SATA EXPRESS (SATA Express コネクタ)


各 SATA Express コネクタは、単一の SATA Express デバイスをサポートします。



9) SATA3 0/1/2/3/4/5 (SATA 6Gb/s コネクタ、Intel® Z170 チップセット)

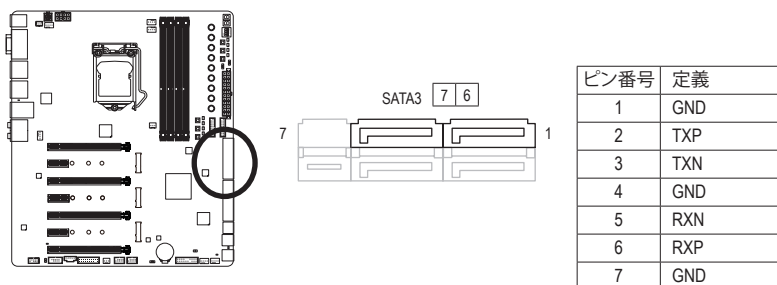
SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。Intel® チップセットは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



 SATAポート ホットプラグを有効にするには、第2章を参照してください、「BIOSセットアップ」、「周辺機器/SATA設定」を参照してください。

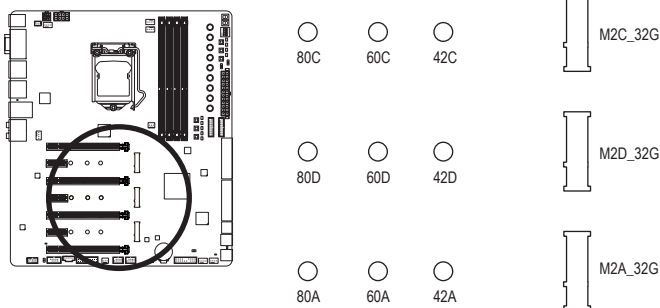
10) SATA3 6/7 (SATA 6Gb/sコネクタ、ASMedia® ASM1061 チップ制御)

SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。

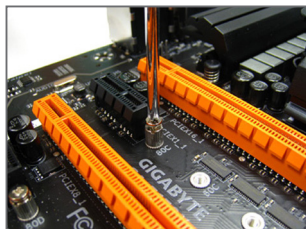


11) M2C_32G/M2D_32G/M2A_32G (M.2 ソケット3 コネクター)

M.2 コネクターは、M.2 SATA SSD および M.2 PCIe SSD をサポートし、Intel® チップセットを通して RAID 構成をサポートします。M.2 PCIe SSD を M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブを用いて RAID セットを構築することはできません。UEFI 設定から RAID 設定の構築することができますのでご注意ください。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



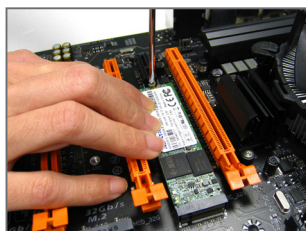
M.2コネクターにM.2対応SSDに増設する場合、以下の手順に従ってください。



ステップ 1:
スクレュードライバーを使用してマザーボードからネジとナットを緩めてください。取り付け穴の位置を確認してから、最初にナットを締めます。



ステップ 2:
コネクターに斜めの角度でM.2対応SSDをスライドさせます。



ステップ 3:
M.2対応SSDを下に押ししてからネジで固定します。



ステップ 4:
上の写真のように取り付けを完了します。



マザーボード上にM.2対応SSD用の3つの長さ調整穴があります。インストールするM.2対応SSDを固定する適切な穴を選択し、ネジとナットを締め直してください。

▶ M.2 SSDは複数の接続タイプ (SATA、PCIe x4、PCIe x2) があるため、それぞれに対応している SATAコントローラーのモード (AHCIまたはRAID) を以下の表から参照してください。

• AHCI モード:

M2C_32G M.2 コネクタ

コネクタ	SATA3_0	SATA3_1	SATA3_2	SATA3_3	SATA3_4	SATA3_5
SSDのタイプ	SATA Express		SATA Express		SATA Express	
SATA SSD	✓	✓	✓	✓	✗	✓
	✓		✓		✗	
PCIe x4 SSD	✓	✓	✓	✓	✗	✗
	✓		✓		✓ ^(注)	
PCIe x2 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	
No SSDs Installed	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	

✓:サポートされる、✗:サポートされません。

M2D_32G M.2 コネクタ

コネクタ	SATA3_0	SATA3_1	SATA3_2	SATA3_3	SATA3_4	SATA3_5
SSDのタイプ	SATA Express		SATA Express		SATA Express	
SATA SSD	✓	✓	✓	✗	✓	✓
	✓		✗		✓	
PCIe x4 SSD	✗	✗	✗	✗	✓	✓
	✓ ^(注)		✗		✓	
PCIe x2 SSD	✓	✓	✗	✗	✓	✓
	✓		✗		✓	
No SSDs Installed	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	

✓:サポートされる、✗:サポートされません。

M2A_32G M.2 コネクタ

コネクタ	SATA3_0	SATA3_1	SATA3_2	SATA3_3	SATA3_4	SATA3_5
SSDのタイプ	SATA Express		SATA Express		SATA Express	
SATA SSD	✗	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	
PCIe x4 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	
PCIe x2 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	
No SSDs Installed	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	

✓:サポートされる、✗:サポートされません。

(注) PCIe x4 SSD は、2 倍速で稼働します。

• RAID モード:

M2C_32G M.2 コネクタ

コネクタ	SATA3_0	SATA3_1	SATA3_2	SATA3_3	SATA3_4	SATA3_5
SSDのタイプ	SATA Express		SATA Express		SATA Express	
SATA SSD	✓	✓	✓	✓	×	✓
	✓		✓		×	
PCIe x4 SSD	✓	✓	✓	✓	×	×
	✓		✓		✓ ^(注)	
PCIe x2 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	×
	✓		✓		×	
No SSDs Installed	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	

✓:サポートされる、×:サポートされません。

M2D_32G M.2 コネクタ

コネクタ	SATA3_0	SATA3_1	SATA3_2	SATA3_3	SATA3_4	SATA3_5
SSDのタイプ	SATA Express		SATA Express		SATA Express	
SATA SSD	✓	✓	✓	×	✓	✓
	✓		×		✓	
PCIe x4 SSD	×	×	×	×	✓	✓
	✓ ^(注)		×		✓	
PCIe x2 SSD	✓	✓	×	×	✓	✓
	✓		×		✓	
No SSDs Installed	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	

✓:サポートされる、×:サポートされません。

M2A_32G M.2 コネクタ

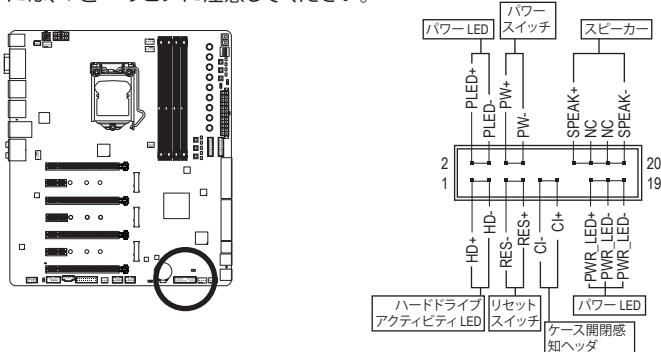
コネクタ	SATA3_0	SATA3_1	SATA3_2	SATA3_3	SATA3_4	SATA3_5
SSDのタイプ	SATA Express		SATA Express		SATA Express	
SATA SSD	×	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	
PCIe x4 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	
PCIe x2 SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	
No SSDs Installed	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	✓		✓		✓	

✓:サポートされる、×:サポートされません。

(注) PCIe x4 SSD は、2 倍速で稼働します。

12) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

下記のピン配列に従い、パワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカー、PCケース開閉感知ヘッダ、ケースのインジケータ（パワーLEDやHDD LEDなど）を接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



- **PLED/PWR_LED (電源LED、黄/紫):**

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

- **PW (パワースイッチ、赤):**

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理、」を参照してください)。

- **SPEAK (スピーカー、オレンジ):**

PCケースの前面パネル用スピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が1度鳴ります。

- **HD (ハードドライブアクティビティ LED、青):**

PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。

- **RES (リセットスイッチ、緑):**

PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

- **CI (PC ケース開閉感知ヘッダ、グレー):**

PCケースカバーが取り外されている場合、PCケースの検出可能なPCケース開閉感知スイッチ/センサーに接続します。この機能は、PCケース開閉感知スイッチ/センサーを搭載したPCケースを必要とします。

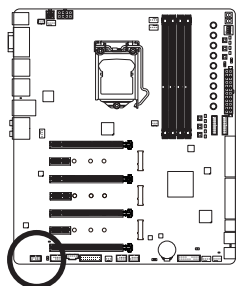
- **NC (オレンジ):** 接続なし。



前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

13) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel® ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。PCケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	検知
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	検知

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC/パワー
4	NC
5	ラインアウト(右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト(左)
10	NC

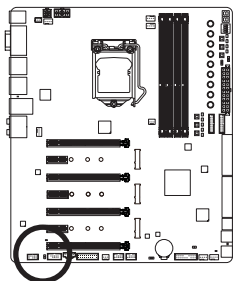


- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。PC ケースに AC'97 前面パネルのオーディオモジュールが搭載されている場合、オーディオソフトウェアを介して AC'97 機能をアクティブにする方法については、第 6 章「2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオの設定」の使用説明を参照してください。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。背面パネルのオーディオ (HD 前面パネルオーディオモジュールを使用しているときのみサポート) を消音にする場合、第 6 章の「2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオを設定する」を参照してください。
- PC ケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクタの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PC ケースメーカーにお問い合わせください。

14) SPDIF_O (S/PDIF出力用ヘッダ)

このヘッダはデジタルS/PDIF出力をサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIFデジタルオーディオケーブル (拡張カードに付属) を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。

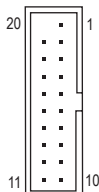
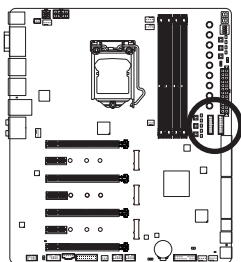
S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。




ピン番号	定義
1	SPDIF0
2	GND

15) F_USB30_1/F_USB30_2 (USB 3.0/2.0 ヘッダ)

ヘッダはUSB 3.0/2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.0/2.0対応 2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。

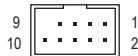
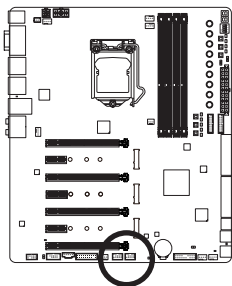


ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし


 USB前面パネルを取り付ける前に、USB前面パネルが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

16) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



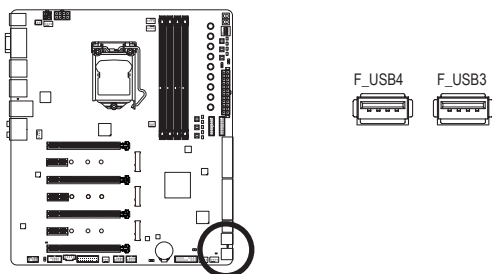
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USBブラケットを取り付ける前に、USBブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

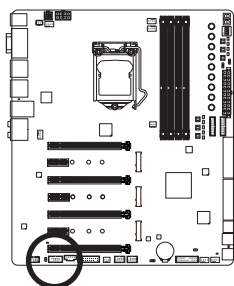
17) F_USB3/F_USB4 (USB 2.0/1.1 ポート)

極端なオーバーロックキングをするか、または背面パネルの入出力へのアクセスが不便になる1ケース内に最終コンポーネントを取り付けるシナリオの前にPCの事前テストをする場合、2つのUSB 2.0/1.1ポートによりデータ保存、BIOSのフラッシュ、またはオープンベンチテストプラットフォームが行いやすくなります。



18) COMA (シリアルポートヘッダ)

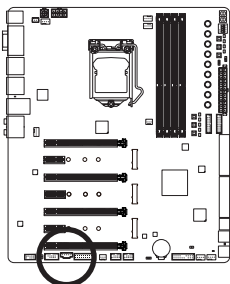
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	ND CD-
2	NS IN
3	NS OUT
4	ND TR-
5	GND
6	NDSR-
7	NRTS-
8	NCTS-
9	NRI-
10	ピンなし

19) THB_C (Thunderbolt™ アドインカードコネクタ)

このコネクタは、GIGABYTE Thunderbolt™ アドインカード用です。



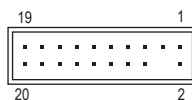
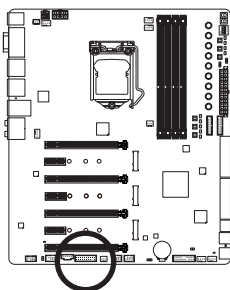
ピン番号	定義
1	GPIOA
2	GPIOB
3	N_-SLP_S3
4	N_-S4_S5
5	GND



Thunderbolt™ アドインカードをサポートします。

20) TPM (TPMモジュール用ヘッダー)

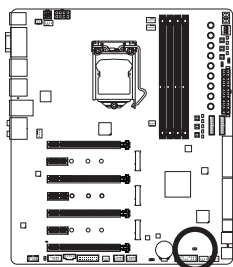
TPM (TPMモジュール) をこのヘッダーに接続できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	LCLK	11	LAD0
2	GND	12	GND
3	LFRAME	13	NC
4	ピンなし	14	NC
5	LRESET	15	SB3V
6	NC	16	SERIRQ
7	LAD3	17	GND
8	LAD2	18	NC
9	VCC3	19	NC
10	LAD1	20	SUSCLK

21) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。



□ □ オープン:Normal

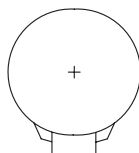
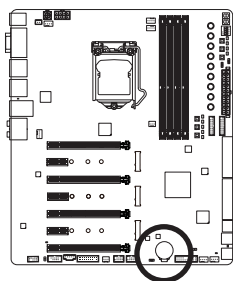
□ □ ショート:CMOSのクリア



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第2章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

22) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1 分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータの電源をオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

第 2 章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。

Q-Flash および @BIOS ユーティリティの使用に関する使用説明については、第 5 章、「BIOS 更新 ユーティリティ」を参照してください。



- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたはクリア CMOS ジャンプ ボタン概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。



機能キー：

:BIOS SETUP/Q-FLASH

<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入り、BIOSセットアップでQ-Flashユーティリティにアクセスします。

<F9>:SYSTEM INFORMATION

<F9> キーを押すとシステム情報が表示されます。

<F12>:BOOT MENU

起動メニューにより、BIOS セットアップに入ることなく第 1 起動デバイスを設定できます。起動メニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を用いて第 1 起動デバイスを選択し、次に <Enter> キーを押して確定します。システムはそのデバイスから起動します。

注：起動メニューの設定は 1 回のみ有効です。システム再起動後のデバイスの起動順序は BIOS セットアップの設定の順序となります。

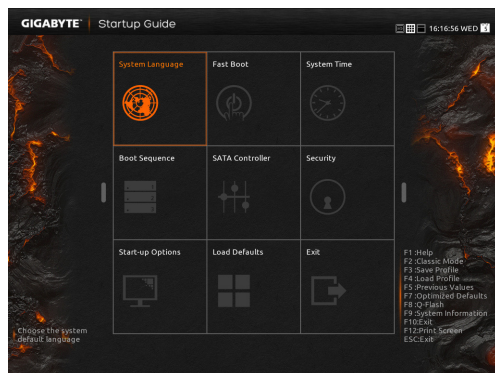
<END>:Q-FLASH

<End> キーを押すと、先に BIOS セットアップに入る必要なく直接 Q-Flash Utility にアクセスします。

2-2 メインメニュー

A. Startup Guide (デフォルト)

スタートアップガイド画面は、従来の複雑なBIOSセットアップメニューを最も頻繁に使用されるオプションを使い易いインターフェイスで表示されます。これは、より迅速かつ簡単に基本的なシステム設定を行うことができます。



B. ST Mode (Smart Tweak Mode)

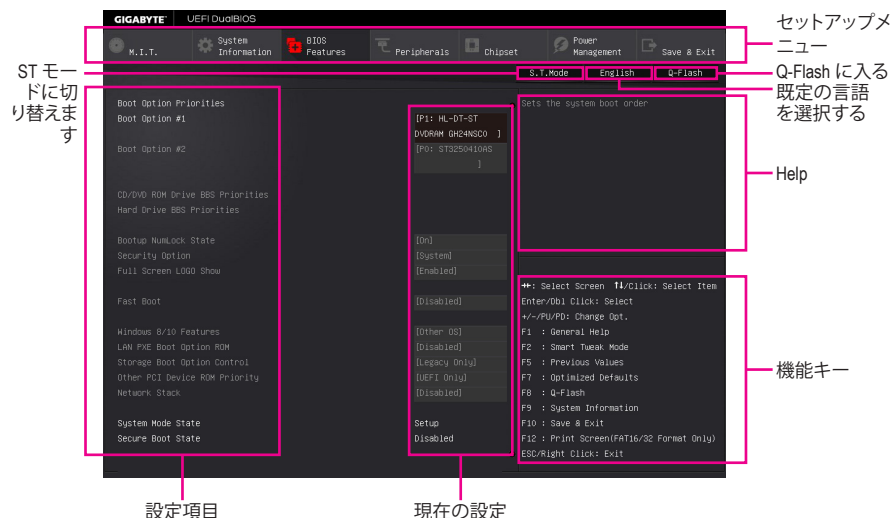
従来の UEFI インターフェイスとは異なり、ST モードでは、ユーザーが様々な設定を簡単にポイント・クリックして、最適なパフォーマンスを得るための調整を行うことができるファンシーかつユーザーフレンドリな BIOS 環境を提供します。STモードは、設定オプション間をマウスを使用して移動することができます。<F2キー>のメニューは、クイック構成や従来のBIOS設定画面に切り替えることができます。



- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

C. Classic Mode

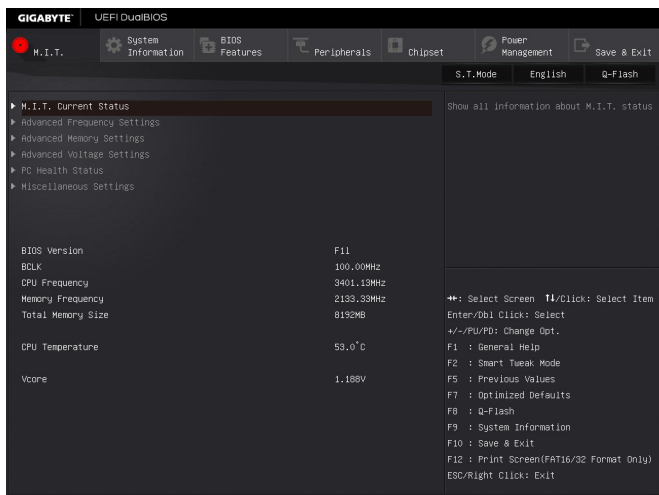
クラシック・モードは、従来のBIOSセットアップのインターフェイスです。入力する項目を選択してEnterキーを押して設定します。設定項目間を移動する場合、キーボードの矢印キーを押して設定することができます。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。
(サンプル BIOS バージョン:F11)



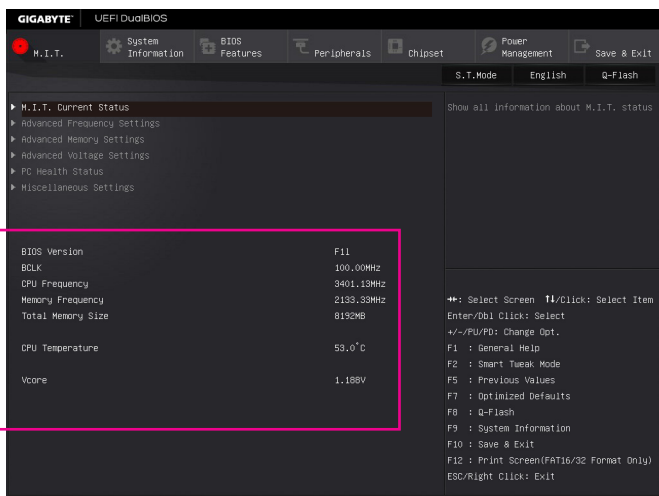
Classic Setupのファンクションキー

<f><g>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<h><i>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+>/<Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<->/<Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F1>	ファンクションキーについての説明を表示します。
<F2>	STモードまたは、スタートアップガイド画面に切り替えることができます。
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F9>	システム情報を表示します。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
<Esc>	メインメニュー:BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー:現在のサブメニューを終了します。

2-3 M.I.T.



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させると、CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

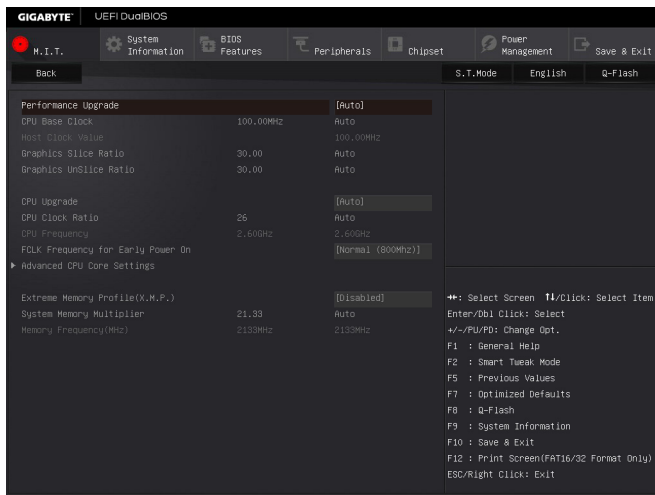


このセクションは、BIOS バージョン、CPU ベースクロック、CPU 周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU 温度、CPU 電圧などの情報を提供します。

▶ **M.I.T.Current Status (M.I.T 現在のステータス)**

このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が表示されます。

▶ **Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)**



☞ **Performance Upgrade (注)**

5つのオーバークロック設定が可能です。オプション: 20% Upgrade、40% Upgrade、60% Upgrade、80% Upgrade、100% Upgrade。(既定値: Auto)

☞ **CPU Base Clock**

CPUベースクロックを 0.01 MHz 刻みで手動で設定します。(既定値: Auto)
重要: CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

☞ **Host Clock Value**

CPU Base Clock 設定に応じて値は変化します。

☞ **Graphics Slice Ratio**

Graphics Slice Ratio を設定できます。

☞ **Graphics UnSlice Ratio**

Graphics UnSlice Ratio を設定できます。

☞ **CPU Upgrade (注)**

CPUの周波数を設定できます。設定は搭載するCPUによって異なります。(既定値: Auto)

☞ **CPU Clock Ratio**

取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。

☞ **CPU Frequency**

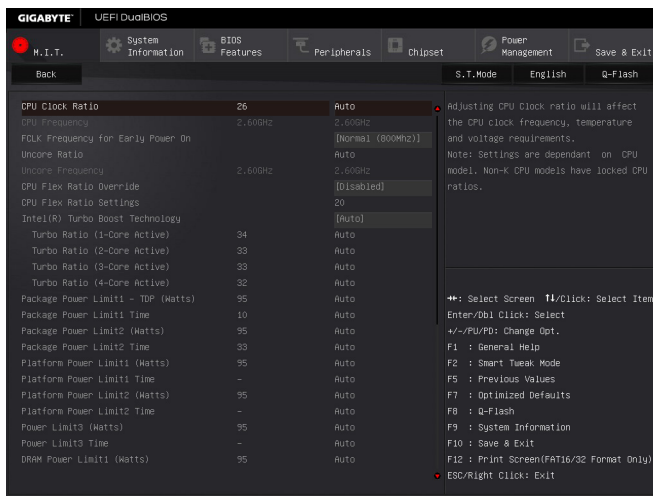
現在作動している CPU 周波数を表示します。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

⇨ FCLK Frequency for Early Power On

Allows you to set the FCLK frequency. オプション: Normal(800MHz), 1GHz, 400MHz.(既定値: Normal(800MHz)).

▶ Advanced CPU Core Settings (CPUの詳細設定)



⇨ CPU Clock Ratio, CPU Frequency, FCLK Frequency for Early Power On

上の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。

⇨ Uncore Ratio

CPUの Uncore ratio を設定できます。調整可能範囲は、使用されるCPUによって異なります。

⇨ Uncore Frequency

現在のCPU Uncore 周波数を表示します。

⇨ CPU Flex Ratio Override

CPU Flex Ratio を有効または無効にします。CPU Clock Ratio が Auto に設定されている場合、CPU Clock Ratio の最大値は CPU Flex Ratio の設定内容に基づいて設定されます。(既定値: Disabled)

⇨ CPU Flex Ratio Settings

CPU Flex Ratio を設定することができます。調整可能な範囲は、CPU により異なる場合があります。(既定値: 20)

⇨ Intel(R) Turbo Boost Technology (注)

Intel® CPU Turbo Boost テクノロジー機能の設定をします。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⇨ Turbo Ratio (注)

さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。Auto では、CPU仕様に従って CPU Turbo 比を設定します。(既定値: Auto)

⇨ Power Limit TDP (Watts) / Power Limit Time

CPU Turbo モードに対する電力制限、および、指定した電力制限で動作する時間を設定することができます。指定された値を超過する場合、CPU は、電力を低減するために自動的にコア周波数を下げます。Auto では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)

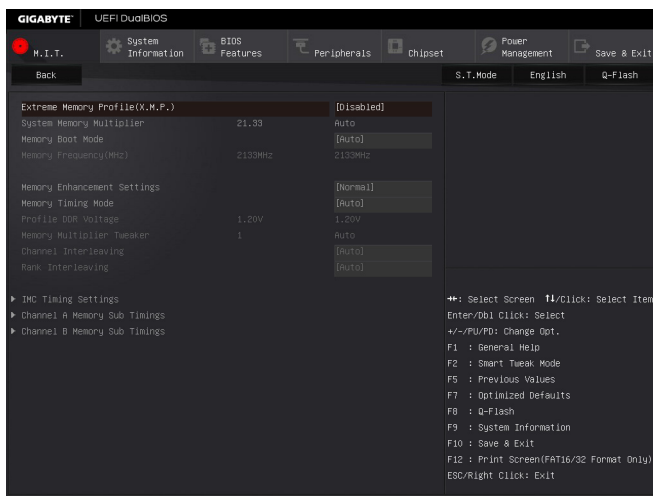
(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- **Core Current Limit (Amps)**
CPU Turbo モードの電流制限を設定できません。CPU の電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPU は電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto** では、CPU 仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)
- **No. of CPU Cores Enabled** (注)
使用する CPU コアを選択します。(選択可能な CPU コア数については、CPU によって異なります。) **Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **Hyper-Threading Technology** (注)
この機能をサポートする Intel® CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーの有効/無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注)
システム一時停止状態時の省電力機能で、Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **C3 State Support** (注)
システムが停止状態になっているとき、CPU が C3 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3 状態は、C1 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **C6/C7 State Support** (注)
システムが停止状態になっているとき、CPU が C6/C7 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C6/C7 状態は、C3 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **C8 State Support** (注)
システムが停止状態になっているとき、CPU が C8 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C6/C7 状態は、C8 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **Package C State Limit** (注)
プロセッサ C-state (省電力状態) の上限を指定できます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **CPU Thermal Monitor** (注)
CPU 過熱保護機能である Intel® Thermal Monitor 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU が過熱すると、CPU コア周波数と電圧が下がります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **CPU EIST Function** (注)
Enhanced Intel® Speed Step 技術 (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU 負荷によっては、Intel® EIST 技術は CPU 電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定できます。(既定値: Auto)
- **Voltage Optimization**
消費電力を低減するために、動作電圧の最適化する設定を決定します。(既定値: Enabled)

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- **RSR**
CPUの電圧/温度が高すぎる場合、自動的にCPUターボ倍率を下げる設定を決定します。(既定値: Enabled)
- **Hardware Prefetcher**
CPUがメモリの等間隔データの連続アクセスパターンを検出するとメモリからキャッシュに連続データをプリフェッチする機能の有効/無効を切り替えます。
- **Adjacent Cache Line Prefetch**
メモリからキャッシュラインへ対象データをフェッチするとき、隣接するデータもフェッチする機能の有効/無効を切り替えます。
- **Extreme Memory Profile (X.M.P.)^(注)**
有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶▶ Profile1 プロファイル1設定を使用します。
 - ▶▶ Profile2^(注) プロファイル2設定を使用します。
- **System Memory Multiplier**
システムメモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto**は、メモリのSPDデータに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値: Auto)
- **Memory Frequency (MHz)**
最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2番目の値は**System Memory Multiplier**設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

▶ Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)



- **Extreme Memory Profile (X.M.P.)^(注)、System Memory Multiplier、Memory Frequency(MHz)**
上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

☞ **Memory Boot Mode** (注)

メモリチェックと動作方法の設定を行います。

- ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- ▶▶ Enable Fast Boot 高速メモリブート可能なメモリ検出を行います。
- ▶▶ Disable Fast Boot ブート時にメモリ1本1本の順にチェックを行います。

☞ **Memory Enhancement Settings (メモリの拡張設定)**

メモリーパフォーマンスの設定を行います: Normal (基本性能)、Relax OC、Enhanced Stability、Enhanced Performance。(既定値: Normal)

☞ **Memory Timing Mode**

ManualとAdvanced Manual では、Memory Multiplier Tweaker、Channel Interleaving、Rank Interleaving、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション: Auto (既定値)、Manual、Advanced Manual。

☞ **Profile DDR Voltage**

Non-XMPメモリーモジュール、またはExtreme Memory Profile (X.M.P.)を使用する場合はDisabledに設定され、その値は、メモリの仕様に応じて表示されます。Extreme Memory Profile (X.M.P.)がProfile 1またはProfile 2に設定されているとき、この項目はXMPメモリのSPDデータに基づく値を表示します。

☞ **Memory Multiplier Tweaker**

様々なレベルのメモリの自動調整を提供します。(既定値: Auto)

☞ **Channel Interleaving**

メモリチャンネルのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。Enabled (有効) 設定にすると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ **Rank Interleaving**

メモリランクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。Enabled (有効) 設定すると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

▶ **IMC Timing Settings**

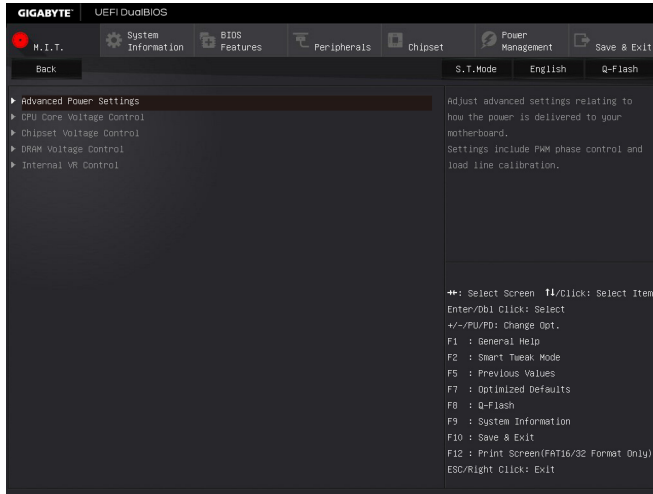
このサブメニューは、チューニングするメモリーの互換性と安定性の設定ができます。

▶ **Channel A/B Memory Sub Timings**

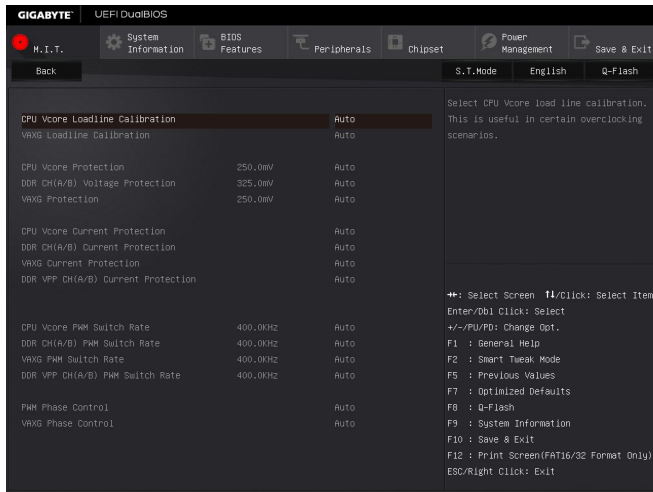
このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリ タイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、Memory Timing Mode が Manual または Advanced Manual の場合のみ設定可能です。注:メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリーモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

▶ Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)



▶ Advanced Power Settings (高度な電力設定)



🔗 CPU Vcore Loadline Calibration

CPU Vcore電圧のロードライン キャリブレーションのレベルを設定できます。レベルは次のとおりです (高い方から低い方へ)。Extreme、Turbo、High、Medium、Low、または Standard。より高いレベルを選択すると、高負荷状態でのBIOSの設定内容とCPU Vcore 電圧がより一致します。**Auto** は、BIOS にこの設定を自動的に設定させ、Intel® の仕様に従って電圧を設定します。(既定値:Auto)

- **VAXG Loadline Calibration**
CPU VAXG電圧のロードライン キャリブレーションのレベルを設定できます。レベルは次のとおりです (高い方から低い方へ)。Extreme、Turbo、High、Medium、Low、または Standard。より高いレベルを選択すると、高負荷状態でのBIOSの設定内容とCPU VAXG電圧がより一致します。**Auto** は、BIOS にこの設定を自動的に設定させ、Intel® の仕様に従って電圧を設定します。(既定値:Auto)
- **CPU Vcore Protection**
CPU の Vcore 電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。調整可能な範囲は 150.0mV~400.0mV の間です。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **DDR CH(A/B) Voltage Protection**
チャンネル A およびチャンネル B メモリ電圧に対する過電流保護レベルを設定できます。調整可能な範囲は 200.0mV~500.0mV の間です。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **VAXG Protection**
CPU の VAXG 電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。調整可能な範囲は 150.0mV~400.0mV の間です。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU Vcore Current Protection**
CPU の Vcore 電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。
 - ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶▶ Standard~Extreme Standard、Low、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらはCPU Vcore 電圧の異なる過電流保護レベルを表しています。
- **DDR CH(A/B) Current Protection**
チャンネル A およびチャンネル B メモリ電圧に対する過電流保護レベルを設定できます。
 - ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶▶ Standard~Extreme Standard、Low、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらは、メモリ電圧に対する各レベルの過電流保護を表します。
- **VAXG Current Protection**
CPU の VAXG 電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。
 - ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶▶ Standard~Extreme Standard、Low、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらは、メモリ電圧に対する各レベルの過電流保護を表します。
- **DDR VPP CH(A/B) Current Protection**
メモリ VPP 電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。
 - ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶▶ Standard~Extreme Standard、Low、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらは、メモリ VPP 電圧に対する各レベルの過電流保護を表します。
- **CPU Vcore PWM Switch Rate**
CPU Vcore 電圧に対する PWM 周波数を設定することができます。調整可能な範囲は 300.0KHz~500.0KHz の間です。(既定値:Auto)
- **DDR CH(A/B) PWM Switch Rate**
チャンネル A とチャンネル B のメモリに PWM 周波数を設定できます。調整可能な範囲は 300.0KHz~500.0KHz の間です。(既定値:Auto)

☞ **VAXG PWM Switch Rate**

CPU VAXG 電圧に対する PWM 周波数を設定することができます。調整可能な範囲は 300.0KHz~500.0KHz の間です。(既定値:Auto)

☞ **DDR VPP CH(A/B) PWM Switch Rate**

メモリ VPP 電圧に対する PWM 周波数を設定することができます。調整可能な範囲は 300.0KHz~500.0KHz の間です。(既定値:Auto)

☞ **PWM Phase Control**

CPU の負荷によって PWM フェーズを自動的に変更できるようになります。省電力レベル (低い方から高い方へ): eXm Perf (極度のパフォーマンス)、High Perf (高パフォーマンス)、Perf (パフォーマンス)、Balanced (バランス)、Mid PWR (標準電力)、および Lite PWR (低電力)。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ **VAXG Phase Control**

CPU の負荷によって CPU VAXG 電圧の PWM フェーズを自動的に変更できるようになります。省電力レベル (低い方から高い方へ): eXm Perf (極度のパフォーマンス)、High Perf (高パフォーマンス)、Perf (パフォーマンス)、Balanced (バランス)、Mid PWR (標準電力)、および Lite PWR (低電力)。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

▶ **CPU Core Voltage Control (CPU コア電圧制御)**

このセクションでは、CPU 電圧制御オプションについて記載します。

▶ **Chipset Voltage Control (チップセットの電圧制御)**

このセクションでは、チップセット電圧制御オプションについて記載します。

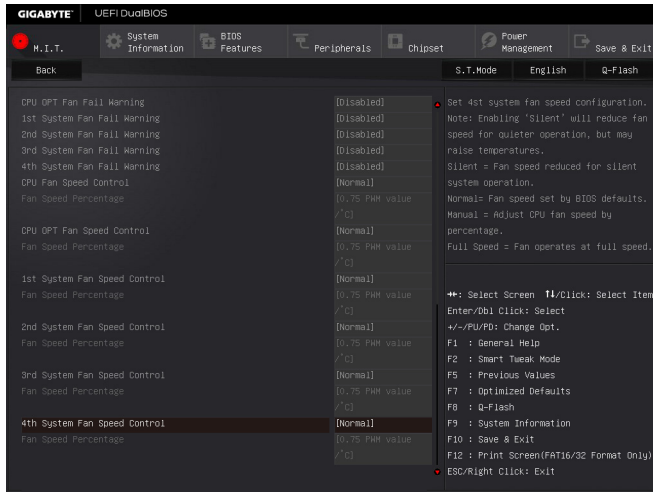
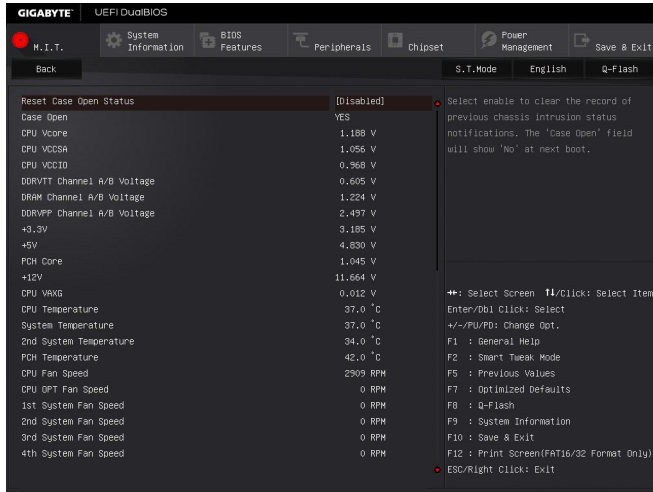
▶ **DRAM Voltage Control (DRAM 電圧制御)**

このセクションでは、メモリ電圧制御オプションについて記載します。

▶ **Internal VR Control**

このセクションでは、VR 電圧制御オプションについて記載します。

▶ PC Health Status



☞ Reset Case Open Status

- ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、Case Open フィールドに「No」と表示されます。

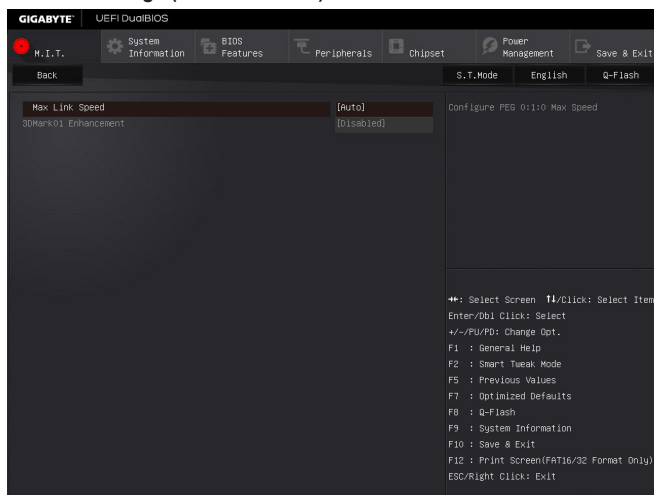
☞ Case Open

マザーボードのCIヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、Reset Case Open Status を Enabled にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

- ◁ **CPU Vcore/CPU VCCSA/CPU VCCIO/DDRVT Channel A/B Voltage/DRAM Channel A/B Voltage/DDRVP Channel A/B Voltage/+3.3V/+5V/PCH Core/+12V/CPU VAXG**
 現在のシステム電圧を表示します。
- ◁ **CPU/PCH Temperature**
 現在の CPU またはチップセットの温度を表示します。
- ◁ **1st System Temperature/2nd System Temperature**
 マザーボードのシステム温度センサーで検出された、現在のシステム電圧を表示します。
- ◁ **CPU/CPU OPT/System Fan Speed**
 現在のCPU/CPU_OPT/ システムのファン(SYS_FAN1~SYS_FAN3)速度を表示します。
- ◁ **CPU/System/PCH Temperature Warning**
 CPUシステム/チップセット温度警告のしきい値を設定します。温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警告音を発します。オプション: Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。
- ◁ **CPU/CPU OPT/System Fan Fail Warning**
 ファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。警告があった場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値: Disabled)
- ◁ **CPU Fan Speed Control (CPU_FAN コネクター)**
 ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶ Normal CPU温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ◁ **Fan Speed Percentage**
 ファン速度をコントロールします。CPU Fan Speed Control が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value °C ~ 2.50 PWM value °C。
- ◁ **CPU OPT Fan Speed Control (CPU_OPT コネクター)**
 ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶ Normal CPU温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ◁ **Fan Speed Percentage**
 ファン速度をコントロールします。CPU OPT Fan Speed Control が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value °C ~ 2.50 PWM value °C。
- ◁ **1st System Fan Speed Control (SYS_FAN1 コネクター)**
 ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

- ☞ **Fan Speed Percentage**
ファン速度をコントロールします。**1st System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **2nd System Fan Speed Control (SYS_FAN2 コネクター)**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
ファン速度をコントロールします。**2nd System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **3rd System Fan Speed Control (SYS_FAN3 コネクター)**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
ファン速度をコントロールします。**3rd System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **4th System Fan Speed Control (SYS_FAN4 コネクター)**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
ファン速度をコントロールします。**4th System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

▶ Miscellaneous Settings (その他の設定)



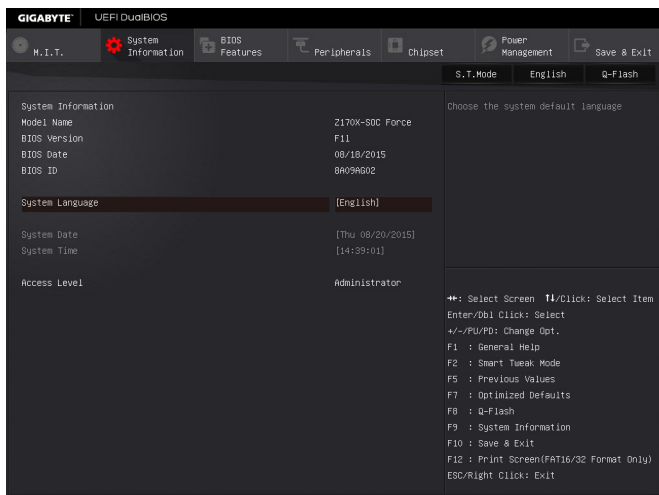
☞ Max Link Speed

PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ 3DMark01 Enhancement

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値: Disabled)

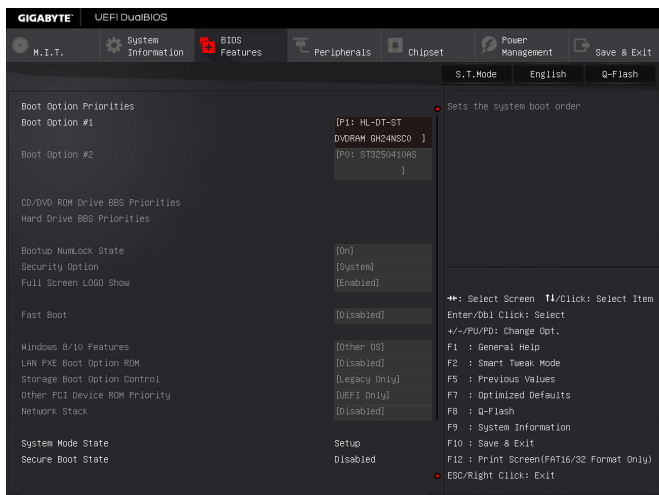
2-4 System Information (システムの情報)



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

- **System Language**
BIOS が使用する既定の言語を選択します。
- **System Date**
システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。
- **System Time**
システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。
- **Access Level**
使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator (管理者)** として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

2-5 BIOS Features (BIOS の機能)



☞ Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイス リストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

☞ Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities

ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスク ドライブ、LAN 機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイス タイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。上記タイプのデバイスが1つでもインストールされていれば、この項目は表示されます。

☞ Bootup NumLock State

POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: On)

☞ Security Option

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

▶▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。

▶▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

☞ Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTE ロゴの表示設定をします。**Disabled** にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値: Enabled)

☞ **Fast Boot**

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。(既定値: Disabled)

☞ **SATA Support**

▶▶ All Sata Devices オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 SATA デバイスは機能します。(既定値)

▶▶ Last Boot HDD Only 以前の起動ドライブを除いて、すべての SATA デバイスは、OS 起動プロセスが完了するまで無効になります。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **VGA Support**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

▶▶ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。

▶▶ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **USB Support**

▶▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になっています。

▶▶ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。

▶▶ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になっています。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ **PS2 Devices Support**

▶▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 PS/2 デバイスは無効になっています。

▶▶ Enabled オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 PS/2 デバイスは機能します。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ **NetWork Stack Driver Support**

▶▶ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)

▶▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **Next Boot After AC Power Loss**

▶▶ Normal Boot 電源復帰後に通常起動をします。(既定値)

▶▶ Fast Boot 電源復帰後も Fast Boot 設定を維持します。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **Windows 8/10 Features**

インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。(既定値: Other OS)

☞ **CSM Support**

従来の PC 起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

▶▶ Enabled UEFI CSM を有効にします。(既定値)

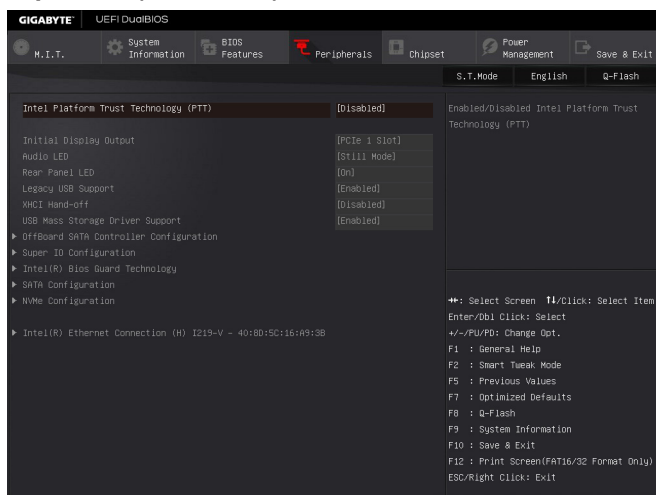
▶▶ Disabled UEFI CSM を無効にし、UEFI BIOS 起動プロセスのみをサポートします。

Windows 8/10 Features が **Windows 8/10** または **Windows 8/10 WHQL** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

- **LAN PXE Boot Option ROM**
LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値:Disabled)
CSM Support が **Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- **Storage Boot Option Control**
ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。
 - ▶ Disabled オプションROMを無効にします。
 - ▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
 - ▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。**CSM Support** が **Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- **Other PCI Device ROM Priority**
LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。
 - ▶ Disabled オプションROMを無効にします。
 - ▶ Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。
 - ▶ UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)**CSM Support** が **Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- **Network Stack**
Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)
- **Ipv4 PXE Support**
IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **Ipv6 PXE Support**
IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **Administrator Password**
管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。
- **User Password**
ユーザーパスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザーパスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザーパスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。
注:ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

2-6 Peripherals (周辺機器)



- ☞ **Intel Platform Trust Technology (PTT)**
Intel® PTT テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)
- ☞ **Initial Display Output**
取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。
 - ▶▶ IGFX 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
 - ▶▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16_1 スロットにあるグラフィックカードを設定します。(既定値)
 - ▶▶ PCIe 2 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX8_1 スロットにあるグラフィックカードを設定します。
 - ▶▶ PCIe 3 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16_2 スロットにあるグラフィックカードを設定します。
 - ▶▶ PCIe 4 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX8_2 スロットにあるグラフィックカードを設定します。
- ☞ **Audio LED**
オンボードオーディオLED機能の有効/無効を切り替えます。
 - ▶▶ Off この機能を無効にします。
 - ▶▶ Still Mode LED は常時点灯します。(既定値)
 - ▶▶ Beat Mode 音楽のリズムに合わせて LED の明るさが変化します。
 - ▶▶ Pulse Mode LED の明るさは息のようにゆっくりと滑らかに変化します。
- ☞ **Rear Panel LED**
リアパネルの I/O シールド上のオーディオ LED を有効または無効にします。
 - ▶▶ On LED が点灯し、オンボードのオーディオ LED の動作に従います。(既定値)
 - ▶▶ Off この機能を無効にします。
- ☞ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値: Enabled)
- ☞ **XHCI Hand-off**
XHCI/ハンドオフに対応していない OS でも、XHCI/ハンドオフ機能を有効/無効に設定できます。(既定値: Disabled)

- ☞ **USB Mass Storage Driver Support**
USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **USB Storage Devices**
接続されたUSB大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
- ▶ **OffBoard SATA Controller Configuration**
取り付けられている場合、M.2 PCIe SSD に関する情報を表示します。
- ▶ **Trusted Computing 2.0**
このサブメニューは、Intel Platform Trust Technology が Enabled (有効) に設定されている場合にのみ表示されます。
- ☞ **Security Device Support**
Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。(既定値:Enabled)
- ☞ **Pending operation**
TPMの設定を初期化する場合、設定項目をTPM Clearに設定してください。(既定値:None)
- ☞ **TPM 20 InterfaceType**
TPM 2.0 デバイスに対する通信インターフェイスを選択することができます。Infineon TPM モジュールをインストールしている場合(オプション)は、External TPM2.0 に設定します。(既定値:PTT)
- ☞ **Device Select**
TPM 1.2 または TPM 2.0 デバイスをサポートするかどうかを選択することができます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- ▶ **Super IO Configuration**
- ☞ **Serial Port 1**
オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ▶ **Intel(R) Bios Guard Technology**
BIOS を悪意のある攻撃から保護する Intel® BIOS ガード機能を有効または無効にします。
- ▶ **SATA Configuration**
- ☞ **SATA Controller(s)**
統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **SATA Mode Selection**
チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。
 - ▶▶ RAID SATAコントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
 - ▶▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバがNCQ(ネイティブ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)
- ☞ **Aggressive LPM Support**
Chipset SATA コントローラに対する省電力機能である ALPM (アグレッシブリンク電源管理) を有効または無効にします。(既定値:Enabled)
- ☞ **Port 0/1/2/3/4/5**
各SATAポートを有効または無効にします。(既定値:Enabled)

↳ **Hot plug**

各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。(既定値:Disabled)

↳ **External SATA**

追加SATAデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

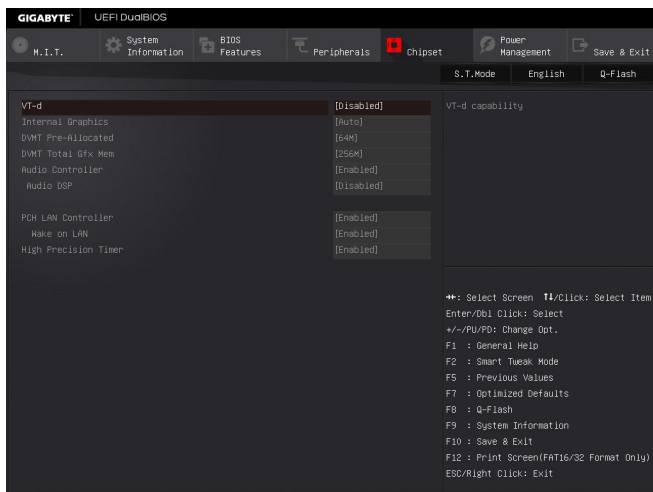
▶ **NVMe Configuration**

取り付けられている場合、M.2 NVME PCIe SSD に関する情報を表示します。

▶ **Intel(R) Ethernet Network Connection**

このサブメニューは、LAN 構成と関連する構成オプションの情報を提供します。

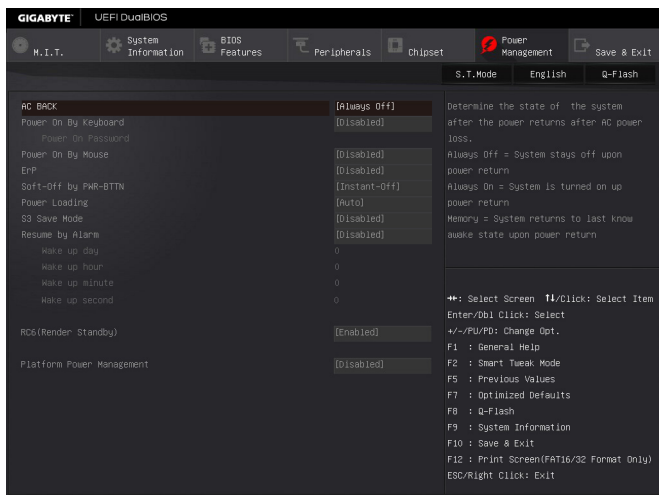
2-7 Chipset (チップセット)



- **VT-d** (注)
Directed I/O 用 Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)
- **Internal Graphics**
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)
- **DVMT Pre-Allocated**
オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション: 32M~512M。(既定値: 64M)
- **DVMT Total Gfx Mem**
オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当てることができます。オプション: 128M、256M、MAX。(既定値: 256M)
- **Audio Controller**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製拡張オーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- **Audio DSP**
PCH オーディオ装置の DSP 機能を有効または無効にします。(既定値: Disabled)
- **PCH LAN Controller**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- **Wake on LAN**
呼び起こしLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- **High Precision Timer**
High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

2-8 Power Management (電力管理)



☞ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

- ▶▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)
- ▶▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- ▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

☞ Power On By Keyboard

PS/2 キーボードからの入力によりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Password 1-5 文字でシステムをオンにするためのパスワードを設定します。

☞ Power On Password

Power On By Keyboard が Password に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

☞ Power On By Mouse

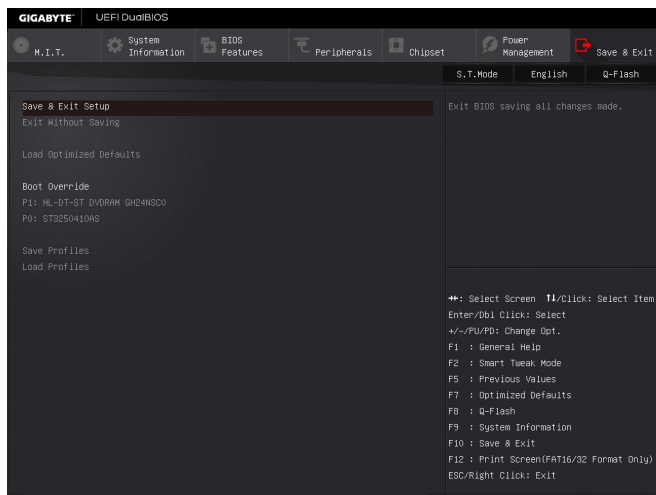
PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Move マウスを移動してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

- **ErP**
S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)
注: このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。アラームタイマーによる復帰、PME イベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN からの起動。
- **Soft-Off by PWR-BTTN**
電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。
 - ▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)
 - ▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。
- **Power Loading**
ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **S3 Save Mode**
アイドルデバイスをシステム S3 状態の省電力モードに入るかどうかを決定することができます。(既定値: Disabled)
- **Resume by Alarm**
任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値: Disabled)
有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:
 - ▶ Wake up day: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
 - ▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。注: この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。
- **RC6(Render Standby)**
オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値: Enabled)
- **Platform Power Management**
有効またはアクティブ状態の電源管理機能 (ASPM) を無効にします。(既定値: Disabled)
- **PEG ASPM**
CPU の PEG バスに接続されたデバイスのための ASPM モードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合のみ設定が可能です。(既定値: Enabled)
- **PCH ASPM**
チップセットの PCI Express バスに接続されたデバイスのための ASPM モードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Enabled)
- **DMI Link ASPM Control**
CPU 側および DMI リンクのチップセット側の両方に ASPM モードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合のみ設定が可能です。(既定値: Enabled)

2-9 Save & Exit (保存して終了)



- **Save & Exit Setup**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Exit Without Saving**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Load Optimized Defaults**

この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。
- **Boot Override**

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- **Save Profiles**

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1 ~ セットアッププロファイル 8 として保存することができます。または **Select File in HDD/USB/FDD** を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。**Select TAG Profile (TAG プロファイルの選択)** により、プロファイル 1 からプロファイル 8 のいずれかを TAG プロファイルとして指定できます。これは、マザーボードの OC Tag ボタンを押すと読み込まれます。
- **Load Profiles**

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/FDD/USB** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第 3 章 RAID セットを設定する

RAIDレベル

	RAID 0	RAID 1	RAID 5	RAID 10
ハードドライブの最小数	≥2	2	≥3	≥4
アレイ容量	ハードドライブの数 * 最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 - 1) * 最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 / 2) * 最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい	はい

RAID セットを作成するには、以下のステップに従ってください：

- コンピュータに SATA ハードドライブを取り付ける。
- BIOS セットアップで SATA コントローラーモードを設定します。
- RAID BIOS で RAID アレイを設定します。^(注1)
- SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールします。

始める前に、以下のアイテムを用意してください：

- 少なくとも 2 台の SATA ハードドライブまたは M.2 SSD ^(注2) (最適なパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを 2 台使用することをお勧めします)。^(注3)
- Windows セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB メモリドライブ

3-1 SATA コントローラーを構成する

A. ハードドライブの取り付け

SATA 信号ケーブルを SATA ハードドライブおよび Intel[®] チップセットで制御されたマザーボード上の SATA ポート (SATA3 0 ~ 5) に接続します。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。または、M.2 SSD をマザーボード上の M.2 コネクタに取り付けます。

(注1) SATA コントローラーで RAID を作成しない場合、このステップをスキップしてください。

(注2) M.2 PCIe SSD を RAID セットを M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブと共に設定するために使用することはできません。

(注3) SATA ハードドライブおよび M.2 SSD の構成表については、第 1 章の「内部コネクタ」、「M.2 ソケット 3 コネクタ」を参照してください。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラーモードを設定する

SATA コントローラーコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ 1:

コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。Peripherals/SATA Configuration に移動します。SATA Controller(s) が有効であることを確認してください。RAID を作成するには、SATA Mode Selection を RAID にします (図 1)。

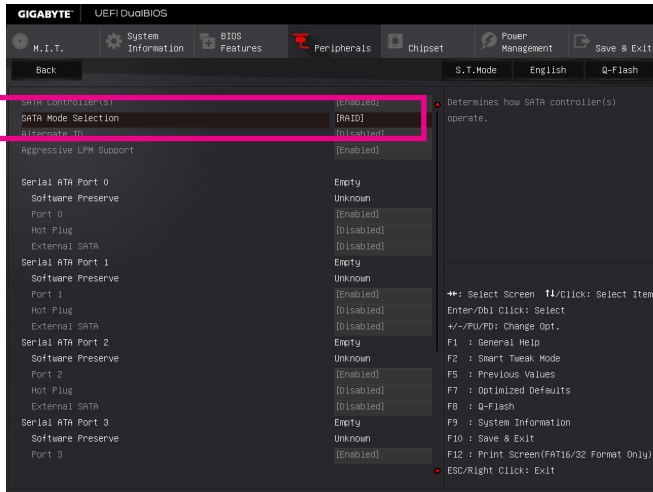


図 1

ステップ 2:

UEFI RAID を構成する場合は「C-1」のステップに従ってください。従来の RAID ROM に入るには、設定を保存して BIOS セットアップを終了します。詳細情報については「C-2」を参照してください。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なることがあります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C-1.UEFI RAID の設定

Windows 10/8.1 64bitのみUEFI RAID構成をサポートしています。

ステップ 1:

BIOS セットアップで、BIOS Features に移動し、Windows 8/10 Features を Windows 8/10 に、CSM Support を Disabled に設定します(図2)。変更を保存し、BIOS セットアップを終了します。

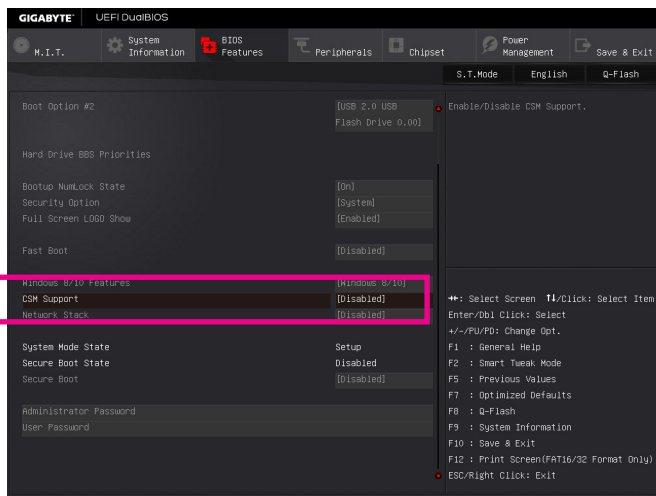


図 2

ステップ 2:

システムの再起動後、再度 BIOS セットアップに入ります。続いて Peripherals/Intel(R) Rapid Storage Technology サブメニューに入ります(図3)。

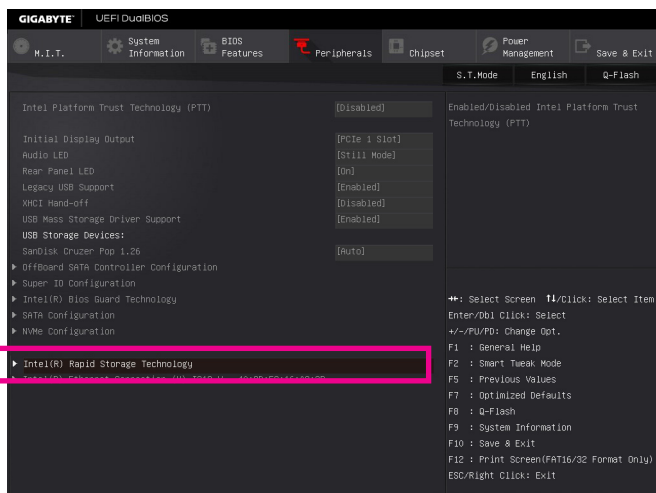


図 3

ステップ 3:

Intel(R) Rapid Storage Technology メニューにおいて、**Create RAID Volume** で <Enter> を押して **Create RAID Volume** 画面に入ります。Name の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 4)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。次に、下矢印キーを用いて **Select Disks** に移動します。

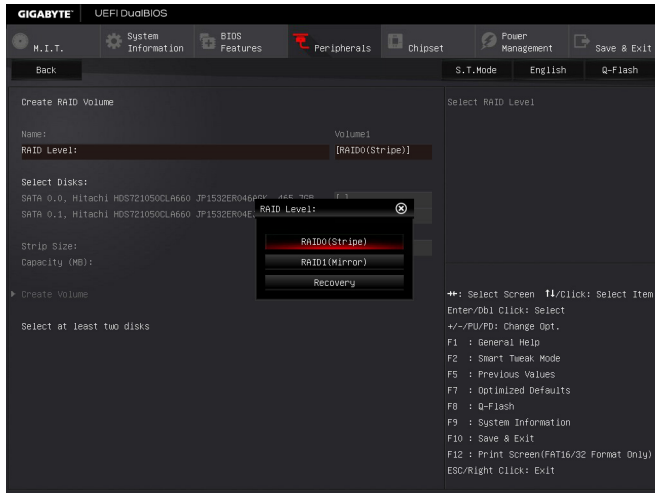


図 4

ステップ 4:

Select Disks の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。選択するハードドライブ上で <スペース> キーを押します (選択したハードドライブには "X" の印が付きます)。ストライプブロックサイズ (図 5) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択したら、容積容量を設定します。

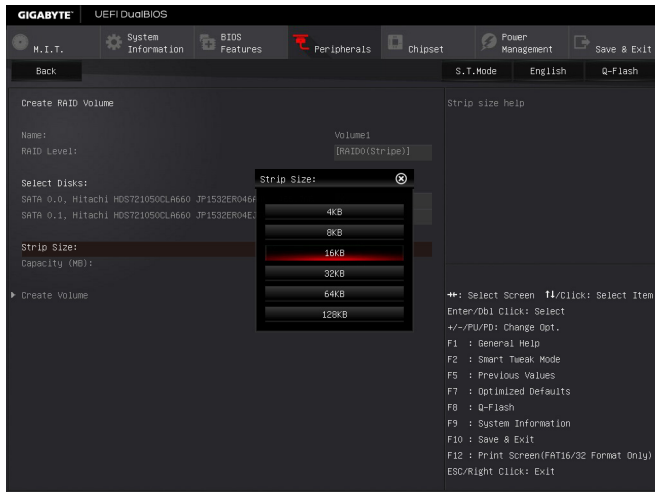


図 5

ステップ 5:
容量を設定後、**Create Volume** に移動し、<Enter> を押し開始します。(図 6)

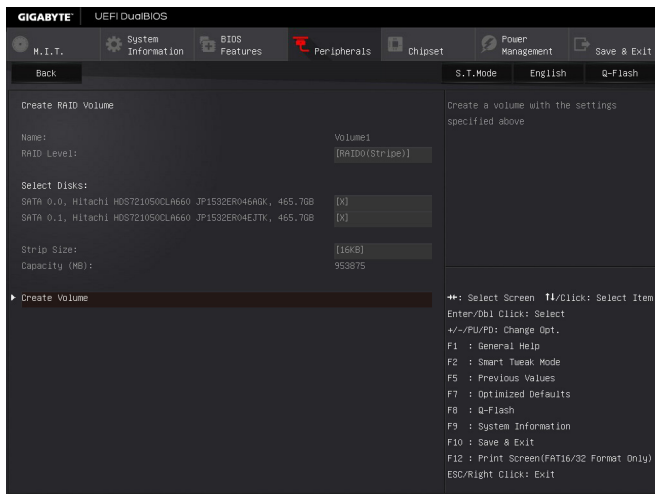


図 6

完了すると、**Intel(R) Rapid Storage Technology** 画面に戻ります。**RAID Volumes** に新しい RAID ボリュームが表示されます。詳細情報を見るには、ボリューム上で <Enter> を押し RAID レベルの情報、ストライプブロックサイズ、アレイ名、アレイ容量などを確認します (図 7)。

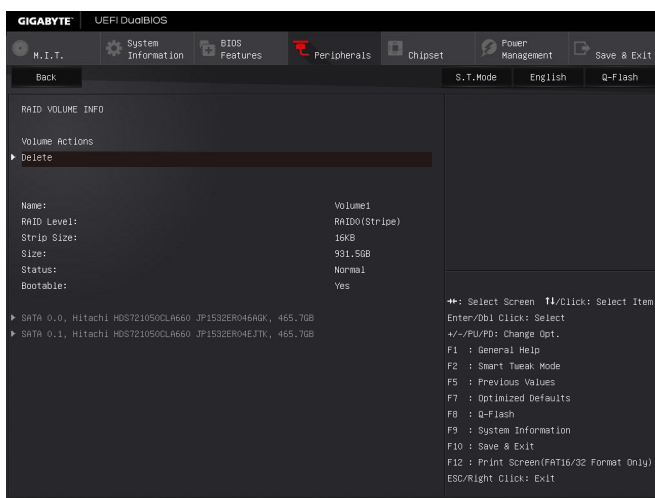


図 7

RAIDボリュームを削除する

RAID アレイを削除するには、Intel(R) Rapid Storage Technology 画面において削除するボリューム上で <Enter> を押します。RAID VOLUME INFO 画面に入ったら、Delete で <Enter> を押して Delete 画面に入ります。Yes で <Enter> を押します (図 8)。

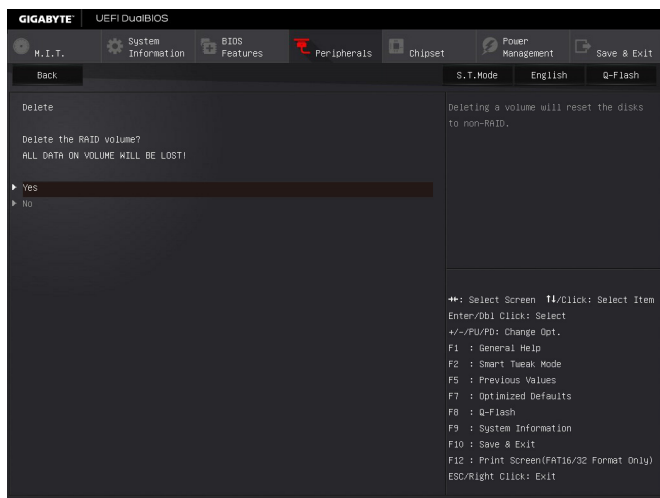


図 8

C-2.Legacy RAID ROMを設定する

Intel® legacy RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。非 RAID 構成の場合、このステップをスキップし、Windows オペレーティングシステムのインストールに進んでください。

ステップ 1:

POST メモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」(図 9)。「<Ctrl> + <I>」を押して RAID 設定ユーティリティに入ります。

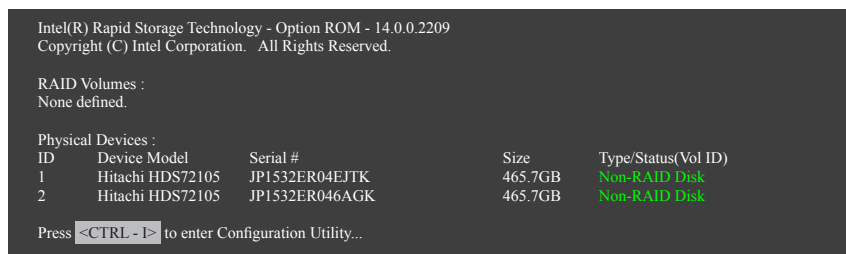


図 9

ステップ 2:

<Ctrl> + <I> を押すと、MAIN MENU スクリーンが表示されます (図 10)。

RAIDボリュームを作成する

RAID アレイを作成する場合、MAIN MENU で **Create RAID Volume** を選択し <Enter> を押します。

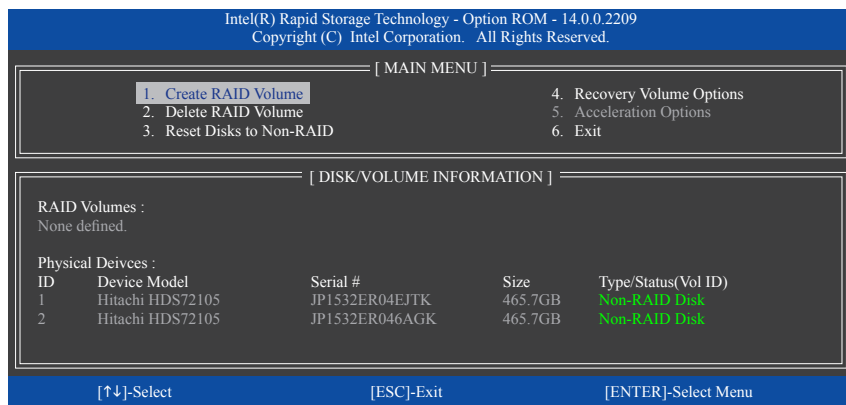


図 10

ステップ 3:

CREATE VOLUME MENU スクリーンに入った後、**Name** の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 11)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter> を押して続行します。

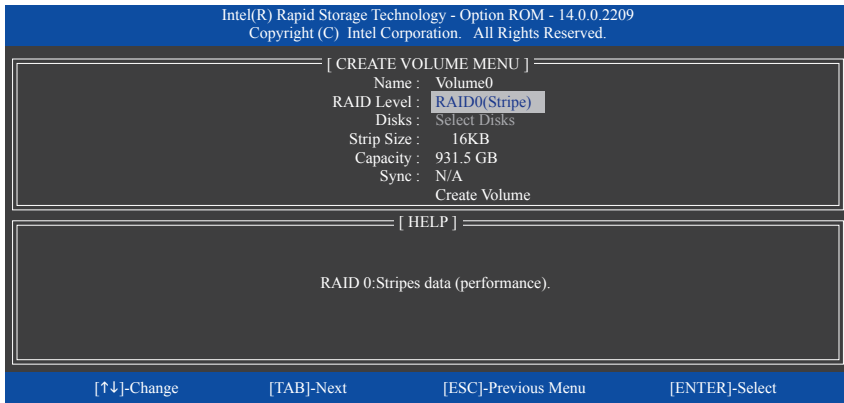


図 11

ステップ 4:

Disks の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。取り付けたドライブが 2台 のみの場合、ドライブはアレイに自動的に割り当てられます。必要に応じて、ストライプブロックサイズ (図 12) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで 設定できます。ストライプブロックサイズを選択してから、<Enter> を押します。

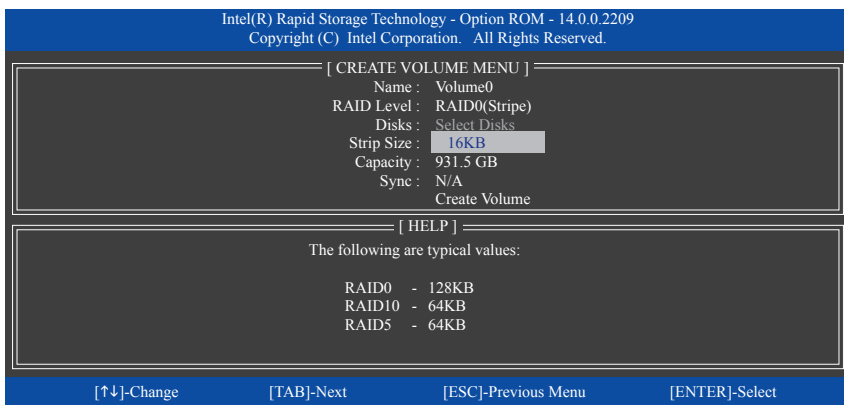


図 12

ステップ 5:

アレイの容量を入力し、<Enter> を押します。最後に、**Create Volume** で <Enter> を押し、RAID アレイの作成を開始します。ボリュームを作成するかどうかの確認を求められたら、<Y> を押して確認するか <N> を押してキャンセルします (図 13)。

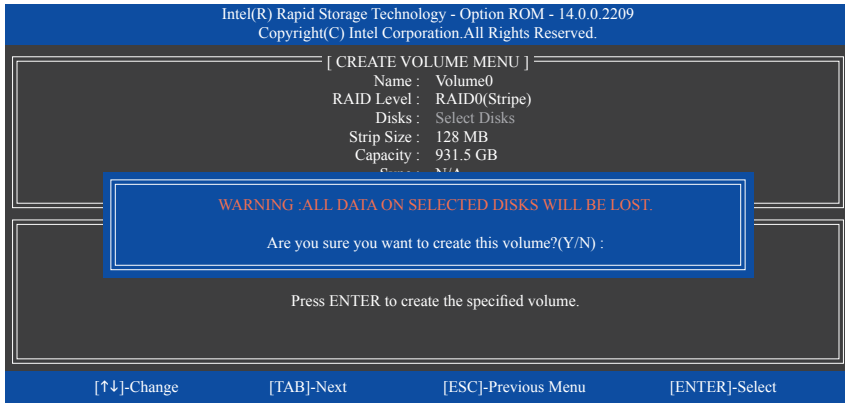


図 13

完了したら、**DISK/VOLUME INFORMATION** セクションに、RAID レベル、ストライプブロックサイズ、アレイ名、およびアレイ容量などを含め、RAID アレイに関する詳細な情報が表示されます (図 14)。

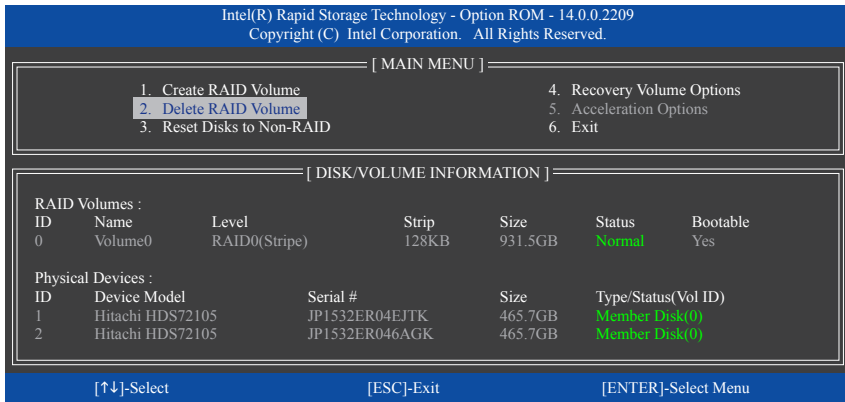


図 14

RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc> を押すか **MAIN MENU** で **6. Exit** を選択します。

これで、SATA RAID/AHCI ドライバディスクセットを作成し、SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールできるようになりました。

リカバリボリュームオプション

Intel® Rapid Recover Technologyでは指定されたリカバリドライブを使用してデータとシステム操作を容易に復元できるようにすることで、データを保護しています。Rapid Recovery Technologyでは、RAID 1 機能を採用しているため、マスタードライブからリカバリドライブにデータをコピーすることができます。必要に応じて、リカバリドライブのデータをマスタードライブに復元することができます。

始める前に:

- リカバリドライブは、マスタードライブより大きな容量にする必要があります。
- リカバリボリュームは、2 台のハードドライブがある場合のみ作成できます。リカバリボリュームと RAID アレイはシステムに同時に共存することはできません。つまり、リカバリボリュームがすでに作成されている場合、RAID アレイを作成できません。
- デフォルトで、オペレーティングシステムにはマスタードライブのみが表示されます。リカバリドライブは非表示にされています。

ステップ 1:

MAIN MENU で **Create RAID Volume** を選択し、<Enter>を押します (図 15)。

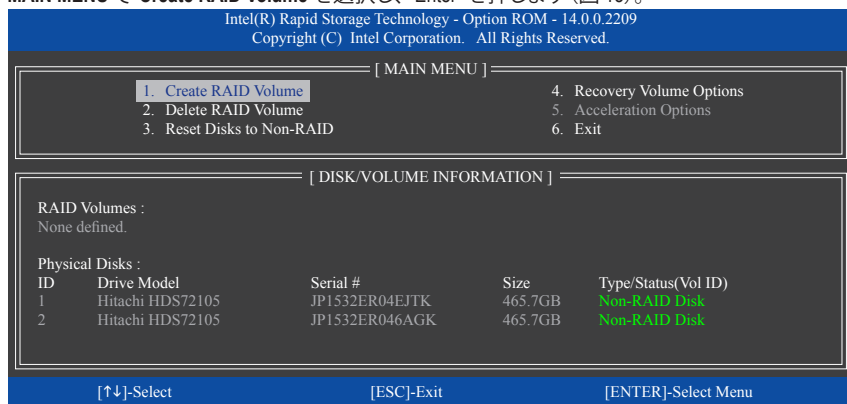


図 15

ステップ 2:

ボリューム名を入力した後、**RAID Level** アイテムの下で **Recovery** を選択し<Enter>を押します (図 16)。

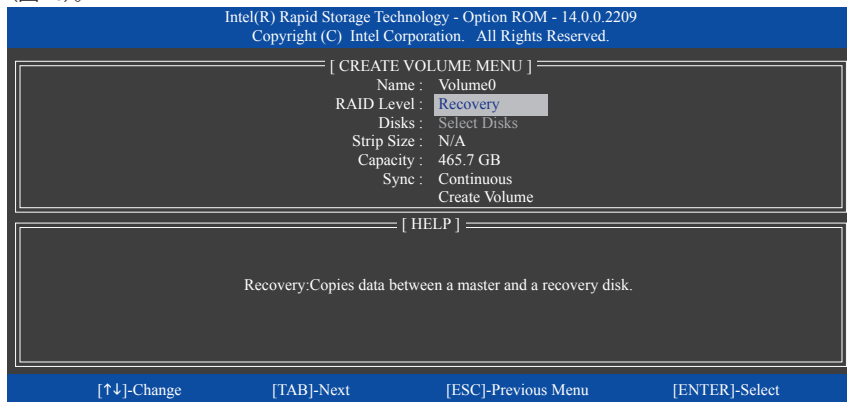


図 16

ステップ 3:

Select Disks アイテムの下で、<Enter>を押します。**SELECT DISKS** ボックスで、マスタドライブに対して使用するハードドライブには<Tab>を押し、リカバリドライブに対して使用するハードドライブには <Space> を押します。(リカバリドライブの容量がマスタドライブの容量より大きいことを確認してください) <Enter>を押して確認します (図 17)。

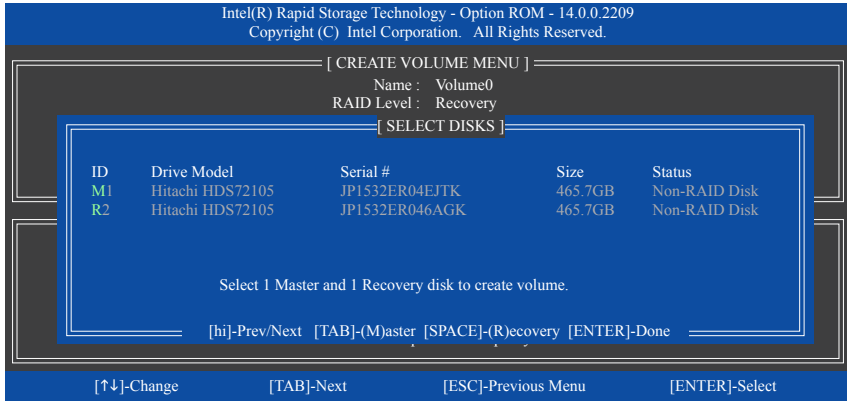


図 17

ステップ 4:

Sync の項目を、**Continuous** または **On Request** を選択します (図 18)。**Continuous** に設定されているとき、両方のハードドライブがシステムに取り付けられていれば、マスタドライブのデータを変更するとその変更はリカバリドライブに自動的かつ連続してコピーされます。**On Request** では、オペレーティングシステムの Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティを使用してマスタドライブからリカバリドライブに手動でデータを更新できます。**On Request** では、マスタドライブを以前の状態に復元することもできます。

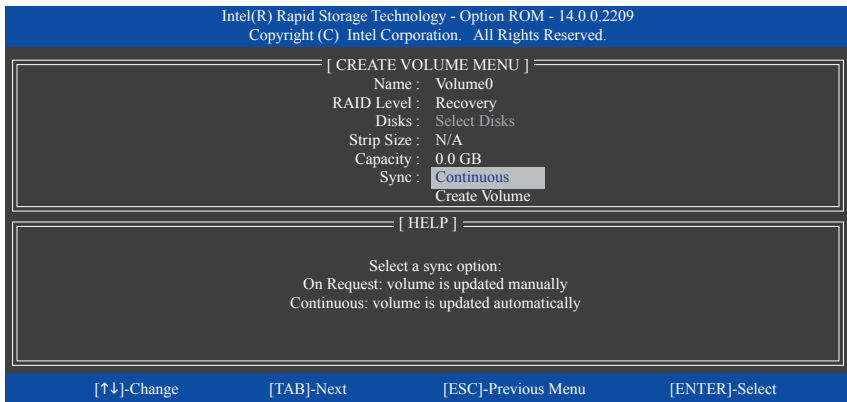


図 18

ステップ 5:

最後に、**Create Volume** の項目で <Enter> を押してリカバリボリュームの作成を開始し、オンスクリーンの指示に従って完了します。

Delete RAID Volume

RAID アレイを削除するには、MAIN MENU で **Delete RAID Volume** を選択し、<Enter> を押します。DELETE VOLUME MENU セクションで、上または下矢印キーを使用して削除するアレイを選択し、<Delete> を押します。選択を確認するように求められたら (図 19)、<Y> を押して確認するか <N> を押して中断します。

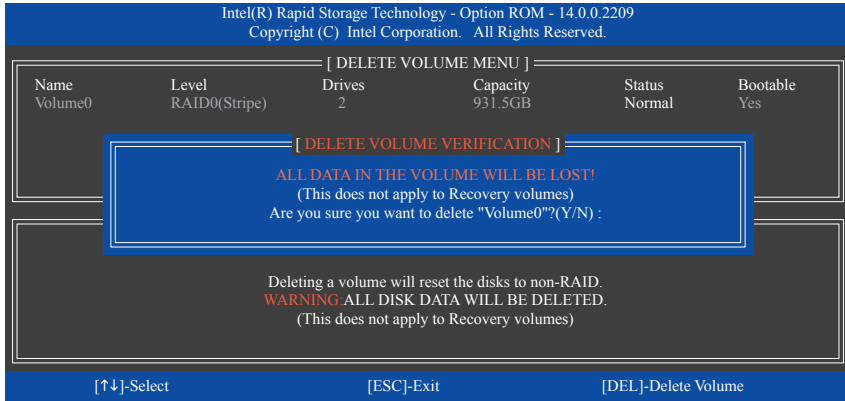


図 19

Acceleration Options

このオプションにより、Intel® IRSTユーティリティを使用して作成された高速化ドライブ / ボリューム (図 20) の状態を表示できるようになります。アプリケーションエラーまたはオペレーティングシステムの問題によりIntel® IRSTユーティリティを動作させることができなくなった場合は、RAID ROMユーティリティにあるこのオプションを使用して、高速化をなくすかまたは手動で同期を有効にする必要があります (最大化モードのみ)。

ステップ:

Acceleration Options で MAIN MENU を選択し、<Enter> を押します。

高速化をなくすために、高速化するドライブ/ボリュームを選択してから <R> を押し、<Y> で確定します。

キャッシュデバイスと高速化ドライブ/ボリュームのデータを同期するには、<S> を押してから <Y> を押して確定します。

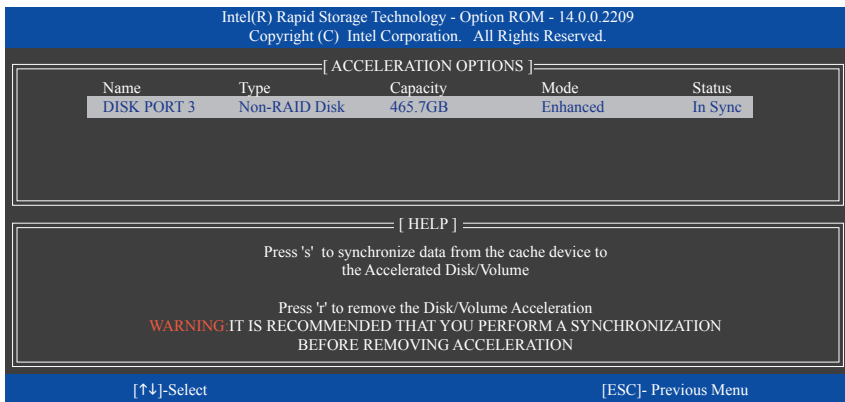


図 20

3-2 SATA RAID/AHCI ドライバーとオペレーティングシステムのインストール

BIOS設定が正しければ、オペレーティングシステムをいつでもインストールできます。

A. Windows のインストール

一部のオペレーティングシステムにはすでに Intel® SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセス中に RAID/AHCI ドライバを個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。インストールされているオペレーティングシステムが、OS インストールプロセス中に追加 SATA RAID/AHCI ドライバの提供を要求する場合は、以下のステップを参照してください。

ステップ 1:

ドライバディスクの **Boot (ブート)** フォルダの下の **IRST-x64** または **IRST-x86** フォルダ (ご利用の OS バージョンに応じて) を USB サムドライブにコピーします。

ステップ 2:

Windows セットアップディスクからブートし、標準の OS インストールステップを実施します。画面でドライバを読み込んでくださいという画面が表示されたら、**Browse** を選択します。

ステップ 3:

USB サムドライブを挿入し、その後、以前にコピーしたフォルダ (**IRST-x64** または **IRST-x86**) を参照します。

ステップ 4:

図 1 に示した画面が表示されたら、**Intel Chipset SATA RAID Controller** を選択し、**Next** をクリックしてドライバをロードし OS のインストールを続行します。

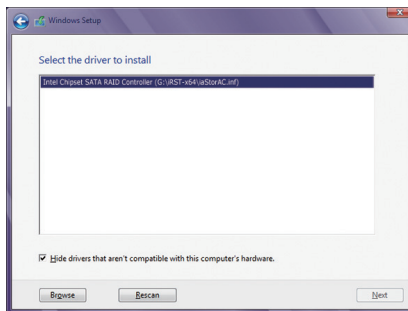


図 1

B. アレイを再構築する

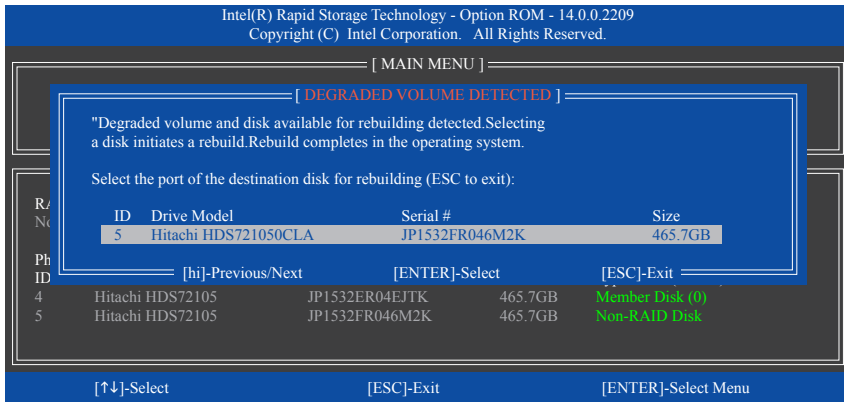
再構築は、アレイの他のドライブからハードドライブにデータを復元するプロセスです。再構築は、RAID 1、RAID 5、RAID 10 アレイに対してのみ、適用されます。以下の手順では、新しいドライブを追加して故障したドライブを交換し RAID 1 アレイに再構築するものとします。(注:新しいドライブは古いドライブより大きな容量にする必要があります。)

コンピュータの電源をオフにし、故障したハードドライブを新しいものと交換します。コンピュータを再起動します。

• 自動再構築を有効にする

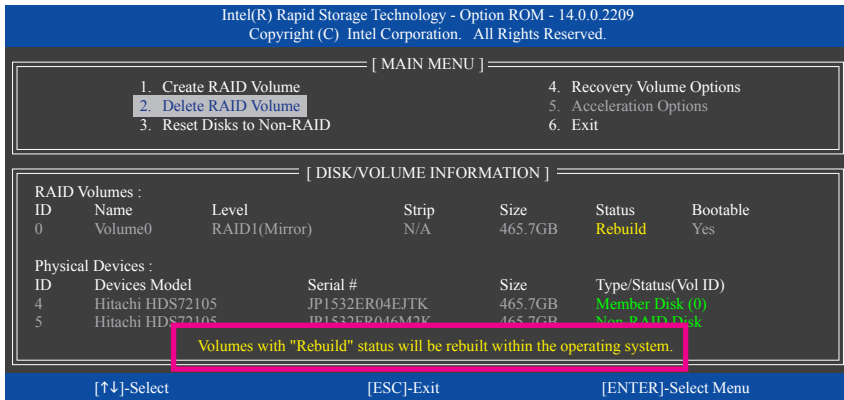
ステップ 1:

「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」というメッセージが表示されたら、<Ctrl> + <I> を押して RAID 構成ユーティリティに入ります。RAID 構成ユーティリティに入ると、次の画面が表示されます。



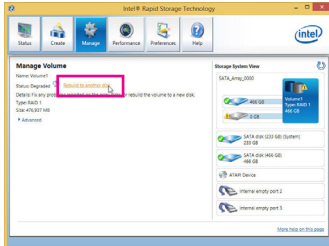
ステップ 2:

新しいハードドライブを選択して再構築するアレイに追加し、<Enter> を押します。オペレーティングシステムに入ると、自動再構築が実行されますという次の画面が表示されます。この段階で自動再構築を有効にしないと、オペレーティングシステムでアレイを手動で再構築する必要があります (詳細については、次のページを参照してください)。



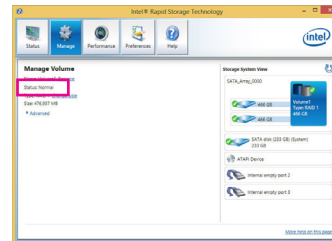
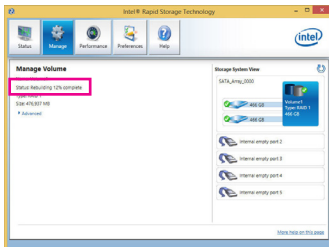
• オペレーティングシステムで再構築を実行する

オペレーティングシステムに入っている間に、チップセットドライバがマザーボードドライバディスクからインストールされていることを確認します。デスクトップから Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティを起動します。



ステップ 2:
新しいドライブを選択してRAIDをリビルドし、**Rebuild** をクリックします。

ステップ 1:
Manageメニューに移動し、**Manage Volume**で**Rebuild to another disk** をクリックします。



画面左の**Status** 項目にリビルド進捗状況が表示されます。

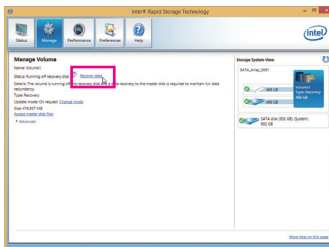
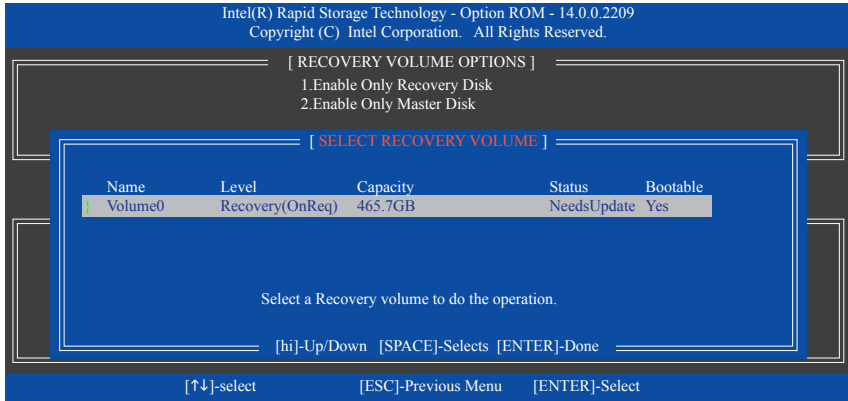
ステップ 3:
RAID 1ボリュームを再構築した後、**Status** に**Normal**として表示されます。

・ マスタドライブを以前の状態に復元する (リカバリボリュームの場合のみ)

要求に応じて更新するモードで2台のハードドライブをリカバリボリュームに設定すると、必要に応じてマスタドライブのデータを最後のバックアップ状態に復元できます。たとえば、マスタドライブがウイルスを検出すると、リカバリドライブのデータをマスタドライブに復元することができます。

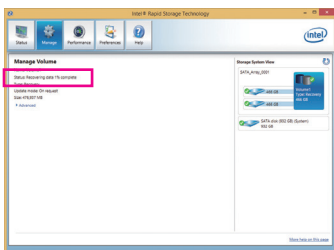
ステップ 1:

Intel® RAID構成ユーティリティのMAIN MENU で4. Recovery Volume Option を選択します。RECOVERY VOLUMES OPTIONS メニューで、Enable Only Recovery Disk を選択してオペレーティングシステムのリカバリドライブを表示します。オンスクリーンの指示に従って完了し、RAID構成ユーティリティを終了します。

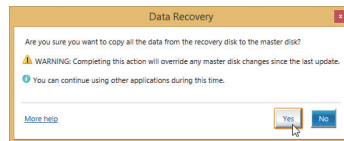


ステップ 2:

Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティの Manage メニューに移動し、Manage Volume で Recover data をクリックします。

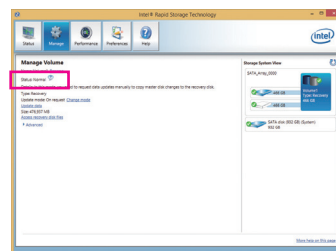


画面左のStatus 項目にリビルド進捗状況が表示されます。



ステップ 3:

Yes をクリックして、データの復元を開始します。



ステップ 4:


リカバリボリュームが完了した後、Status に Normal として表示されます。

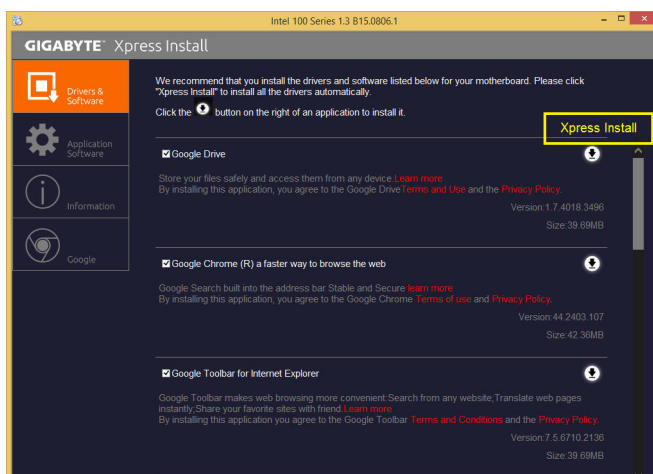
第4章 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、例としてWindows 8.1 オペレーティングシステムを使用します。)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exe の実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

4-1 Drivers & Software (ドライバとソフトウェア)

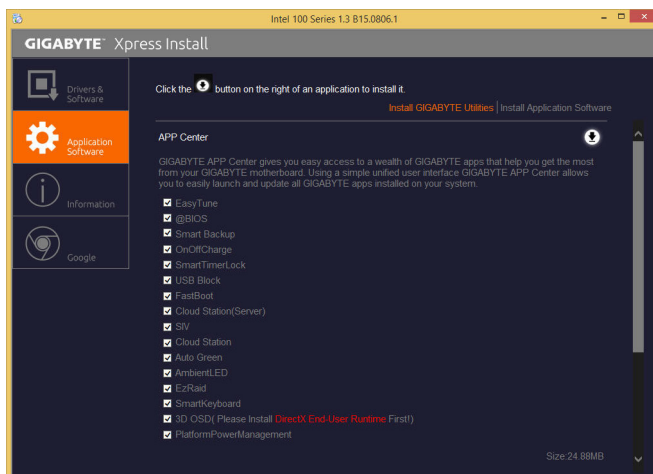
「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。Xpress Install ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



- 「Xpress Install」がドライバをインストールしているときに表示されるポップアップダイアログボックス(たとえば、**Found New Hardware Wizard**)を無視してください。そうでないと、ドライバのインストールに影響を及ぼす可能性があります。
- デバイスドライバには、ドライバのインストールの間にシステムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、「Xpress Install」がその他のドライバを引き続きインストールします。

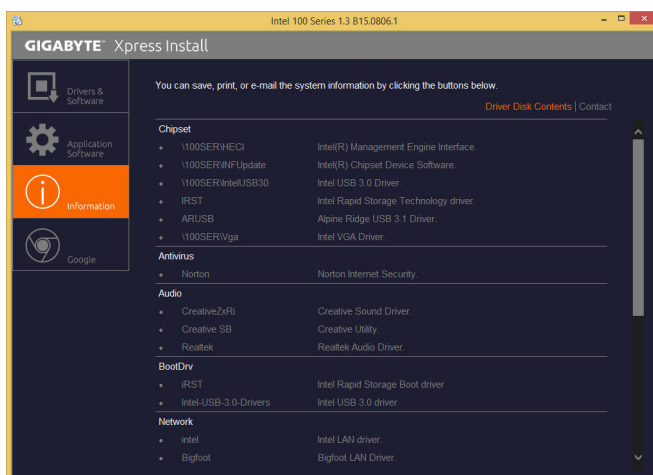
4-2 Application Software (アプリケーションソフトウェア)

このページでは、GIGABYTE が開発したアプリと一部の無償ソフトウェアが表示されます。インストールを開始するには、希望するアプリを選択し、Install  アイコンをクリックします。



4-3 Information (情報)

このページでは、ドライバディスク上のドライバの詳細情報を提供します。**Contact** ページでは、GIGABYTE 台湾本社の連絡先情報を提供しています。このページの URL をクリックすると、GIGABYTE ウェブサイトにリンクして本社や世界規模の支社の詳細情報を確認できます。



第 5 章 独自機能

5-1 BIOS 更新ユーティリティ

GIGABYTE マザーボードには、Q-Flash™ と @BIOS™ の 2 つの独自の BIOS 更新方法があります。GIGABYTE Q-Flash と @BIOS は使いやすく、MSDOS モードに入らずに BIOS を更新することができます。さらに、このマザーボードは DualBIOS™ 設計を採用し、Q-Flash Plus をサポートしており、お使いのコンピュータの安全性と安定性のために複数の保護を提供します。

DualBIOS™ とは？

デュアル BIOS をサポートするマザーボードには、メイン BIOS とバックアップ BIOS の 2 つの BIOS が搭載されています。通常、システムはメイン BIOS で作動します。ただし、メイン BIOS が破損または損傷すると、バックアップ BIOS が次のシステム起動を引き継ぎ、BIOS ファイルをメイン BIOS にコピーし、通常にシステム操作を確保します。システムの安全のために、ユーザーはバックアップ BIOS を手動で更新できないようになっています。

Q-Flash Plus とは？

Q-Flash Plus とは、DualBIOS™ から派生した新しいソリューションです。システムブート時にメインおよびバックアップ BIOS の両方が失敗した場合、Q-Flash Plus が自動的に起動し、特定の USB ポートに接続された USB フラッシュドライブから BIOS データを復旧します。

Q-Flash™ とは？

Q-Flashがあれば、MS-DOSやWindowのようなオペレーティングシステムに入らずにBIOSシステムを更新できます。BIOSに組み込まれたQ-Flashツールにより、複雑なBIOSフラッシングプロセスを踏むといった煩わしさから開放されます。

@BIOS™ とは？

@BIOSにより、Windows環境に入っている間にシステムBIOSを更新することができます。@BIOSは一番近い@BIOSサーバーサイトから最新の@BIOSファイルをダウンロードし、BIOSを更新します。

5-1-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ファイルを抽出し、新しい BIOS (Z170XSOCForce.F1 など) をお使いの USB フラッシュドライブまたは USB ハードドライブに保存します。注: USB フラッシュドライブまたはハードドライブは、FAT32/16/12 ファイルシステムを使用する必要があります。
3. システムを再起動します。POST の間、<End> キーを押して Q-Flash に入ります。注: POST 中に <End> キーを押すことによって、または BIOS セットアップで <F8> キーを押すことによって、Q-Flash にアクセスすることができます。ただし、BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブまたは独立した SATA コントローラーに接続されたハードドライブに保存された場合、POST の間に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。



BIOS の更新は危険性を含んでいるため、注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。

B. BIOS を更新する

BIOS を更新しているとき、BIOS ファイルを保存する場所を選択します。次の手順は、BIOS ファイルを USB フラッシュドライブに保存していることを前提としています。

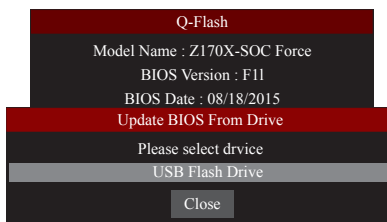
ステップ 1:

1. BIOS ファイルを含む USB フラッシュドライブをコンピュータに挿入します。Q-Flash のメインメニューで、**Update BIOS From Drive** を選択します。



- **Save BIOS to Drive** オプションにより、現在の BIOS ファイルを保存することができます。
- Q-Flash は FAT32/16/12 ファイルシステムを使用して、USB フラッシュドライブまたはハードドライブのみをサポートします。
- BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した SATA コントローラーに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。

2. **USB Flash Drive** を選択します。



3. BIOS 更新ファイルを選択します。



BIOS 更新ファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。

ステップ 2:

画面は、USB フラッシュドライブから BIOS ファイルを読み込んでいる状況を示しています。**Quick Update (クイック更新)** または **Normal Update (通常更新)** を選択して、BIOS 更新を開始します。その後、画面に更新プロセスが表示されます。



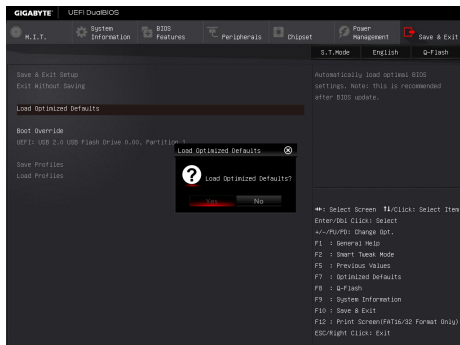
- システムが BIOS を読み込み/更新を行っているとき、システムをオフにしたり再起動したりしないでください。
- システムが BIOS を更新しているとき、USB フラッシュドライブまたはハードドライブを取り外さないでください。

ステップ 3:

更新処理が完了後、システムは再起動します。

ステップ 4:

POST中に、<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入ります。**Save & Exit**画面で**Load Optimized Defaults**を選択し、<Enter>を押してBIOSデフォルトをロードします。BIOSが更新されるとシステムはすべての周辺装置を再検出するため、BIOSデフォルトを再ロードすることをお勧めします。



Yes を選択してBIOSデフォルトをロードします

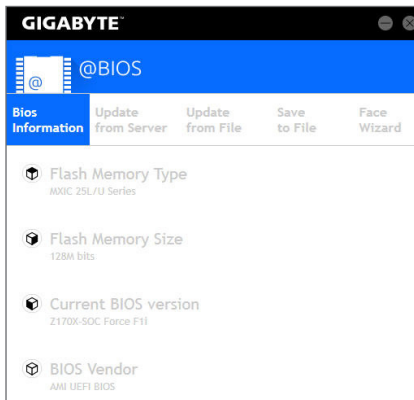
ステップ 5:

Save & Exit Setup を選択し、<Enter>を押します。**Yes** を選択してCMOSに設定を保存し、BIOSセットアップを終了します。システムの再起動後に手順が完了します。

5-1-2 @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. Windows で、すべてのアプリケーションと TSR (メモリ常駐型)プログラムを閉じます。これにより、BIOS 更新を実行しているとき、予期せぬエラーを防ぎます。
2. BIOS がインターネット経由で更新される場合、インターネット接続が安定しており、インターネット接続が中断されないことを確認してください (たとえば、停電やインターネットのスイッチオフを避ける)。そうしないと、BIOS が破損したり、システムが起動できないといった結果を招きます。
3. 不適切な BIOS 更新に起因する BIOS 損傷またはシステム障害はGIGABYTE 製品の保証の対象外です。



B. @BIOSを使用する

1. インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する:



Update from Server をクリックし、一番近い @ BIOS サーバーを選択して、お使いのマザーボードモデルに一致する BIOS ファイルをダウンロードします。オンスクリーンの指示に従って完了してください。



マザーボードの BIOS 更新ファイルが @BIOS サーバーサイトに存在しない場合、GIGABYTE の Web サイトから BIOS 更新ファイルを手動でダウンロードし、以下の「インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する」の指示に従ってください。

2. インターネット更新機能を使用せずに BIOS を更新する:



Update from File をクリックし、インターネットからまたは他のソースを通して取得した BIOS 更新ファイルの保存場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って完了してください。

3. 現在の BIOS をファイルに保存:



Save to File をクリックして、現在の BIOS ファイルを保存します。

4. 起動ロゴの変更



フェイスウィザードで Upload new image をクリックすると、起動ロゴを自分独自の写真に変更して個人用起動画面を作成することができます。現在使用中の起動ロゴを保存するには、Backup current image (現在の画像のバックアップ) をクリックします。



サポートする画像形式は jpg、bmp、および gif などです。

C. BIOS を更新した後

BIOS を更新した後、システムを再起動してください。



- 更新する BIOS ファイルがお使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。間違った BIOS ファイルで BIOS を更新すると、システムは起動しません。
- BIOS 更新処理時にシステムの電源をオフにしたり、電源を抜かないでください。さもないと BIOS が破損し、システムが起動しない恐れがあります。

5-1-3 Q-Flash Plus を使用する

A. 始める前に

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ダウンロードした BIOS ファイルを解凍し、USB フラッシュドライブに保存して、名前を **GIGABYTE.bin** に変更します。注：USB フラッシュドライブは、FAT32/16 でフォーマットした USB 2.0 対応フラッシュドライブが必要です。
3. USB フラッシュドライブを背面パネルの白い USB ポートに挿入します。

B. Q-Flash Plus の使用

システムブート時にメインおよびバックアップ BIOS の両方が失敗した場合、システムは、15～20 秒間待機し、白い USB ポート上の USB フラッシュドライブ内の BIOS ファイルを自動的に検索し、一致していることを確認します。FBIOS_LED は、BIOS の一貫性確認と更新が開始されると点滅します。

2～3 分間待機し、BIOS 更新が完了すると、FBIOS_LED は点滅を停止します。



メイン BIOS が更新された後、システムは自動的に再起動し、その後、DualBIOS™ は、バックアップ BIOS の更新を続行します。完了後、システムが再起動し、通常動作の場合、メイン BIOS から起動します。

5-1-4 GIGABYTE HW OCを使用する

GIGABYTE HW OC機能については、オーバークロック状態をスマートフォン/タブレットデバイスを使用してコンピュータを監視することができます。

A. まず初めに

1. スマートフォン/タブレットにGIGABYTE HW OCアプリをインストールしてください。(Android機種はGoogle Playより、iOS機種はApp Storeから入手できます。)
2. スマートフォン/タブレットがAndroid 4.0 / iOS 7.1 以上であることをご確認ください。
3. USBケーブルを、マザーボードの白いUSBポートとスマートフォン/タブレット間に接続してください。
4. マザーボードのOCPSWボタンを押してください。

B. GIGABYTE HW OCの使用方法

B-1 Android機種の場合

1. コンピューターの電源を入れた後、スマートフォン/タブレットのGIGABYTE HW OCアプリを開いてください。
2. 表示されるメッセージに従ってUSBテザリング・モードを有効にし、アプリを再度開いてください。
3. 数秒後にマザーボード上のFBIOS_LEDが点灯します。これはスマートフォン/タブレットとの接続が成功したことを意味します。これにより、GIGABYTE HW OCアプリからCPU電圧や周波数を変更できます。


B-2 iOS機種の場合

1. コンピューターの電源を入れた後、スマートフォン/タブレットのPersonal Hotspotを有効にしてください。(USBのみに設定してください。)
2. 数秒後にマザーボード上のFBIOS_LEDが点灯します。これはスマートフォン/タブレットとの接続が成功したことを意味します。
3. スマートフォン/タブレットのGIGABYTE HW OCアプリを開いてください。これにより、GIGABYTE HW OCアプリからCPU電圧や周波数を変更できます。

5-2 APP Center

GIGABYTE App Center により、豊富な GIGABYTE アプリにアクセスしやすくなり、GIGABYTE マザーボードを最大限利用できるようになります^(注)。シンプルで統一されたインターフェイスを用いた GIGABYTE App Center により、お使いのシステムにインストールされたすべての GIGABYTE アプリを簡単に起動し、オンラインで関連アップデートを確認するとともに、アプリ、ドライバ、および BIOS をダウンロードできます。

APP Center の実行

マザーボードのドライバディスクを挿入します。自動実行画面で、**Application Software** Install **GIGABYTE Utilities** に移動して GIGABYTE App Center と選択したアプリをインストールします。インストールの完了後、コンピュータを再起動します。デスクトップモードで、通知画面の App Center アイコン  をクリックして App Center ユーティリティを起動します (図 1)。メインメニューでは、実行するアプリを選択したり、**Live Update** をクリックしてアプリをオンラインで更新できます。

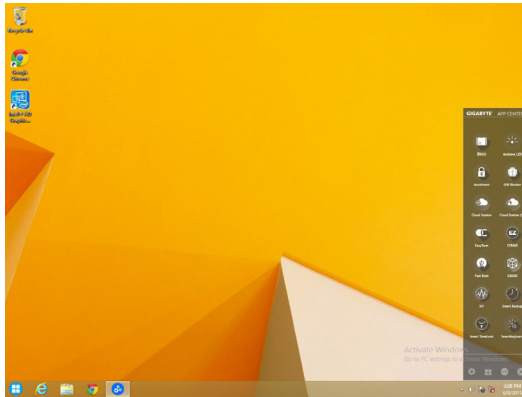


図 1

App Center が閉じている場合は、Apps メニューで Launch App Center アイコンをクリックすると再起動できます(図 2)。

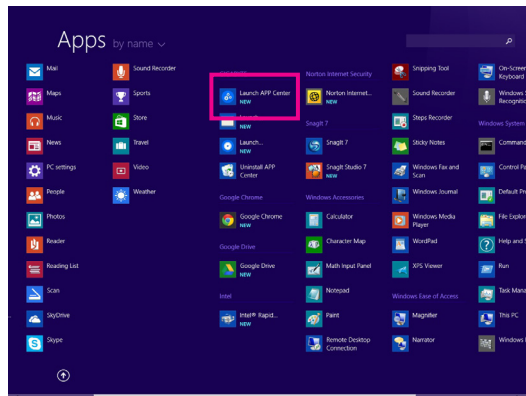


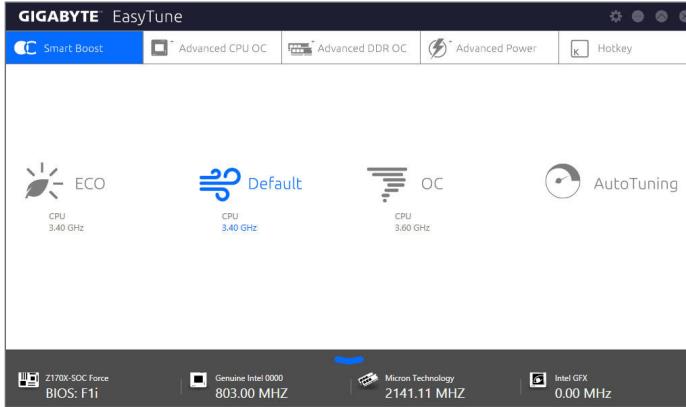
図 2

(注) App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。

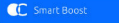
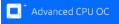
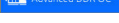


5-2-1 EasyTune

GIGABYTE の EasyTune はシンプルな使いやすいインターフェイスで、Windows 環境でシステム設定の微調整やオーバークロック/過電圧が行えます。

EasyTune のインターフェイス



タブ情報

タブ	説明
 Smart Boost	Smart Boost タブでは、希望するシステムパフォーマンスを達成できるように、各種レベルの CPU 周波数を備えています。変更を行ったら、変更を有効にするために必ずシステムを再起動してください。
 Advanced CPU OC	Advanced CPU OC タブでは、CPU ベースクロック、周波数、電圧、統合されたグラフィック周波数を設定できます。現在の設定をプロファイルに保存できます。最大 2 つのプロファイルを作成できます。
 Advanced DDR OC	Advanced DDR OC タブでは、メモリクロックを設定できます。
 Advanced Power	Advanced Power (アドバンストパワー) タブを用いることで、電圧を調整することができます。
 Hotkey	HotKey (ホットキー) タブを用いることで、プロファイルに対するキーを設定することができます。



EasyTune で利用可能な機能は、マザーボードモデルおよび CPU によって異なります。淡色表示になったエリアは、アイテムが設定できないか、機能のサポートされていないことを示しています。

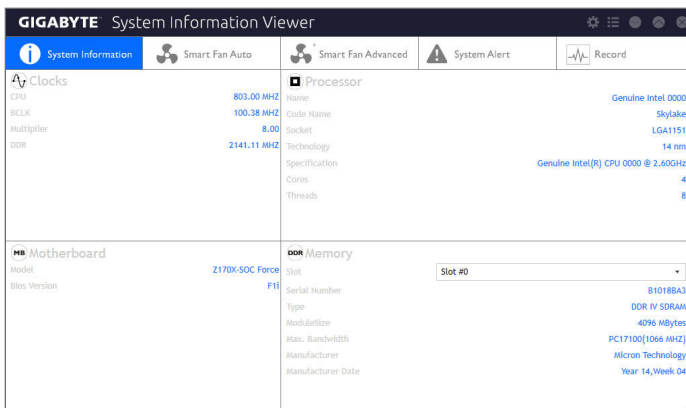


オーバークロック/過電圧を間違えて実行すると CPU、チップセット、またはメモリなどのハードウェアコンポーネントが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。オーバークロック/過電圧を実行する前に、EasyTune の各機能を完全に理解していることを確認してください。そうでないと、システムが不安定になったり、その他の予期せぬ結果が発生する可能性があります。






5-2-2 System Information Viewer

GIGABYTE System Information Viewerでは、オペレーティングシステムでファン速度を監視し、調節できます。常時システム状態を表示するために、デスクトップ上にハードウェア監視情報を表示することもできます。

System Information Viewerのインターフェイス



タブ情報

タブ	説明
 System Information	System Information タブでは、取り付けられた CPU、マザーボード、および BIOS パージョンに関する情報が得られます。
 Smart Fan Auto	Smart Fan Auto タブでは、スマートファンモードを指定します。
 Smart Fan Advanced	Smart Fan Advance タブでは、スマートファンの速度を調整できます。ファンは、システム温度によって異なる速度で動作します。 Smart Fan オプションを使用すると、ファンの作業負荷をシステム温度によって調整したり、 RPM Fixed Mode オプションを使用してファン速度を固定することができます。 Calibrate ボタンをクリックすると、較正後のファンの作業負荷全体に関するファン速度が表示されます。 Reset ボタンを使用すると、ファン設定を前回保存時の値に戻すことができます。
 System Alert	System Alerts タブでは、ハードウェアの温度、電圧およびファン速度を監視するとともに、温度/ファン速度アラームを設定します。
 Record	Record タブでは、システムの電圧、温度、ファン速度の変化を記録できます。記録処理中に Record タブを出ると記録が停止することに注意してください。

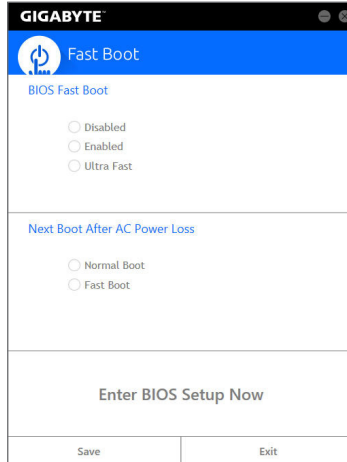


速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。

5-2-3 Fast Boot

シンプルな GIGABYTE Fast Boot^(注1) インターフェイスを介して、オペレーティングシステムにある Fast Boot 設定または Next Boot After AC Power Loss 設定を有効にしたり、変更することができます。

Fast Boot インターフェイス



Fast Boot の使用

- **BIOS Fast Boot:**

このオプションは、BIOS のセットアップにある **Fast Boot** オプション^(注2) と同じです。OS の起動時間を短縮する高速ブート機能を有効または無効にすることができます。

- **Next Boot After AC Power Loss**

このオプションは、BIOS セットアップにある **Next Boot After AC Power Loss** オプション^(注2) と同じです。AC 電源喪失が返されたときにシステム起動モードを選択できるようになります。(このモードは、BIOS Fast Boot の設定が **Enabled** または **Ultra Fast** のときのみ設定できます。)

設定を行ったら、**Save** をクリックして保存し、**Exit** をクリックします。設定は次回起動時に有効になります。**Enter BIOS Setup Now** ボタンをクリックすると、システムが再起動し、ただちに BIOS セットアップに入ります。

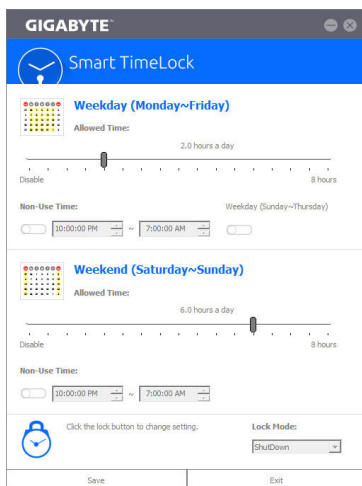
(注1) この機能は Windows 10/8.1 でのみ対応しています。

(注2) この機能の詳細については、2 章「BIOS の機能」を参照してください。


5-2-4 Smart TimeLock

GIGABYTE Smart TimeLockでは、単純な規則とオプションでコンピュータまたはインターネットの使用時間を効率的に管理できます。

Smart TimeLockインターフェイス



Smart TimeLockの使用

左角のLockアイコン  をクリックして、パスワードを入力してください。(注) 週日または週末にコンピュータの許可される/許可されない使用時間を設定します。右下隅にあるLock Modeでは、指定した期間中コンピュータの電源を切るか、インターネット接続のみを閉じるかを選択できます。Save をクリックして設定を保存し、Exit をクリックして終了します。

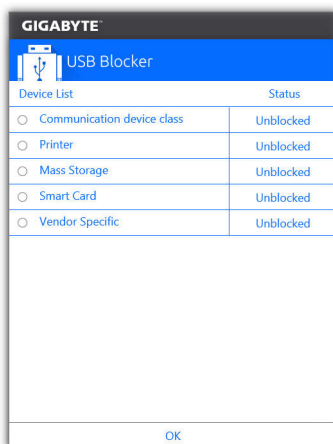
デフォルトのシャットダウン時間の15分と1分前にリマインダーが表示されます。リマインダーが表示されたら、パスワードを入力して使用時間を伸ばしたり、Cancel をクリックしてリマインダーを閉じることができます。リマインダーに対してCancel を選択すると、シャットダウン時間に使用時間を伸ばしたり、コンピュータを直ちにシャットダウンするには、パスワードを入力するように要求されます。

(注) システムのBIOSセットアッププログラムで、システムが他のユーザーに変更されないようにユーザーパスワードを設定することができます。

5-2-5 USB Blocker

GIGABYTE USB Blocker は、お使いの PC 上で特定の USB 機器タイプをブロックできるようにする使いやすいインターフェイスを提供します。ブロックされたUSB機器はオペレーティングシステムによって無視されます。

USB Blocker インターフェイス



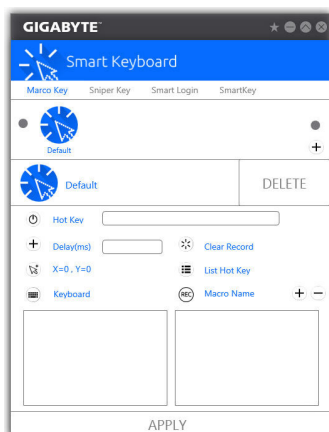
USB Blocker の使用

ブロックまたはブロック解除したい USB 機器のクラスを選択します。**Blocked** または **Unblocked** の状態に変更するには左ダブルクリックし、**OK** をクリックします。続いてパスワードを入力し、**OK** をクリックして完了します。

5-2-6 Smart Keyboard

GIGABYTE スマートキーボードを用いることで、独自のコマンド/ホットキーを定義したり、マウスの感度を変更したり、Web ページや文書ファイルを開くためのショートカットとパスワードを作成したりして、キーボードおよびマウスを最大限に活用することができます。

Smart Keyboardインターフェイス



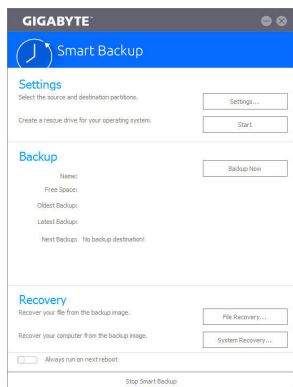
Smart Keyboardの使用：

- **マクロキー：**
マクロコマンドを作成し、独自のホットキーを定義することで、希望する機能を素早く行えます。
- **Sniper キー：**
Sniper キーを使用すると、スナイパーの精度を向上させるスナイパーモードのときにマウスの感度を切り替えることができます。
- **スマートログイン：**
Web ページまたは文書ファイルを開くためのショートカットとパスワードを作成します。
- **スマートキー：**
オーバークロック機能および省電力機能をアクティブ化するためにホットキーを有効または無効にします。

(注) ゲームのエンドユーザーライセンス契約に違反する場合は、Smart Keyboardを閉じることをお勧めします。

5-2-7 Smart Backup

Smart Backupにより、画像ファイルとしてパーティションを1時間ごとにバックアップできます。これらの画像を使用して、必要ときにシステムやファイルを復元できます。

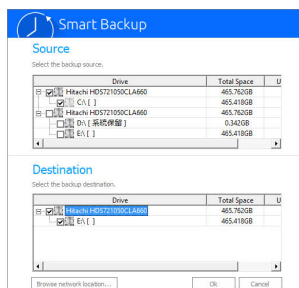


Smart Backupメインメニュー:

ボタン	説明
Settings	ソースと宛先パーティションを選択します
スタート	レスキュードライブを作成することができます
Backup Now	今すぐ、バックアップを実行できます
File Recovery...	バックアップ画像からファイルを回復できます
System Recovery...	バックアップ画像からシステムを回復できます



- Smart BackupはNTFSファイルシステムのみをサポートします。
- Smart Backupを初めて使用する時、宛先パーティション **Settings** を選択する必要があります。
- **Backup Now** ボタンは 10 分間 Windows にログインした後のみ利用可能です。
- **Always run on next reboot** チェックボックスを選択すると、システム再起動後に Smart Backup が自動的に有効になります。

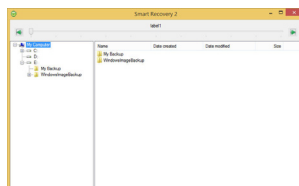


バックアップを作成する:

メインメニューで **Settings** ボタンをクリックします。**Settings** ダイアログボックスで、ソースパーティションと宛先パーティションを選択し、**OK** をクリックします。最初のバックアップは10分後に開始され、定期的バックアップが1時間ごとに行われます。注:既定値で、システムドライブのすべてのパーティションはバックアップソースとして選択されます。バックアップ宛先をバックアップソースと同じパーティションに置くことはできません。

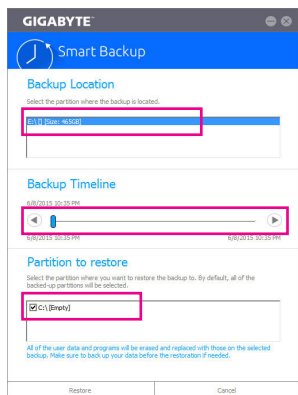
バックアップをネットワークの場所に保存する:

バックアップをネットワークの場所に保存するには、**Browse network location** を選択します。必ずお使いのコンピューターとバックアップを保存するコンピューターが同じドメインにあるようにします。バックアップを格納し、ユーザー名とパスワードを入力するネットワークの場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って完了してください。



ファイルを回復する:

メインメニューで **File Recovery** ボタンをクリックします。ポップアップ表示されたウィンドウ上部のタイムスライダーを使用して前のバックアップ時間を選択します。右ペインには、バックアップ宛先のバックアップされたパーティションが (**My Backup** フォルダに) 表示されます。希望のファイルを開覧してコピーします。



Smart Backupでシステムを回復します：

ステップ：

1. メインメニューで **System Recovery** ボタンをクリックします。
2. バックアップを保存する場所を選択します。
3. 時間スライダーを使用してタイムポイントを選択します。
4. 選択したタイムポイントで作成したパーティションバックアップを選択し、**Restore** をクリックします。
5. システムを再起動して、今すぐ復元を進めるかまたは後で復元を進めるかを確認します。「はい」と答えると、システムは再起動してWindows回復環境に戻ります。オンスクリーンの指示に従ってシステムを回復します。

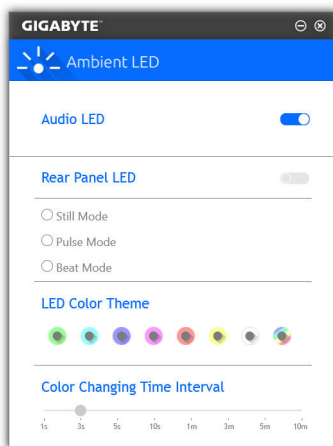


ファイルとプログラムがすべて削除され、選択したバックアップに置き換えられます。必要に応じて、復元前にデータのコピーを必ず作成してください。

5-2-8 Ambient LED

GIGABYTE 周囲 LED により、Windows 環境において、オンボードのオーディオ LEDs および背面パネルの I/O シールド^(注) LEDs に対する表示モードを有効化または変更することができます。

Ambient LED のインターフェイス



Ambient LED の使用

- **Audio LED:**
オンボードオーディオ LED を有効または無効にすることができます。
- **Rear panel LED (注):**
リアパネル LED を有効または無効にし、LED の動作を指定することができます。

Still Mode (スチルモード) -- LED は常時点灯します。
Beat Mode (ビートモード) -- ご利用のシステム上で再生される音楽のリズムに合わせて LED が点滅します。
Pulse Mode (パルスモード) -- LED が息のようにゆっくりと滑らかに点滅します。
- **LED の色のテーマ:**
LED の色を指定・表示することができます。
- **LED 変化時間間隔:**
Color loop (色ループ) オプションを選択した場合、色の変化する間隔を指定することができます。

(注) この機能は、オーディオ LEDs がある I/O シールド付きのマザーボードでのみ動作します。

5-2-9 3D OSD

3D OSD^(注)は、ゲーム中に自動的にシステム情報を検出・表示し、画面間を切り替えることなく、簡単にシステム情報を把握することができます。

3D OSD インターフェイス



3D OSD を使用する

メインメニュー：

3D OSD 機能を有効または無効にしたり、表示するリアルタイムのシステム情報の種類を選択したりすることができます。3D OSD が、利用可能なオプションを検出し、一覧表示します。

構成メニュー：

3D OSD の有効化/無効化のためのホットキーを設定したり、表示するフォントサイズ/位置/色を指定したりすることができます。

(注) 3D OSD をインストールする前にご利用のシステムに DirectX エンドユーザーランタイムがインストールされていることを確認してください。

5-2-10 Cloud Station

GIGABYTE Cloud Station (サーバー) は、HomeCloud、GIGABYTE Remote、Remote OC、および HotSpot で構成されており、スマートフォン、タブレットデバイスおよびリモートコンピュータを使って、ワイヤレス接続を介して、通信、リソース共有およびホストコンピュータの制御を行うことができます。Cloud Station を用いることで、ご利用のコンピュータで、Cloud Station (サーバー) がインストールされた別のコンピュータとファイルを共有することができます。

始める前に:

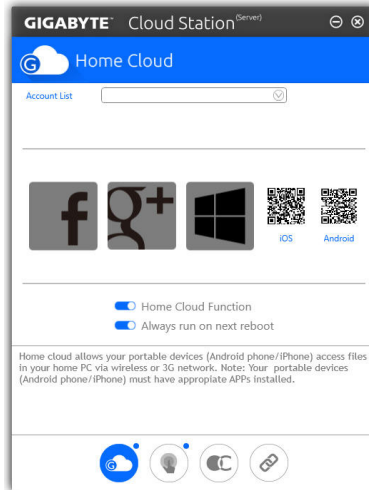
- HomeCloud、GIGABYTE Remote、Remote OC を使用するには、GIGABYTE Cloud Station をお使いのスマートフォン/タブレット機器にインストールする必要があります。(Android システムの場合はアプリを Google Play からダウンロードしてください。iOS システムの場合は App Store からダウンロードしてください。)^(注1)
- コンピュータ間で HomeCloud ファイルを共有するには、ホストコンピュータに Cloud Station (サーバー) を、リモートコンピュータに Cloud Station をインストールする必要があります。
- スマートフォン/タブレット機器のバージョンは Android 4.0/iOS 6.0 以上である必要があります。
- 初めて HomeCloud、GIGABYTE Remote、および、Remote OC を使用する際は、Google/Facebook/Windows Live アカウントでサインインしなければなりません。ご利用のスマートフォン/タブレットデバイスおよびコンピュータでも必ず同じアカウントでサインインしてください。

HomeCloud

HomeCloud を用いることで、ご利用のスマートフォン/タブレットデバイス/コンピュータからホストコンピュータにファイルをアップロード/ダウンロード/バックアップすることができます^(注2)。

HomeCloud のインターフェイス

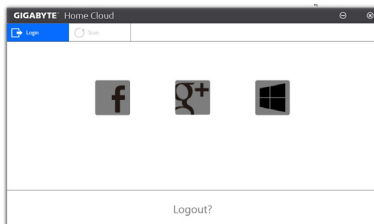
Cloud Station (サーバー):



(注1) スマートフォン/タブレット機器を使用して、App Storeまたは Google Play にある GIGABYTE Cloud Station のダウンロードページにリンクする HomeCloud UI の QR コードをスキャンすることができます。

(注2) iOS システムの場合、ファイルタイプは画像 / 動画ファイルに限定されています。

Cloud Station:



HomeCloud の使用

ステップ 1:

HomeCloud をホストコンピュータ (Cloud Station (サーバー) がインストールされた) 上で起動し、Google/Facebook/Windows Live アカウントでサインインするか、**Account List (アカウントリスト)** でアカウントを選択します。続いて、**HomeCloud Function** を有効にします。システム再起動後にこの機能を自動的に有効にするには、**Always run on next reboot** を有効にします。

ステップ 2:

Cloud Station をご利用のスマートフォン/タブレットデバイス/リモートコンピュータ上で実行し、ホストコンピュータ上で HomeCloud に対して使用したものと同一アカウントでサインインしてください。**HomeCloud** をタップして、次の機能を実行します。

ホストコンピューター上で:

オプション	機能
Account List	現在サインインしているアカウントを表示します。
Remove	選択されたアカウントを削除します。
Share Folder	現在サインインしているアカウントの共有フォルダーのディレクトリを表示します。
Open Folder	現在サインインしているアカウントの共有フォルダーにアクセスします。

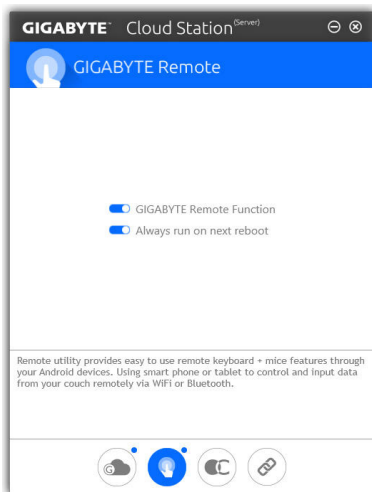
スマートフォン/タブレットデバイス/リモートコンピュータ上で:

オプション	機能
All Picture Files	ファイルのアップロード:フォルダーをタップして、内部のファイルを参照し、選択できます。メニューアイコンをタップし、 Upload selected Files を選択して、ファイルをコンピューターにアップロードします。
All Music Files	
All Video Files	ファイルのダウンロード:フォルダーをタップしてから、メニューアイコンをタップし、 Download Files を選択します。ファイルを参照し、スマートフォン/タブレット機器にダウンロードするファイルを選択できます。
All Files	
User Contacts	フォルダーをタップしてからメニューアイコンをタップすると、 Backup to remote, Restore From remote, View Remote Contact, Reselect Computers などのオプションを使用できます。
Call Log	

GIGABYTE Remote

GIGABYTE Remote では、スマートフォン/タブレット機器を使用してコンピューターのマウス、キーボード、Windows Media Player を遠隔制御できます。

GIGABYTE Remote インターフェイス



GIGABYTE Remote を使用する

ステップ 1:

ホストコンピュータ上で、GIGABYTE Remote を起動し、**GIGABYTE Remote Function (GIGABYTE Remote 機能)**を有効にします。システム再起動後にこの機能を自動的に有効にするには、**Always run on next reboot**を有効にします。

ステップ 2:

スマートフォン/タブレット機器で GIGABYTE Cloud Station を実行します。コンピュータ上で使用する HomeCloud のアカウントと同じアカウントでサインインします。**Remote Control**をタップすると、次の遠隔制御を行えます。

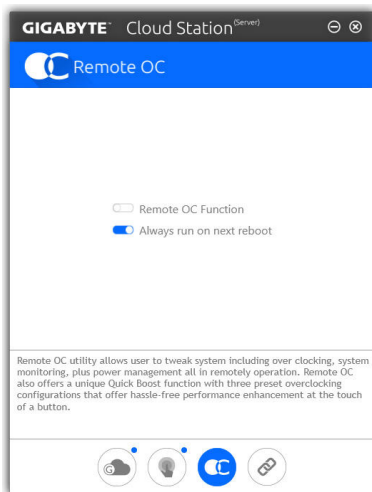
スマートフォン/タブレット機器で:

オプション	機能
Mouse	ドラッグ、右 / 左クリック、マウスの左ボタンの長押しといったマウスの機能をリモートから行えます。
Keyboard	文字の入力(リアルタイムモードをタップして文字を入力する)または削除など、キーボードを遠隔制御できます。
Media	コンピューター上で現在実行中の Windows Media Player アプリケーションをリモートで設定し、制御できます。

Remote OC

Remote OC は、オーバークロック、システム調整、システム監視などの遠隔制御オプションを提供するとともに、必要な場合にリモートでPCの電源を切ったりリセットする機能も提供しています。

Remote OC インターフェイス



Remote OC を使用する

ステップ 1:

ホストコンピュータ上で、Remote OC を起動し、**Remote OC Function (Remote OC 機能)** を有効にします。システム再起動後にこの機能を自動的に有効にするには、**Always run on next reboot** を有効にします。

ステップ 2:

スマートフォン / タブレット機器で GIGABYTE Cloud Station を実行します。コンピュータ上で使用する HomeCloud のアカウントと同じアカウントでサインインします。**Remote OC** をタップして次の機能を実行します。

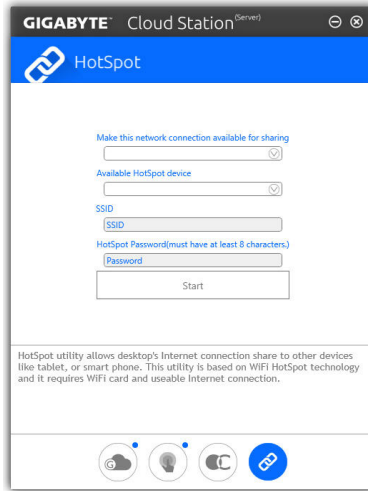
スマートフォン / タブレット機器で:

オプション	機能
Tuner	CPUまたはメモリの周波数と電圧設定を変更することができます。
INFO	CPU、マザーボード、およびメモリを含むシステム情報を表示します。
HW MONIT	システムの温度、電圧、ファン速度を監視できるようになります。
QUICK BOOST	事前設定された3つのオーバークロック設定があります。
CONTROL	コンピュータをリモートで再起動またはシャットダウンできるようになります。

HotSpot

HotSpot は、お使いのコンピューターを仮想ワイヤレスアクセスポイントに変えるとともに、他のワイヤレス機器と接続を共有できるようになります。コンピューターがネットワークに接続され、Wi-Fi が有効であることを確認してください。

HotSpot のインターフェイス



HotSpot の使用:

ホストコンピューターの設定:

オプションは次のとおりです。必ず**開始**をクリックして完了してください。

- **このネットワーク接続を共有可能にする:**
現在実行中のネットワーク接続で共有したいものを選択します。
- **利用可能な HotSpot デバイス:**
ネットワークの仮想アダプターを選択します。コンピューターに1つ以上の Wi-Fi カードがある場合、リストから使用するカードを選択する必要があります。
- **SSID:**
Hotspot SSID の名前です。既定の名を保持するかまたは新規作成します。
- **HotSpot パスワード (少なくとも 8 文字以上にする必要があります):**
他のワイヤレス機器が仮想ワイヤレスアクセスポイントを通してインターネットにアクセスする場合、パスワードが必要になります。既定の名を保持するかまたは新規作成します。パスワードは 8 文字以上で、空にすることはできません。

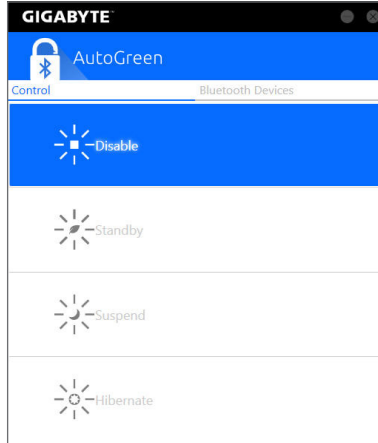
他のワイヤレス機器と接続を共有する:

まずワイヤレス機器で Wi-Fi が有効になっていることを確認してください。続いて、ネットワーク構成画面を参照し、利用可能な Wi-Fi ネットワークを検索してから、仮想ワイヤレスアクセスポイント名をタップし、パスワードを入力して確認します。

5-2-11 AutoGreen

AutoGreen^(注)は、Bluetooth 対応スマートフォン/タブレット機器を経由してシステムの省電力を有効にするシンプルなオプションを提供する使いやすいツールです。Bluetooth デバイスがコンピュータの Bluetooth レシーバーの範囲外にあるとき、指定された省電力モードに入ります。このアプリを使用する前に、コンピュータとスマートフォン/タブレット機器の両方で Bluetooth をオンにする必要があります。

AutoGreen のインターフェイス



Control タブ:

Control タブでは、システムの省電力モードを選択できます。

ボタン	説明
Disable	この機能を無効にします
Standby	パワーオンサスペンドモードに入ります
Suspend	サスペンドトゥ RAM モードに入ります
Hibernate	サスペンドトゥディスクモードに入ります

Bluetooth Devices タブ:

Bluetooth タブでは、スマートフォン/タブレット機器とコンピュータ上の Bluetooth レシーバーをペアリングできます。**Refresh**を押すと、AutoGreen が周辺の Bluetooth デバイスを検索します。コンピュータとスマートフォン/タブレット機器の両方に、2 台のデバイスのパスコードを比較してくださいというメッセージが表示されます。確認してペアリング処理を完了します。

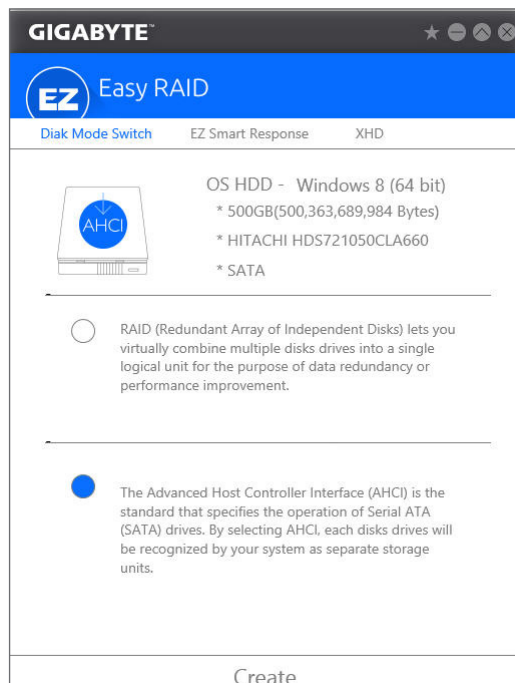
(注) お使いのスマートフォン/タブレットデバイスが、AutoGreen 対応のコンピュータとペアリングされている場合、他の Bluetooth デバイスに接続して使用することはできません。

5-2-12 Easy RAID

GIGABYTE Easy RAID ユーティリティには、非常に簡略化されたインストールおよび構成手順を提供する次の「EZ」セットアップアプリケーションが含まれています。Disk Mode Switch、EZ Smart Response および XHD。

Disk Mode Switch

Disk Mode Switch を用いることで、ハードドライブをオペレーティングシステムにインストールした後でも、SATA コントローラのディスクモードを AHCI から RAID モードに変更することができます。動作モードを切り替えた後、ご利用のコンピュータを再起動し、Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティが正常に動作していることを確認してください。



EZ Smart Response

A. システム要件

1. この機能をサポートする Intel® チップセットベースのマザーボード
2. Intel® コアシリーズプロセッサ
3. RAID モードに設定された Intel® SATA コントローラー
4. Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティがインストール済み (注1)
5. 従来の SATA ディスクおよび SSD (注2)
6. Windows 7 SP1/Windows 8.1/Windows 10 (注3)

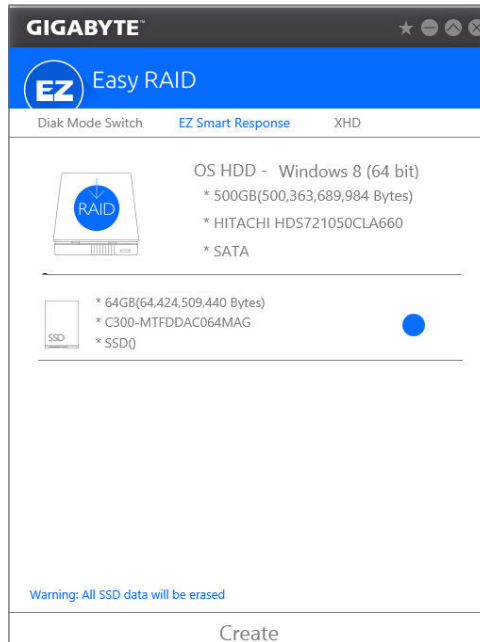


Smart Response Technology を設定する前にオペレーティングシステムをすでにインストールしている場合、RAID モードを有効にすると、SSD の元のデータがすべて失われます (注4)。Smart Response Technology を有効にする前に、ハードディスクのバックアップを取るようにお勧めします。

B. EZ Smart Response の使用

EZ Smart Response を選択し、**Create** をクリックします。

この機能を無効にするには **Delete** をクリックします。



- (注1) 開始する前に、Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティ (バージョン 14.5 以上) がインストールされていることを確認してください。
- (注2) SSD は、ハードディスクのキャッシュとして動作します。最大のキャッシュメモリサイズは 64 GB です。64 GB より大きな容量の SSD を使用する場合、64 GB を超えるスペースはデータの保存用に使用することができます。
- (注3) オペレーティングシステムは SATA ディスクにインストールする必要があります。
- (注4) BIOS セットアップで SATA コントローラーが AHCI モードに設定されている場合、それらは強制的に RAID モードになります。

XHD

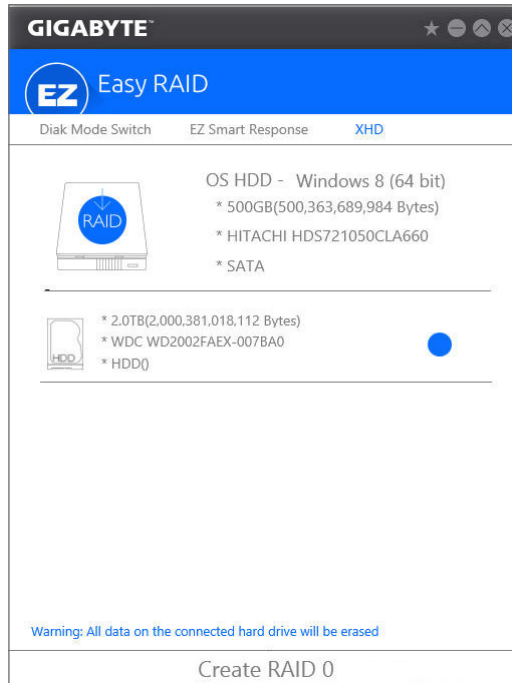
GIGABYTE XHD^(注1)により、新しい SATA ドライブを追加すると RAID 0 用の RAID 対応システムを素早く構成できます。ボタンを 1 回クリックするだけで、XHD は複雑で時間のかかる構成をせずにハードドライブの読み込み/書き込みパフォーマンスを拡張することができます。

A. システム要件

1. RAID をサポートする Intel® チップセットマザーボード
2. RAID モードに設定された Intel® SATA コントローラー
3. Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティがインストール済み
4. Windows 7 SP1/Windows 8.1/Windows 10
5. Intel® SATA コントローラードライバがインストール済み

B. XHD の使用

XHD を選択し、必要に応じて **Create RAID 0** をクリックします^(注2)。



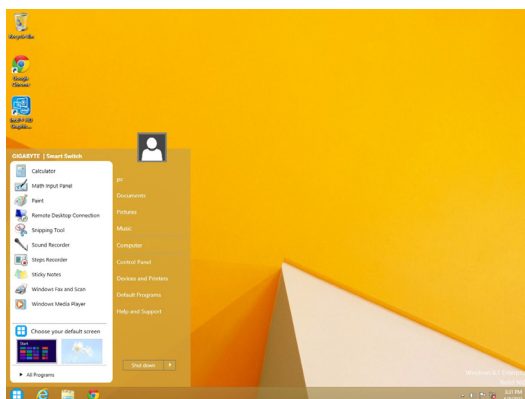
(注1) XHD ユーティリティは、Intel® チップセットによって制御される SATA コネクタのみをサポートします。

(注2) オペレーティングシステムドライブを除き、他のハードドライブにあるデータがすべて削除されます。XHD ユーティリティを使用する前にデータをバックアップしてください。


5-3 Smart Switch

GIGABYTE Smart Switch は、従来型の Windows スタートメニューを備えています。これにより、よく使うアプリに簡単にアクセスできます。また、Windows に入った後デフォルトの画面を表示するよう選択することもできます。

Smart Switch インターフェイス



Smart Switch の使用

Smart Switch をインストールすると、Smart Switch アイコン  が従来型の Windows デスクトップ画面の左下隅に表示されます。アイコンを左クリックすると、上に画面が表示されて、Windows に入った後のデフォルト画面を設定することができます。

第 6 章 付録

6-1 オーディオ入力および出力を設定

6-1-1 2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオを設定する

マザーボードでは、背面パネルに 2/4/5.1/7.1 チャンネル^(注) オーディオをサポートするオーディオジャックが 5 つ装備されています。右の図は、デフォルトのオーディオジャック割り当てを示しています。



- 4/5.1/7.1チャンネルオーディオを設定するには、オーディオドライバを通してオーディオジャックのどれかをサイドスピーカーアウトに再び設定する必要があります。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。バックパネルのオーディオを消音にする場合 (HDフロントパネルのオーディオモジュールを使用しているときのみサポートされます)、次ページの指示を参照してください。


ハイディフィニションオーディオ (HD Audio)

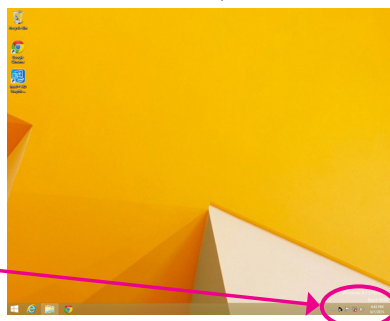
HD Audioには、複数の高品質デジタル - アナログコンバーター (DAC) があり、複数のオーディオストリーム (インおよびアウト) を同時に処理できるマルチストリーミング機能を特長としています。たとえば、MP3 ミュージックを聴いたり、インターネットチャットを行ったり、インターネットで通話を行ったりといった操作を同時に実行できます。

A. スピーカーを設定する

(以下の指示は、例として Windows 8.1 オペレーティングシステムを使用します。)

ステップ 1:

オーディオドライバをインストール後、コンピュータを再起動してください。続いて、Windows デスクトップモードに切り替えます。HD Audio Manager アイコン  が通知領域に表示されます。アイコンをクリックして、HD Audio Manager にアクセスします。



(注) 2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオ設定:

マルチチャンネルスピーカー設定については、次を参照してください。

- 2チャンネルオーディオ: ヘッドフォンまたはラインアウト。
- 4チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウトとリアスピーカーアウト。
- 5.1チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウト、リアスピーカーアウトとセンター/サブウーファースピーカーアウト。
- 7.1チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウト、リアスピーカーアウト、センター/サブウーファースピーカーアウトとサイドスピーカーアウト。

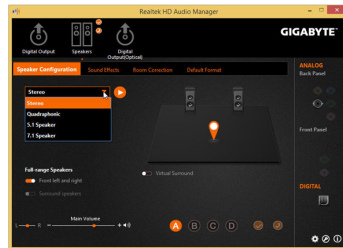
ステップ 2:

オーディオデバイスをオーディオジャックに接続します。**The current connected device is** ダイアログボックスが表示されます。接続するタイプに従って、デバイスを選択します。**OK** をクリックします。



ステップ 3:


Speakers スクリーンで **Speaker Configuration** タブをクリックします。**Speaker Configuration** リストで、セットアップする予定のスピーカー構成のタイプに従い **Stereo**、**Quadraphonic**、**5.1 Speaker**、または **7.1 Speaker** を選択します。スピーカーセットアップが完了しました。

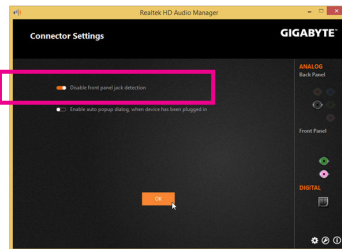


B. サウンド効果を設定する


Sound Effects タブでオーディオ環境を構成することができます。

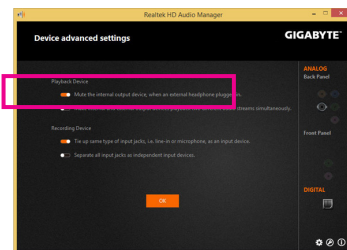
C. AC'97 フロントパネルオーディオモジュールを有効にする

PCケースにAC'97フロントパネルオーディオモジュールが付いている場合は、AC'97機能をアクティブにするため、画面右下にあるツールアイコン  をクリックします。**Connector Settings** ダイアログボックスで、**Disable front panel jack detection** チェックボックスを選択します。**OK** をクリックして完了します。



D. バックパネルオーディオを消音する (HDオーディオのみ)

Device advanced settings アイコン  をクリックし、**Device advanced settings** ダイアログボックスを開きます。**Mute the rear output device, when a front headphone plugged in** チェックボックスを選択します。**OK** をクリックして完了します。

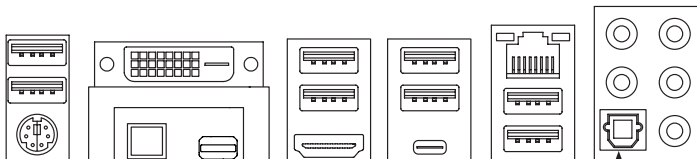


6-1-2 S/PDIF アウトを構成する

S/PDIF アウト ジャックはデコード用にオーディオ信号を外部デコーダに転送し、最高の音質を得ることができます。

1.S/PDIF アウトケーブルを接続する:

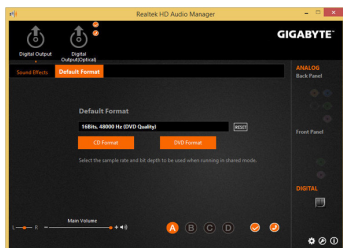
S/PDIF光学ケーブルを外部デコーダーに接続して、S/PDIFデジタルオーディオ信号を送信します。



S/PDIF光学ケーブルに接続する


2.S/PDIF アウトを構成する:

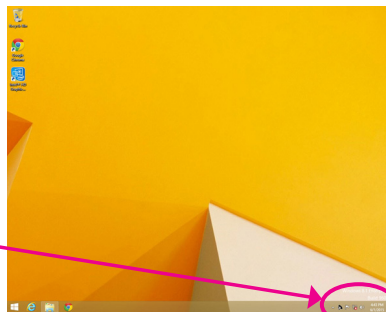
Digital Output(Optical)でスクリーンで(注)、**Default Format** タブをクリックし、サンプルレートとビット深度を選択します。**OK** をクリックして完了します。



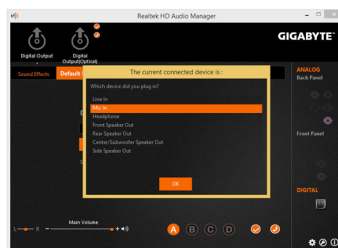
(注) デジタルオーディオ出力で背面パネルにS/PDIFアウトコネクタを使用している場合、詳細な設定を行うには**Digital Output(Optical)**画面を入力します、またはデジタルオーディオ出力で内部S/PDIFアウトコネクタ(SPDIF_0)を使用している場合、デジタル出力画面を入力します。

6-1-3 マイク録音を構成する

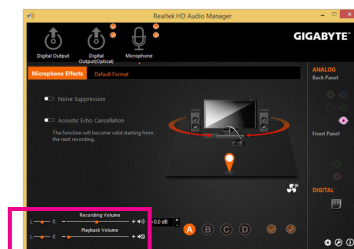
ステップ 1:
Windows デスクトップモードに切り替えます。HD Audio Manager アイコン  が通知領域に表示されます。アイコンをクリックして、HD Audio Manager にアクセスします。



ステップ 2:
マイクをバックパネルのマイクイン(ピンク)、またはフロントパネルのマイクイン(ピンク)に接続します。マイク機能用にジャックを構成します。注:フロントパネルとバックパネルのマイク機能は、同時に使用できません。





ステップ 3:
Microphone 画面に移動します。録音ボリュームを消音にしないでください。サウンドの録音ができなくなります。録音プロセス中に録音されているサウンドを聞くには、再生ボリュームを消音にしないでください。中間レベルの音量に設定することをお勧めします。

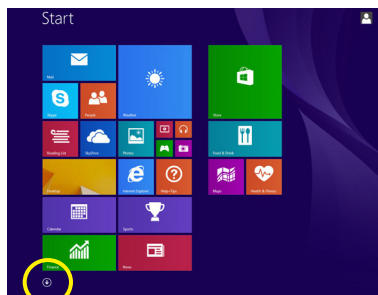


ステップ 4:
マイク用の録音と再生ボリュームを上げるには、Recording Volumeスライドの右のRecording Volumeをクリックし、マイクのブースとレベルを設定します。



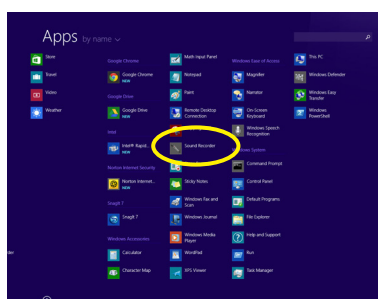
ステップ 5:

Sound Recorder を開くには、マウスカーソルを画面左下隅に移動させ、**Start**  アイコンをクリックして **Start** 画面に切り替えます (またはキーボードの Windows ボタンを押します)。画面左下隅の  アイコンをクリックして **Apps** 画面にアクセスします。



ステップ 6:

音声録音をするには、画面上で **Sound Recorder** をクリックします。

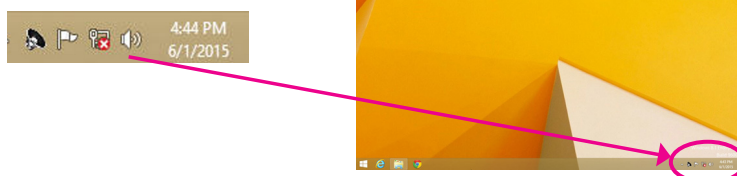


* Stereo Mix (ステレオミックス) を有効にする

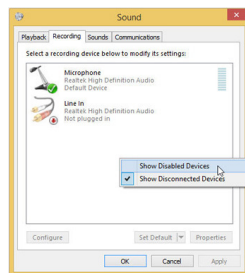
HD Audio Managerで使用する録音デバイスが表示されない場合、以下のステップを参照してください。次のステップではStereo Mix(ステレオミックス)を有効にする方法を説明しています(コンピュータからサウンドを録音するときが必要となります)。

ステップ 1:

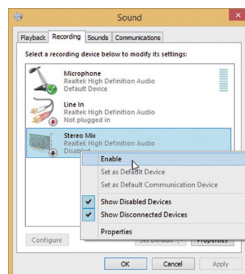
Windows デスクトップモードに切り替えます。通知領域でアイコン  を確認し、このアイコンを右クリックします。**Recording Devices** を選択します。



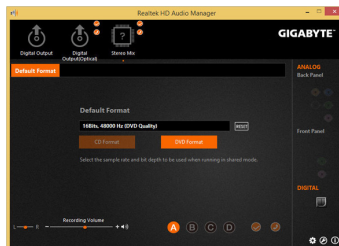
ステップ 2:
Recording タブで、空の領域を右クリックし、**Show Disabled Devices** を選択します。



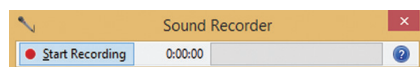
ステップ 3:
Stereo Mix が表示されたら、項目を右クリックし **Enable** を選択します。デフォルトのデバイスとしてこれを設定します。



ステップ 4:
HD Audio Manager にアクセスして **Stereo Mix** を構成し、**Sound Recorder** を使用してサウンドを録音することができます。



6-1-4 Sound Recorder を使用する



A. サウンドを録音する

1. コンピュータにサウンド入力デバイス(マイク、など)を接続していることを確認します。
 2. オーディオを録音するには、**Start Recording** ボタン **Start Recording** をクリックします。
 3. オーディオ録音を停止するには、**Stop Recording** ボタン **Stop Recording** をクリックします。
- 完了したら、録音したオーディオファイルを必ず保存してください。

B. 録音したサウンドを再生する

オーディオファイル形式をサポートするデジタルメディアプレーヤープログラムで録音を再生することができます。

6-2 トラブルシューティング

6-2-1 良くある質問

マザーボードに関する FAQ の詳細をお読みになるには、GIGABYTE の Web サイトの **Support & Downloads**FAQ ページにアクセスしてください。

Q: なぜコンピュータのパワーを切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか?

A: いくつかのマザーボードでは、コンピュータのパワーを切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

Q: CMOS 値をクリアするには?

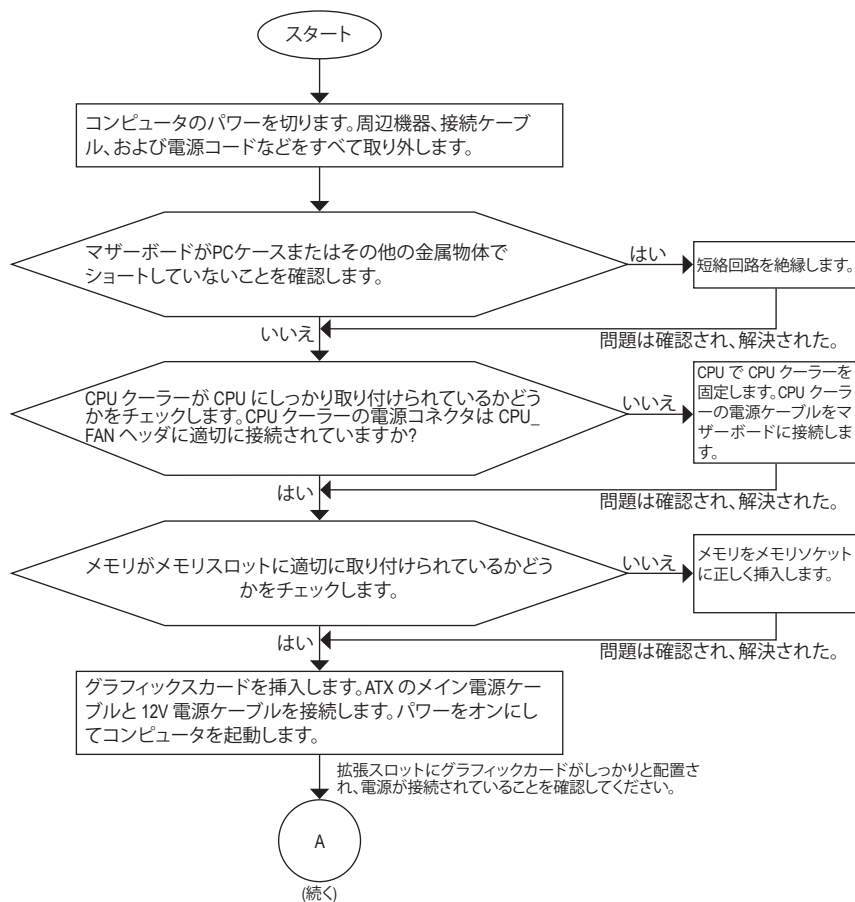
A: クリアCMOSボタンの付いたマザーボードの場合、このボタンを押してCMOS値をクリアします(これを実行する前に、コンピュータの電源をオフにし電源コードを抜いてください)。クリアCMOSジャンパの付いたマザーボードの場合、第1章のCLR_CMOSジャンパの指示を参照し、CMOS値をクリアします。ボードにこのジャンパボタンが付いてない場合、第1章のマザーボードバッテリーに関する説明を参照してください。バッテリーホルダからバッテリーを一時的に取り外してCMOSへの電力供給を止めると、約1分後にCMOS値がクリアされます。

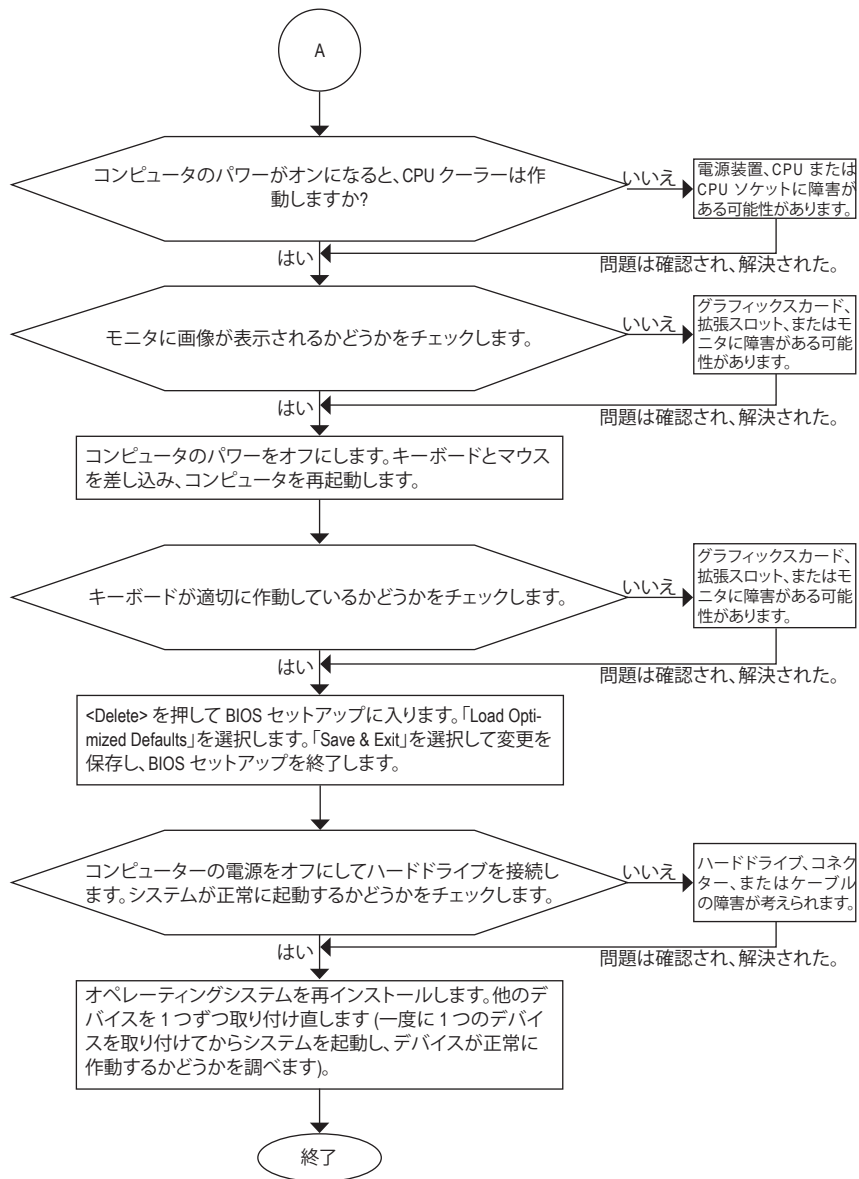
Q: なぜスピーカーの音量を最大にしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか?

A: スピーカーにアンプが内蔵されていることを確認してください。内蔵されていない場合、電源/アンプでスピーカーを試してください。

6-2-2 トラブルシューティング手順

システム起動時に問題が発生した場合、以下のトラブルシューティング手順に従って問題を解決してください。





上の手順でも問題が解決しない場合、ご購入店または販売店に相談してください。または、**Support** | **Technical Support** ページに移動し、質問を送信してください。当社の顧客サービス担当者が、できるだけ速やかにご返答いたします。

6-3 LED コードのデバッグ

通常起動

コード	説明
10	PEI コアが開始されます。
11	プレメモリ CPU の初期化が開始されます。
12~14	予約済みです。
15	プレメモリノースブリッジの初期化が開始されます。
16~18	予約済みです。
19	プレメモリサウスブリッジの初期化が開始されます。
1A~2A	予約済みです。
2B~2F	メモリーの初期化。
31	メモリがインストールされています。
32~36	CPU PEI の初期化。
37~3A	IOH PEI の初期化。
3B~3E	PCH PEI の初期化。
3F~4F	予約済みです。
60	DXE コアが開始されます。
61	NVRAM の初期化。
62	PCH ランタイムサービスのインストール。
63~67	CPU DXE の初期化が開始されます。
68	PCI ホストブリッジの初期化が開始されます。
69	IOH DXE の初期化。
6A	IOH SMM の初期化。
6B~6F	予約済みです。
70	PCH DXE の初期化。
71	PCH SMM の初期化。
72	PCH devices の初期化。
73~77	PCH DXE の初期化 (PCH モジュール固有)。
78	ACPI Core の初期化。
79	CSM の初期化が開始されます。
7A~7F	AMI で使用するために予約済みです。
80~8F	OEM を使用する (OEM DXE の初期化コード) のために予約済みです。
90	DXE から BDS (ブートデバイス選択) へ位相を移行します。
91	ドライバを接続するためにイベントを発行します。

コード	説明
92	PCIバスの初期化が開始されます。
93	PCIバスのホットプラグの初期化。
94	要求されたリソース数を検出するためのPCIバスの列挙値。
95	PCIデバイスの要求されたリソースを確認します。
96	PCIデバイスのリソースを割り当てます。
97	コンソール出力デバイス(例 モニターが点灯)が接続されました。
98	コンソール入力デバイス(例 PS2/USB キーボード/マウスがアクティブ化される)が接続されました。
99	スーパー I/O の初期化。
9A	USB の初期化が開始されます。
9B	USB の初期化プロセス中にリセットを発行します。
9C	現在接続中のすべての USB デバイスを検出してインストールします。
9D	現在接続中のすべての USB デバイスをアクティブ化します。
9E-9F	予約済みです。
A0	IDE の初期化が開始されます。
A1	IDE の初期化プロセス中にリセットを発行します。
A2	現在接続中のすべての IDE デバイスを検出してインストールします。
A3	現在接続中のすべての IDE デバイスをアクティブ化します。
A4	SCSI の初期化が開始されます。
A5	SCSI の初期化プロセス中にリセットを発行します。
A6	現在接続中のすべての SCSI デバイスを検出してインストールします。
A7	現在接続中のすべての SCSI デバイスをアクティブ化します。
A8	必要に応じてパスワードを確認します。
A9	BIOS セットアップが開始されます。
AA	予約済みです。
AB	BIOS セットアップ中にユーザーコマンドを待ちます。
AC	予約済みです。
AD	OS ブート用のイベントを起動するレディーを発行します。
AE	レガシー OS を起動します。
AF	ブートサービスを終了します。
B0	ランタイム AP インストールが開始されます。
B1	ランタイム AP インストールが終了します。
B2	レガシーオプション ROM の初期化。
B3	必要に応じて、システムをリセットします。

コード	説明
B4	USB デバイスのホットプラグインです。
B5	PCI デバイスのホットプラグです。
B6	NVRAM のクリーンアップを行います。
B7	NVRAM を再設定します。
B8-BF	予約済みです。
C0-CF	予約済みです。

S3 レジューム

コード	説明
E0	S3 レジュームが開始されます (DXE IPL から呼び出される)。
E1	S3 レジューム用の起動スクリプトデータを入力します。
E2	S3 レジュームのため VGA を初期化します。
E3	OS は、S3 ウェイクベクターを呼び出します。

Recovery

コード	説明
F0	無効なファームウェアボリュームが検出された場合、リカバリーモードが実行されます。
F1	リカバリーモードは、ユーザーの判断によって実行されます。
F2	リカバリーが開始されます。
F3	リカバリー用のファームウェアイメージが検出されました。
F4	リカバリー用のファームウェアイメージがロードされました。
F5-F7	将来の AMI プログレスコード用に予約済みです。

エラー

コード	説明
50-55	メモリーの初期化エラーが発生しました。
56	無効な CPU タイプまたは速度です。
57	CPU が一致しません。
58	CPU のセルフテストが失敗したか、CPU のキャッシュエラーの可能性がります。
59	CPU マイクロコードが見つからないか、マイクロコードの更新に失敗しました。
5A	内部 CPU エラーです。
5B	PPI のリセットに失敗しました。
5C-5F	予約済みです。
D0	CPU 初期化エラーです。
D1	IOH 初期化エラーです。

コード	説明
D2	PCH 初期化エラーです。
D3	アーキテクチャプロトコルの一部が利用できません。
D4	PCI リソースのアロケーションエラーが発生しました。
D5	レガシーオプション ROM の初期化用のスペースがありません。
D6	コンソール出力デバイスが見つかりません。
D7	コンソール入力デバイスが見つかりません。
D8	無効なパスワードです。
D9-DA	ブートオプションをロードできません。
DB	フラッシュの更新に失敗しました。
DC	プロトコルのリセットに失敗しました。
DE-DF	予約済みです。
E8	S3 レジュームに失敗しました。
E9	S3 レジューム PPI が見つかりません。
EA	S3 レジュームの起動スクリプトが無効です。
EB	S3 OS ウェイクコールが失敗しました。
EC-EF	予約済みです。
F8	リカバリー PPI は無効です。
<F9>	リカバリーカプセルが見つかりません。
FA	無効なリカバリーカプセルです。
FB-FF	予約済みです。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとし、しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS (電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE (廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃棄物を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装 (運送用コンテナを含む) をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。



連絡先

• **GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.**

アドレス: No.6, Baoqiang Rd., Xindian Dist.,

New Taipei City 231, Taiwan

TEL: +886-2-8912-4000

FAX: +886-2-8912-4005

技術および非技術。サポート (販売/マーケティング):

<http://esupport.gigabyte.com>

WEBアドレス(英語): <http://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <http://www.gigabyte.tw>

• **G.B.T.INC. - U.S.A.**

TEL: +1-626-854-9338

FAX: +1-626-854-9326

技術サポート: <http://esupport.gigabyte.com>

保証情報: <http://rma.gigabyte.us>

Webアドレス: <http://www.gigabyte.us>

• **G.B.T.INC (USA) - メキシコ**

Tel: +1-626-854-9338 x 215 (Soporte de habla hispano)

FAX: +1-626-854-9326

Correo: soporte@gigabyte-usa.com

技術サポート: <http://rma.gigabyte.us>

Webアドレス: <http://latam.giga-byte.com>

• **Giga-Byte SINGAPORE PTE.LTD. - シンガポール**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.sg>

• **タイ**

WEBアドレス: <http://th.giga-byte.com>

• **ベトナム**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.vn>

• **NINGBO G.B.T.TECH.TRADING CO., LTD. - 中国**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cn>

上海

TEL: +86-21-63400912

FAX: +86-21-63400682

北京

TEL: +86-10-62102838

FAX: +86-10-62102848

武漢

TEL: +86-27-87685981

FAX: +86-27-87579461

広州

TEL: +86-20-87540700

FAX: +86-20-87544306

成都

TEL: +86-28-85483135

FAX: +86-28-85256822

西安

TEL: +86-29-85531943

FAX: +86-29-85510930

瀋陽

TEL: +86-24-83992342

FAX: +86-24-83992102

• **GIGABYTE TECHNOLOGY (INDIA) LIMITED - インド**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.in>

• **サウジアラビア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.sa>

• **Gigabyte Technology Pty. Ltd. - オーストラリア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.au>

- **G.B.T.TECHNOLOGY TRADING GMBH - ドイツ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.de>

- **G.B.T.TECH.CO., LTD. - U.K.**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.co.uk>

- **Giga-Byte Technology B.V. - オランダ**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.nl>

- **GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCE - フランス**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.fr>

- **スウェーデン**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.se>

- **イタリア**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.it>

- **スペイン**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.es>

- **ギリシャ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.gr>

- **チェコ共和国**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cz>

- **ハンガリー**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.hu>

- **トルコ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.tr>

- **ロシア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ru>

- **ポーランド**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.pl>

- **ウクライナ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ua>

- **ルーマニア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.ro>

- **セルビア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.co.rs>

- **カザフスタン**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.kz>

GIGABYTE Webサイトにアクセスし、Webサイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

- **GIGABYTE eSupport**

技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:

<http://esupport.gigabyte.com>

